

長野県松本市

*YOKOTA-HURUYASHIKI*

# 横田古屋敷遺跡

—第1・2次発掘調査報告書—

2012.3

松本市教育委員会

長野県松本市

*YOKOTA-HURUYASHIKI*

# 横田古屋敷遺跡

—第1・2次発掘調査報告書—

2012.3

松本市教育委員会



416



404



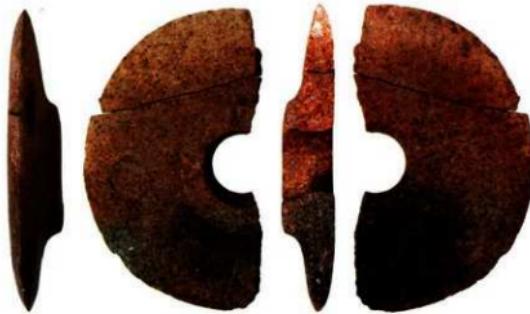
408



416 出土状況



54 出土状況



54 (環狀石斧)

## 例 言

- 本書は平成9年6月19日から7月14日と平成20年7月7日から8月11日にかけて行われた松本市元町2-22ほかに所在する横田古屋敷遺跡（よこた ふるやしき いせき）の第1・2次発掘調査報告書である。
- 第1次調査は遊技場（バチンコ店）建設に伴う緊急発掘調査であり、第2次調査は立体駐車場建設に伴う緊急発掘調査である。松本市が開発者から委託を受け、松本市教育委員会が発掘調査・整理作業等を実施した。
- 本書の執筆分担は次のとおりである。  
第Ⅲ章 3節 土器・土製品：直井雅尚、2石器：内田陽一郎、その他：吉井理
- 本書の作成・編集にあたっての作業分担は次のとおりである。  
遺物洗浄・接合：白瀬二三子、白鳥文彦 土器実測・トレース：竹平恵子、白鳥文彦  
石器実測・トレース：荒井留美子、石井佑樹、内田陽一郎、原田健司 自然遺物：パリノ・サーヴェイ株式会社（人骨）  
遺構図調整・整理・トレース：吉井 理、村山牧枝 地盤組：（遺構）村山牧枝（遺物）内田陽一郎、白鳥文彦  
写真撮影（現場）1次：澤井秀利、田多井用章、今村 克、荒木 龍 2次：三村竜一、吉井 理、横井 奏（遺物）宮崎洋一  
総括・編集：吉井 理
- 図中で用いた方位記号はすべて真北を指している。
- 本書で用いている任意座標（NS0、EW0を基準としたもの）は各調査時毎でそれぞれ基準を別にして記載している。  
なお、第1次調査時のグリッド数字は該当するグリッドの北東の1点を示している。
- 表中等で用いたグリッド握剣中の出土遺物は帰属する可能性がある遺構名を（ ）内に表記した。
- 本書の中で使用した遺構名の略称は次のとおりである。  
第〇号懸穴住居址→○住、第〇号土坑→土〇、第〇号獨立柱建物址→建〇、第〇号集石遺構→集〇  
第〇号平地式建物址→平建〇、第〇号溝状遺構→溝〇、第〇号ピット→P〇、第〇号墓址→墓〇  
住居址以外は年次鉛1番から付している関係で、土坑及び住居址外ピット、溝状遺構は略称も含め冠に次数を表記する。住居址内ピットは住居名を冠につけることで統一をした。
- 本書の中では遺構・遺物の細部を以下のスクリーントーンで表した。

焼土範囲：

炭化物範囲：

- 注釈は「〇〇<sup>(1)</sup>」上付き文字で表記し、総括の後ろにまとめて記載している。

- 本調査における出土遺物及び測量図・写真等の諸記録は松本市教育委員会が管理し、松本市立考古博物館に保管・収蔵されている。（〒390-0823 長野県松本市大字中山3738番地1 TEL: 0263-86-4710 FAX: 0263-86-9189）
- 石器の原稿、図及び表作成にあたって閑沢聰氏から指導、助言を得た。

## 目 次

### 第Ⅰ章 調査の経緯

第1節 調査に至る経過	1
第2節 調査体制	2

### 第Ⅱ章 遺跡の環境

第1節 地形・地質	7
第2節 歴史	10

### 第Ⅲ章 調査結果

第1節 調査の概要	12
第2節 遺構	13

### 第3節 遺物

1 土器・土製品	24
2 石器	47
3 出土人骨	66

### 第IV章 総括

第1節 積木木棺墓	72
第2節 集落と墓	75
第3節 まとめ	76

# 第Ⅰ章 調査の経緯

## 第1節 調査に至る経過

今回の調査地点は松本市元町 2-22 ほかにあたり、同敷地内にて 1 次調査を平成 9 年に、2 次調査を平成 20 年に行った。

本遺跡は昭和 57 年の分布調査<sup>(1)</sup>の際に弥生土器が多量に黒色土中から採集されており、周知の埋蔵文化財包蔵地と知られてはいたが、本格的な調査は今回が初めてである。

合併前の本郷地区では「古屋敷遺跡」と呼ばれ、既刊行の報告書の一部では<sup>(2)</sup>「元屋敷遺跡」として記載されている。松本市内には「古屋敷」という遺跡名が大村地区や中山地区にも存在しており、混同を避けるためにそれぞれ字名をつけることで区別をして、本遺跡は「横田」の冠を付し、遺跡名称を「横田古屋敷遺跡」とした。

第 1・2 次調査及び試掘・立会調査に伴う文書記録等は以下のとおりである。

### 平成 9 年度（第 1 次調査）

5 月 9 日 「市内遺跡に關わる開発行為に関する埋蔵文化財発掘届の提出について」 旧文化財保護法第 67 条の 2 第 1 項  
「土地所有者の承諾書」

6 月 16 日～ 横田古屋敷遺跡試掘調査実施。地表下 80～100cm で弥生時代の遺構・遺物を確認。  
「開発事業に伴う横田古屋敷遺跡の保護意見書」

6 月 17 日 「開発行為に伴う横田古屋敷遺跡保護協議」

「埋蔵文化財発掘調査通知の提出について」 旧文化財保護法第 98 条の 2 第 1 項  
「埋蔵文化財発掘調査実施について」

6 月 18 日 「横田古屋敷遺跡内開発行為に伴う埋蔵文化財発掘調査委託契約」 を締結

6 月 19 日～7 月 13 日 横田古屋敷遺跡第 1 次発掘調査実施

7 月 15 日 「市内遺跡に關わる発掘調査終了通知の提出について」

1 月 19 日 「市内遺跡に關わる埋蔵物発見届及び埋蔵文化財保管証の提出について」

2 月 26 日 「埋蔵物の文化財認定について（通知）」 9 教文第 185-28 号

3 月 31 日 「横田古屋敷遺跡埋蔵文化財発掘調査委託の完了報告書の提出について」

### 平成 12 年度

3 月 26 日 立体駐車場建設に伴う雨水浸透拡掘削の立会調査実施。遺物はなし。礫を含む土坑 2 基を確認。

### 平成 13 年度

5 月 9 日 立体駐車場建設に伴う基礎工事及び雨水・排水路掘削の立会調査実施

### 平成 20 年度（第 2 次調査）

4 月 25 日 「土木工事等のための埋蔵文化財発掘の届出書」 文化財保護法 93 条

5 月 14 日 「土地所有者の承諾書」

5 月 19～21 日 埋蔵文化財試掘調査（立体駐車場建設地）実施。地表下 130～165cm で遺構・遺物を確認。

5 月 28 日 「横田古屋敷遺跡に關わる保護意見書」

5 月 29 日 「埋蔵文化財試掘調査報告書（立体駐車場建設地）」

6 月 3 日 「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）」 20 教文第 7-129 号

7 月 1 日 「横田古屋敷遺跡内開発に伴う埋蔵文化財発掘調査委託契約」 締結

7 月 4 日 「埋蔵文化財発掘調査の実施について」

7月7日～8月11日 横田古屋敷遺跡第2次発掘調査実施

8月12日「発掘調査終了報告書」

「埋蔵物発見届及び文化財保管証の提出について」文化財保護法101条・108条並びに遺失物法

8月22日「埋蔵文化財認定及び出土品の帰属について」20教文第26号-67号

8月24～29日 埋蔵文化財試掘調査（遊技場建設地）実施

10月14日「埋蔵文化財試掘調査報告書（遊技場建設地）」

10月17日「横田古屋敷遺跡内開発に伴う埋蔵文化財発掘調査委託契約に関する変更契約」

10月21日「横田古屋敷遺跡内開発に伴う埋蔵文化財発掘調査業務委託完了報告書」

3月5日「出土文化財の譲与申請」

3月12日「出土文化財の譲与について（通知）」20教文第27-34～35号

整理作業：現場測量図と出土品の整理作業は平成22年4月から松本市立考古博物館において実施し、平成24年3月30日に発掘調査報告書(本書)を刊行することで完了した。

## 第2節 調査体制

### 平成9年度 第1次発掘調査

調査団長：守屋立秋（松本市教育長）

調査担当者：澤柳秀利、田多井用章、今村 克、荒木 龍

調査員：森 義直

発掘協力者：浅井信興、浅輪敬二、荒井留美子、石井脩二、入山正男、上兼昭一、大月八十喜、岡村行夫、上條道代、河上純一、神田栄次、清沢智恵、奥 寿義、齊藤政雄、高橋登喜雄、田中一雄、寺島 実、中村恵了、林 武佐、藤井源吾、藤井道明、藤本利子、布野行雄、布山 洋、牧 久雄、丸山喜和子、宮田美智子、三代沢二三恵、斐 國成、百瀬二三子、横山 清、古田 勝

事務局：松本市教育委員会文化課

木下雅文（文化課長）、熊谷康治（文化課長補佐）、村田正幸（文化財担当係長）、近藤 潔（主事）、山多井用章（主事）、川上真澄（嘱託）

### 平成20年度 第2次発掘調査

調査団長：伊藤 光（松本市教育長）

調査担当者：三村竜一、横井 奏、古井 理

調査員：森 義直

発掘協力者：井口方宏、石川一男、折井完次、清水陽了、丸山俊樹、百瀬二三子、待井敏夫、待井正和、宮沢文雄、渡辺啓之助、渡辺順子

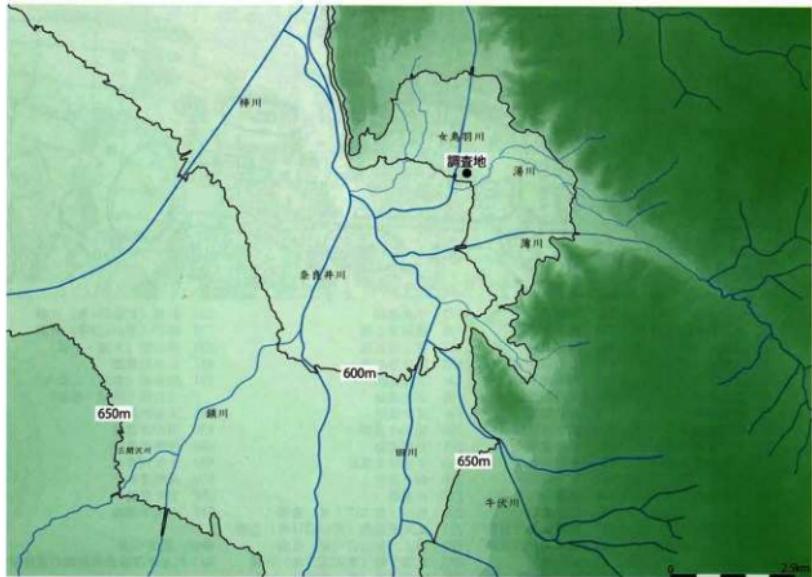
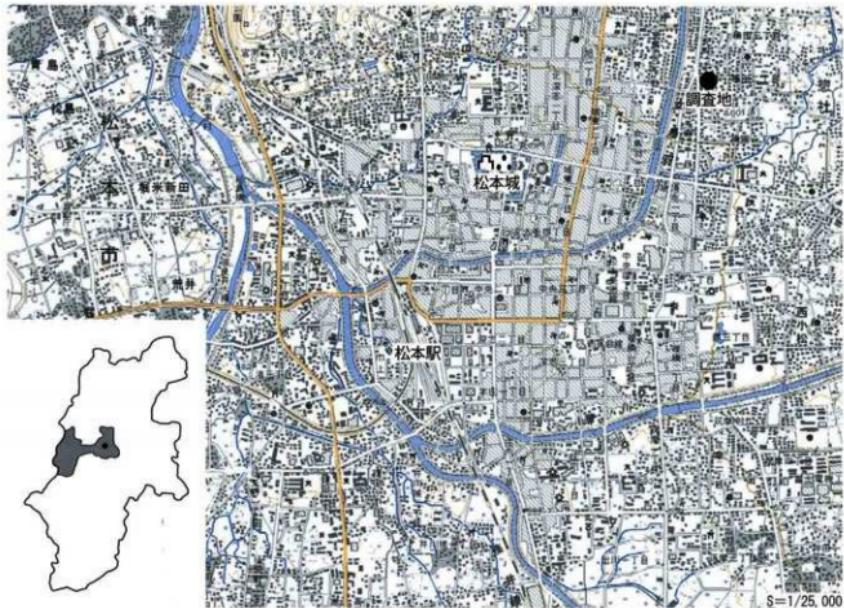
事務局：松本市教育委員会文化財課

小穴定利（文化財課長）、大竹永明（埋蔵文化財担当係長）、直井雅尚（主査）、櫻井 了（主事）、柳澤希歩（嘱託）

### 平成23年度 報告書刊行

事務局：松本市教育委員会文化財課

塙原明彦（文化財課長）、大竹永明（課長補佐 埋蔵文化財担当係長）、直井雅尚（主査）、柳沢希歩（嘱託）



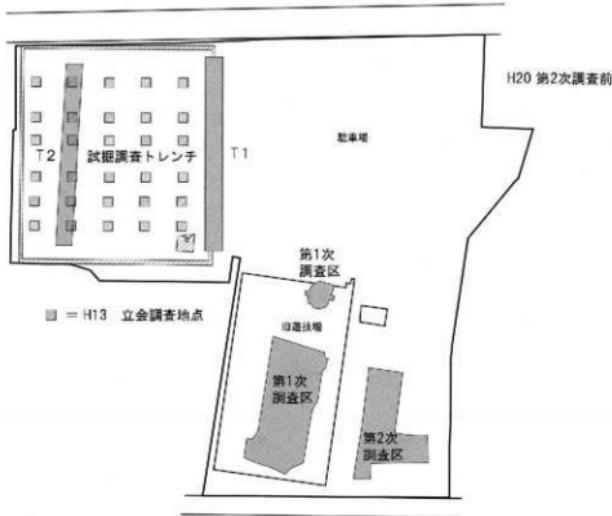
第1図 調査地の位置



73 大村遺跡	148 沢村遺跡	173 小島遺跡	225 針塚（里山24号）古墳
74 大村古層古墳	154 蟻ヶ崎遺跡	185 鶴頭塚古墳	230 鬼符（里山25号）古墳
75 大鰐原遺跡	155 田町遺跡	187 県1号古墳	233 林城址（大城・小城）
76 大村立石遺跡	156 女鳥羽川遺跡	188 県2号古墳	487 北小松遺跡
77 大村前田遺跡	157 松本城下町跡	194 下原遺跡	494 松本城（本丸・二の丸・三の丸・外堀・鹿鳴）
78 熊社遺跡	158 丸の内遺跡	195 新井遺跡	495 天神西遺跡
79 宮北遺跡	159 大名町遺跡	196 元町遺跡	496 向の宮遺跡
80 横田遺跡	160 四ツ谷遺跡	200 穂町遺跡	498 伊勢町遺跡
81 大村塚田遺跡	161 県町遺跡	201 針塚遺跡	499 土居尻遺跡
82 横田古墳群遺跡	162 本町南遺跡	209 千鹿胡北遺跡	500 片端遺跡
104 国司塚古墳	164 堀橋遺跡	210 御符遺跡	510 堂町遺跡
109 狩社車塚古墳	165 筑塚遺跡	213 林遺跡	516 小松下遺跡
123 大村新切古窯址	166 三才遺跡	220 荒町（里山辺1号）古墳	●印：調査地点
144 狐塚遺跡	167 筑摩北川原遺跡	221 北河原屋敷（里山辺11号）古墳	No.：松本市道跡台帳記載の追跡番号
145 旧村の塙西遺跡	168 筑摩南川原遺跡	222 巾上（里山辺10号）古墳	
146 元原遺跡	169 神田遺跡	223 大塚1号（里山辺12号）古墳	
147 沢村北遺跡	172 井川城址	224 大塚2号（里山辺3号）古墳	

第2図 局辺遺跡図

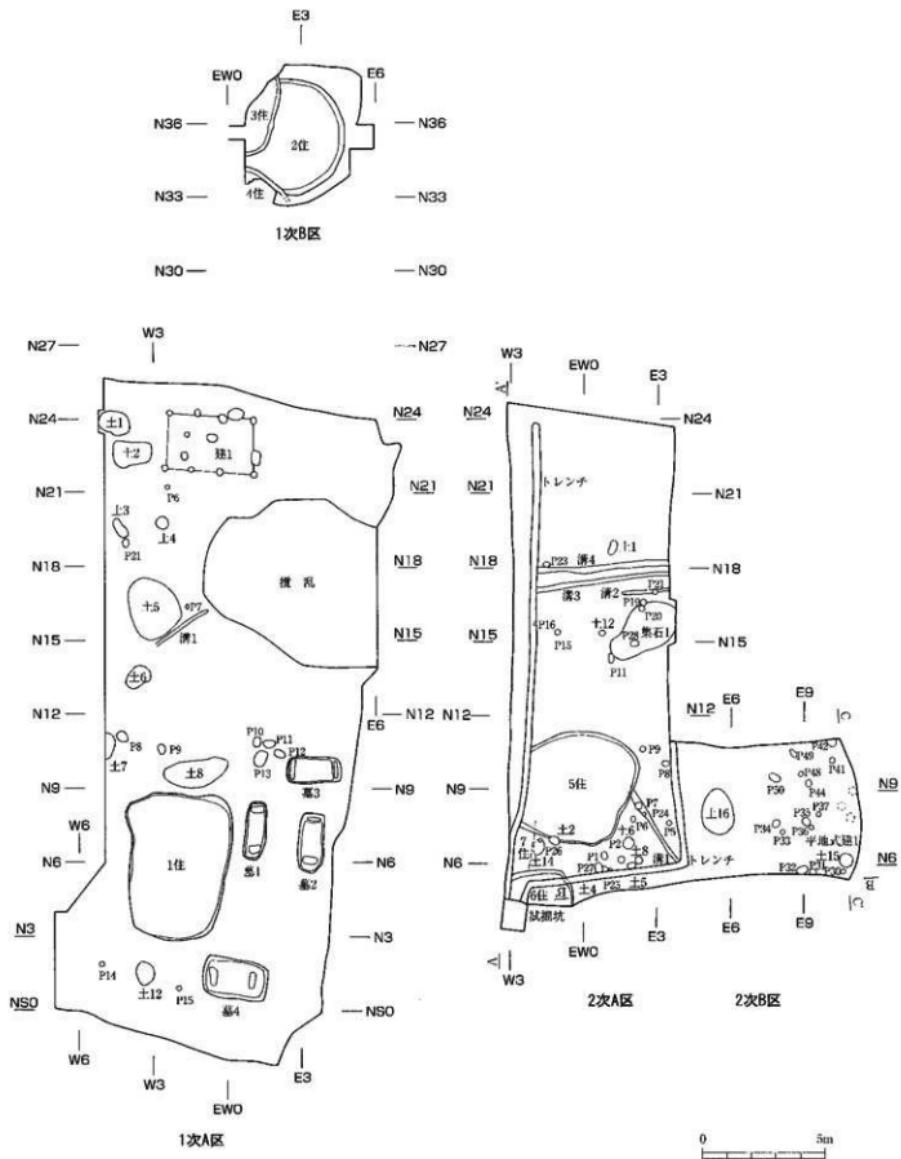
4



4



第3図 調査範囲図



## 第Ⅱ章 遺跡の環境

### 第1節 地形・地質

#### 1 本遺跡と河川との関係

本遺跡は松本市市街地の東の元町地籍にあり、松本市東部を形成した薄川による扇状地と、女鳥羽川による扇状地との境界にあたり、女鳥羽川から東に約230mのところに位置する。

薄川は三峯山の西側を源流とし鉢伏山の東北を通り、美ヶ原付近の水を集め入山辺地区から西流し旧松本市南端を流れて田川と合流している。薄川の特徴は下流で堆積物が異常に厚いことであり松本市一帯の地盤沈下など構造上の問題にも関係すると考えられている。堆積物は流域の岩石である緑色変質火山岩、石英閃綠岩、安山岩、玢岩などの礫を主体としている。薄川により形成された扇状地は、扇頂を入山辺地区南方付近とし、南は和泉川付近、北は清水付近の湯川を境として女鳥羽川の扇状地に接し、西は旧松本市の市街地に連している。

女鳥羽川は三才山付近に源を発して西流し、本郷の稻倉で南流に転じて松本市街地の北から流入する河川で、松本市白板付近にて田川と合流する。堆積物は上流で新生界第三系の内村層とそれに貫入した玢岩を浸食して流下するため、砂岩、玢岩などの礫が多い。女鳥羽川により形成された扇状地は、本郷の稻倉付近を扇頂とし、本郷や岡田に広い扇状地をつくり、湯川を境として薄川の扇状地に接し松本市の北部を形成している。

#### 2 遺跡の上層

**第1次調査** 調査区中央東壁、墓址付近の土層について概観する。VII層が本遺跡の遺構検出面にあたり、黄褐色土で現地表レベルから-130cm以下に堆積する。VI層が20cm堆積し、漆黒色土で弥生土器遺物包含層にあたる。V層も同じく20cmの堆積で色調は黒、古代の遺物包含層にあたる。IV層は黄褐色シルト質粘土、III層は粗砂の堆積で流理構造が顕著に確認され、II層黄褐色シルト質粘土となり、IV～II層(-20～-97cm)は弥生時代以降の流路の痕跡である可能性が高い。I層は表土及び搅乱となる。

#### 第2次調査(第5図)

A区西・南壁、B区東・南壁を図示した。

10～14層は弥生時代以前の堆積で褐色～暗褐色土、14層には流路堆積が認められた。

8・9層は弥生時代の遺構検出面で褐色砂質土、層中には炭化物の混入が認められ、1次調査のVII層にあたる。

5～7層は弥生時代の遺物包含層で、炭化物を含む黒色土が主で1次調査のVI層にあたる。

4～2層は古代以降の堆積で、部分的に遺構・遺物が若干認められたが生活面としての層を成してはいなかった。

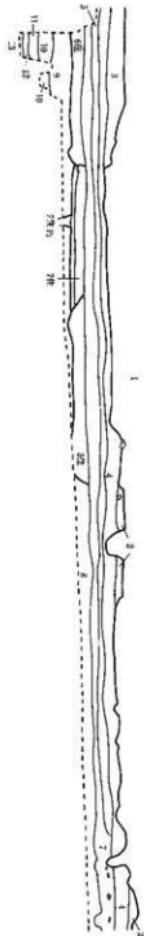
13・14層の存在から弥生時代以前に河川による氾濫があったことは明らかであるが、2層以下、9層までそのほとんどが水平堆積をなしており、1次調査区、大規模試掘調査時に見られた顕著な流理構造を持つ層や氾濫痕跡と思しき堆積が2次調査区では検出されなかつた。弥生時代以降の氾濫は1次調査地の範囲中に収まる可能性が高い。

#### 大規模試掘調査(第6図)

調査の結果、調査地には奈良～平安時代の遺物包含層である12・13層が部分的に残ることが分かったが、出土遺物はごく僅かに回収できただけである。2～11層中は幾度にもわたる流路堆積が確認でき、それらは平安以降の堆積と考えられる。なお、弥生時代の遺物包含層及び遺構は灰褐色砂礫層が破壊していると推定され、一切検出されなかつた。1・2次調査で確認されている弥生時代の遺構・遺物が発見されなかつたのは後世の洪水による影響が多いと考えられるため、岡の宮遺跡へと続くと想定される集落の連続性が確認されなかつただけであり、関連性がないとは断言することはできない。

調査区西壁

A

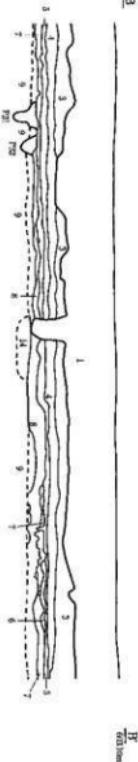


A  
60.0m

- 1 地中の地盤上、砂質、風化(風化少)
- 2 砂質土(砂質土+砂質粘土)
- 3 砂質土(砂質土+砂質粘土)
- 4 砂質土(砂質土+砂質粘土)
- 5 砂質土(砂質土+砂質粘土)
- 6 砂質土(砂質土+砂質粘土)
- 7 砂質土(砂質土+砂質粘土)
- 8 砂質土(砂質土+砂質粘土)
- 9 砂質土(砂質土+砂質粘土)
- 10 砂質土(砂質土+砂質粘土)
- 11 砂質土(砂質土+砂質粘土)
- 12 砂質土(砂質土+砂質粘土)

調査区東壁

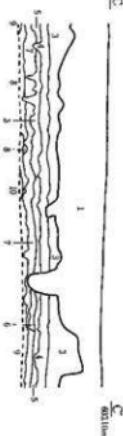
B



B  
60.0m

調査区東壁

C

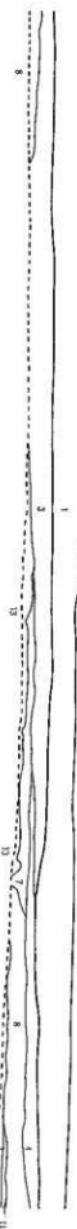


C  
60.0m

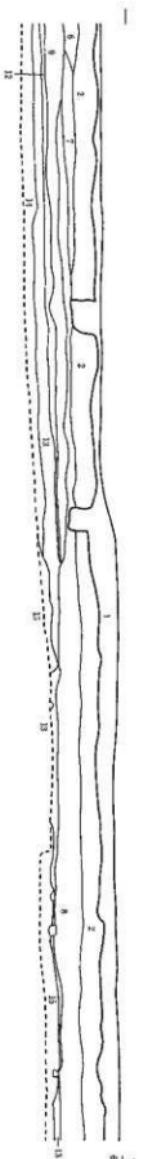
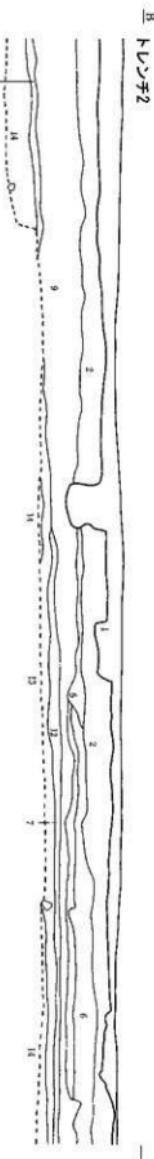
0 2m

第5図 2次調査区壁面の土層断面図

△ トレンチ1



△ トレンチ2



- 1 地下水位計 - 標高
- 2 背斜軸部 (谷)
- 3 斜面崩壊 (地盤崩壊)
- 4 斜面崩壊 (地盤崩壊)
- 5 斜面崩壊 (地盤崩壊)
- 6 斜面崩壊 (地盤崩壊)
- 7 斜面崩壊 (地盤崩壊)
- 8 斜面崩壊 (地盤崩壊)
- 9 剥離起因地帶 (剥離地帯)
- 10 剥離地帯 (剥離地帯)
- 11 剥離地帯 (剥離地帯)
- 12 剥離地帯 (剥離地帯)
- 13 剥離地帯 (剥離地帯)
- 14 剥離地帯 (剥離地帯)
- 15 剥離地帯 (剥離地帯)

0 2m

第6図 大規模試掘土層断面図

## 第2節 歴史

本遺跡周辺の弥生時代の遺構・遺物が発見されている遺跡を中心にして概観する。なお、遺跡名はゴシック体で表記し、「遺跡」は省略して記載する。(数字)は第2図に対応するもので、松本山遺跡台帳に登録されている遺跡番号である。

### 1 女鳥羽川流域

本流域の特徴は左岸一帯の微高地上には南北に連なる各時代の集落が展開する点、その背後に薄川扇状地北部から続く湿出地帯を有する点の二つが挙げられる。弥生後期後半になると大村古屋敷(74)、大村塙田(81)等に住居址が営まれる。大村古屋敷は20軒近い住居址が発見された規模の大きいもので、東方に広がる湿地帯を耕地とする場所に集落を構えている。女鳥羽川(156)・岡の宮(496)からは栗林式中段階(栗林2式)の上器が出土している。市内遺跡での当該期の上器群と比較すると、県町遺跡、百瀬遺跡の出土上器群より古く、栗林式の中では最古級に位置付けられている。

### 2 湯川流域

女鳥羽川扇状地と薄川扇状地の接する一帯である。縄文時代中期から古代まで大きな広がりをもつ遺跡が分布する。弥生時代では横田古屋敷(82)、四ツ谷(160)などがある。

### 3 薄川流域

扇端に位置する県町(161)はこの地域で最も規模の大きい遺跡で、弥生時代中期後半から古代まで集落址が断続的に継続され続ける特異な遺跡である。なお、扇尖部に位置する針塙からは弥生時代前期末の青葬墓が発見されている。弥生後期後半以降は集落も構えるようになり、塙の内(199)からは方形周溝墓も発見されている。

### 4 奈良井川・鏡川・三間沢川

本遺跡周辺ではないが、「宮測本村遺跡」「境窪遺跡」の2遺跡からは穂床木棺墓と考えられる土壙が検出されている。

宮測本村(153)は奈良井川右岸にあり、中期後半～後期の大集落址で80軒以上の住居址が発見されている。

鏡川西岸の扇状地に位置する、境窪(312)からは弥生時代中期前半の集落址が発見されている。集落内からは、平地建物址、掘立柱建物址、穂床木棺墓、再葬または乳幼児墓と考えられる土器棺墓、土坑墓が検出されている。

### 5 松木市内の穂床木棺墓

#### 『宮測本村遺跡－遺構編－』松本市文化財調査報告No.45、1986年

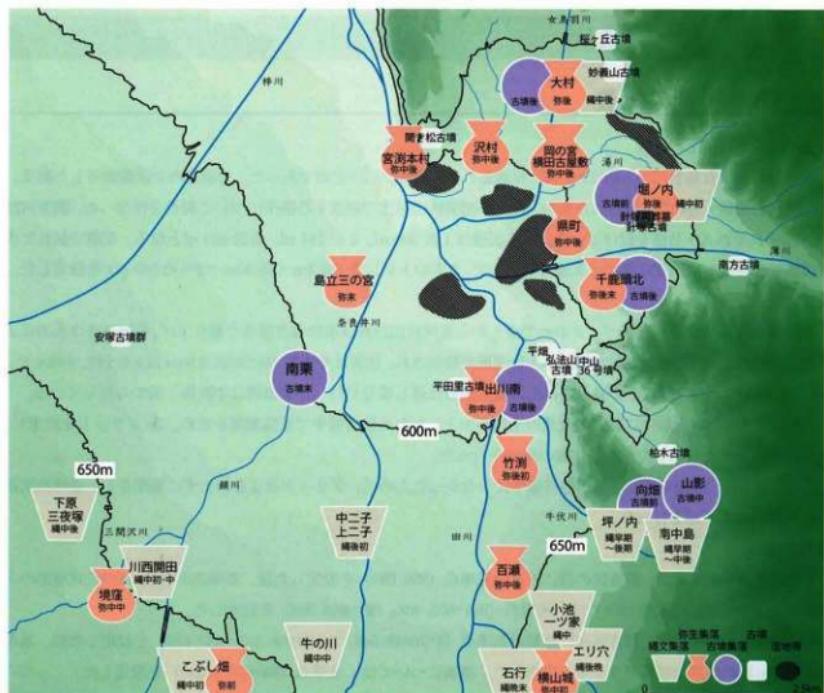
報告書掲載名は土坑25であり、穂床木棺墓と認識をして調査を行っていない。「II区南部に位置し、第18号住居址を切っている。また、土坑東辺中央部から第18号住居址北東コーナーにかけて集石4によって切られている。長軸N-2-W、210×70cmの隅丸長方形プランの土坑である。覆土から床面にかけて、5~25cmの大の礫を大量に含んでいる。」本址は、規模、プラン、礫の出土状況などから、穂床木棺墓の可能性を持っている。

#### 『宮測本村遺跡III－遺構編－』松本市文化財調査報告No.77、1989年

上坑301・302・304・319・320・321の6基が該当する。

#### 『境窪遺跡・川西開田遺跡I・II』松本市文化財調査報告No.130、1998年

穂床木棺墓はB区中央、建7の北方で検出され、東西に長軸をとる長さ120×100cmの長方形の墓壙である。覆土は小円礫を多量に含み、その上面付近から少量の人骨片と土器片が出土したことから穂床をなしていたと考えられる。また、墓壙の東西壁下、木棺小口板部分は底面を一段低く掘り産めていることから想定される木棺の大きさは長さ1m、幅0.8m程度である。



縦文中期に爆發的に増えた集落が縦文後期から弥生前期にかけて激減する

⇒全国的にみて縦編晩期から寒冷期に入ることに影響すると考えられている  
改めて中期になると、气温傾向がやや下り気温を示す。これは後半。

「半作川」の普及に便い、各地百十規模な集落が生まれるようになる。

→ 条約の普及に伴い、各地で大規模な薬局が営まれ  
歴史時代中期頃～末期頃における薬局数が増加する

二、寄宿した金銀を水田利用不賃借！ 人口が増加

上記の2遺跡は周辺遺跡を包括する形で図示した

第7図 松本の縄文時代から古墳時代までの集落変遷

# 第Ⅲ章 調査結果

## 第1節 調査の概要

### 調査地の設定（第1・3図）

調査対象地は女鳥羽川から約230m東に位置し、1次調査以前は宅地であった。対象地内を試掘調査した結果、弥生時代の遺構・遺物が確認されたため、掘削が遺構検出面まで到達する箇所について調査を行なった。調査区は1・2次それぞれA・B区を設けている。調査面積は1次306m<sup>2</sup>、2次157m<sup>2</sup>、合計463m<sup>2</sup>となる。前章で触れた大規模試掘調査は2次調査に次いで実施したもので、2本のトレンチ（幅3m×長40m×約240m）を設定した。

### 調査方法

発掘調査は大型建設用機械バックホーで表土から遺構検出面及び遺物包含層まで掘り下げ、それ以降は人力による調査を行った結果、各調査区全域で弥生包含層が検出され、住居址や土坑（検出時直径50cm以上を土坑、未溝をピットとして扱った）、礫床墓などが発見された。堅穴住居は通し番号で付し、他遺構は年次毎1番から付している。

1次調査では、包含層中において大量の土器が出土したため包含層中で重機掘削を止め、3mグリッドを設定し、遺構検出が可能な深さまでグリッド毎の掘削を行った。

2次調査では、回収可能な遺物が包含層中に少なかったために、グリッド設定を行わずに掘削をし、遺構検出後には各遺構の掘り下げを行った。

### 測量方法

1次調査の平面測量は、調査区の南に任意の基準点（NS0.EW0）を設定した後、基準点から3m毎の任意座標のグリッドを設定した。標高については、水準点（BM1=602.408、BM2=603.308）を設定した。

2次調査の平面測量は、調査区南に測量用基準点（X=26648.545、Y=-46168.352：NS0.EW0）を設定した後、基準点から3m毎の任意座標のグリッドを設定した。標高については、水準点（BM=602.292m）を設定した。

1・2次調査共通して、遺構図・出土遺物図の測量は簡易造り方測量で行い、遺構配置図を1/100、土層・遺物出土・完掘図を1/20、詳細が必要なものについては1/10で作成した。なお、掲載している任意座標は1・2次、それぞれ独立した座標である。

### 調査成果

1・2次調査の発掘及び整理作業の結果、堅穴住居址7軒（弥生時代）、掘立柱建物址1軒、平地式建物址1軒、土坑・ピット72基、溝状遺構5条、礫床木棺墓4基、集石遺構1基の遺構と、弥生時代～奈良・平安時代にわたる遺物が確認された。その概要是巻末の発掘調査報告書抄録に掲載している。

### 調査年次毎の検出遺構

1次：堅穴式住居址4軒、掘立柱建物址1軒、土坑・ピット26基、溝状遺構1基、礫床木棺墓4基

2次：堅穴式住居址3軒、平地式建物址1軒、土坑・ピット46基、溝状遺構4基、集石遺構1基

### 回収できた遺物量及び主な遺物

	土器	石器	主な遺物
1次遺構外	133,692g	8,698.9g	太音盞、短頸壺、台付甕、鉢、有孔土製品、磨斧、打斧、磨盤、打穀、砥石、圓・敲・磨石
1次遺構内	110,111g	50,466.4g	高平・壺、短頸壺、瓶、甕、台付甕、鉢、注口状土製品、土製紡錘車、土製耳飾り、環狀石斧、磨製石扁丁、磨斧、打斧、磨盤、打穀、石錐、砥石、圓・敲・磨石、有孔石製品
2次遺構外	12,396g	796.5g	直口壺、壺、甕、鉢、磨斧
2次遺構内	12,250g	15,046.9g	壺、甕、台付甕、瓶、磨盤、打穀、石錐、砥石

(2次遺構内の出土石器は12400.0gの砥石1点を含む)

## 第2節 遺構

各遺構の規模・主軸方位・平面形・炉・柱穴・遺物出土状況・時期・所見等については一覧表を参照されたい。

1 住居址（第1・2表、第8・9・12図） 弥生時代中期後半～後期の住居址7軒が検出された。

**平面形態** 平面プランが把握できた住居址は円形2軒と隅丸長方形1軒、1・2・5住の計3軒である。形態・柱配置・炉などのプランから、1住は後期に、2・5住は中期後半～末に位置づけられる<sup>⑨</sup>。なお、3住は検出されたプランのコーナーから隅丸長方形を示すと推定される。

**規模・方位** 1・2・5住の規模は直径（長辺）が4.5～4.9mを測り、概ね近似する。面積は1住が21.6m<sup>2</sup>と若干大きいか、平面形態に拘るものと考えられる。柱底はいずれの住居址も20～30cmを測り、柱穴規模の差異は特にみられない。主軸方位は遺構形態に関わらず、概ね北を指向する。

**炉** 本次調査で検出されたものは遺構形態に関わらず、いずれも円形で径40cm前後を測る地床炉である。5住及び6住は2基の炉を有する。

**柱配置** 1住は形態が長方形で6か所の柱穴、2住は方形で計6か所の柱穴、5住は方形で4か所の柱穴が検出された。3種3様であるため、形態と柱配置の規則性までは言及できない。壁際の支柱穴等は検出されなかった。

**覆土** 住居址覆土は主に暗褐色粘質土～黒褐色粘質土であった。人為的な埋め戻しと考えられる遺構覆土はみられず、炉址外の炭化材及び焼土は覆土、ピット内から微量に検出されたのみである。

**床面** 硬化面が検出されたのは2・6・7住の3基である。しかし、6住は壁面観察でのみの検出であり、7住は遺構プランが不明瞭であるため、遺構形態と床面の関係性は追究できない。なお、2住の硬化面は柱穴の内側から検出されている。

**その他屋内施設** 2・3・4住は切り合い関係にあり、それぞれ周溝を有している。

**出土遺物** 出土土器量の面からみると2住が突出して多く52,049gのもの十器が出土している。次いで1住が19,618g、5住が8,458gを量る。環状石斧は2住から出土している。

**分布状況** 縁辺に墓域を造営していたとすれば、1住と5住の間に礎床木棺墓群が築造されていることから住居址支群が少なくとも2つ以上存在していたことが推測される。特に集落と墓域の関係については第IV章総括において述べることにする。

### 2 平地式建物址

**第1号平地式建物址**（第4表、第13図） 本址の土坑・ピットは全て2次調査分なので年次数表記は省略する。

2次B区東端部にて多角形に配置された柱穴列や住居址と同規模の地床が検出され、掘り込みが確認できなかつたことから平地式建物址とした。

炉址は火床面が明瞭に残る3基が検出され、焼土の遺存状態から同時期に使用されていたと考えられる。

本址を構築していたと推測される柱穴はP31・33・34・37・41・42・48・49・50、土15の10基である。規模は30cm前後を測るものが多く、深さは検出面から20～30cmを測るものが多い。柱間隔は2.0～2.4mを測る。

炉址を中心とした場合、東半が調査区外にあることになるので柱配置の全容について明言はできないが、炉址を中心的に据えた八角形の平地式建物址を想定し、P31・33・42・48の4基を主柱穴、他6基を支柱穴とした。主柱穴群と支柱穴群のほとんどが円形または円に近い橢円形状であるが、P49だけは長楕円形状を示している<sup>⑩</sup>。板状の柱であったか、2本の柱をならべていたと考えられるが、堆積状況からは判然としなかった。

本址の主柱穴としたP42の底から逆位の底底部(41)が半分に割れた状態で出土した。

確実に平地式建物址に帰属する出土遺物はほとんど認められないが、他の遺構と同一の検出面において生活痕跡が確認できたことから5住などと同時期にあたる弥生時代中期後半～末の建物址と推定される。なお、平地式建物址の特徴の一つである周溝は検出されなかった<sup>⑪</sup>。

**古墳時代土器出土地点** 2次A区北部に位置する。弥生包含層の上層から集中的に土器が出土した。これらの土器は古墳時代前期又は中期に位置づけられるが、遺構形態は不明瞭で捉えることができなかった。

### 3 挖立柱建物址（第3表、第9図）

**第1号掘立柱建物址** 1次A区北部、1件と2件の中間に位置する。柱穴列のほぼ中央の地点に炉址が検出されたことから、地床式住居址と考えられる。しかし、検出の段階で竪穴式住居址を床面まで削平してしまった可能性もある。なお、柱穴内出土遺物と、柱穴列内外の出土遺物は柱穴列に開まれた範囲内包含層出土及び建物址周囲出土遺物として本址に帰属させている。出土遺物等から弥生時代中期後半～末の建物址と推定される。

### 4 積木棺墓（第5表、第10・11図）

1次A区南部から4基の積木棺墓が検出された。墓1・3は1件東方に匁の字状に配置され、墓4は1件南方に位置する。墓1・2は主軸を南北にとって並列し、墓3・4は2基に対して直交方向である東西に主軸をとる。

径5cm～10cm以上の大小様々な亜円彫が、十坑外周、覆土中、床面等から大量に検出された（本報告では碎屑性堆積物の粒径区分を参考に、径5cm前後を中疊、径10～20cm前後を大疊、それ以上を巨疊とした）。いずれの墓址も穂床には中疊を土体的に用いている。出土した弥生土器は4基共に中期後半～末に位置づけられる。

以下、疊の検出状況、小口穴の状況等を記載する。

**第1号墓址** 本址の土坑部分については非常に浅く、検出時の確認状況において既に棺床面が確認されている。しかし、土坑周囲に配置された疊集積の在り方から、十坑上部を削平されたとは考え難い。したがって、深く掘り込んで埋葬されたのではなく、盛土をして埋葬するという形態をとったと考えられる。

小口穴は北・南共に土坑下端から20cmほど内側の位置に検出され、南端部のテラス状の段からは大疊が検出されている。20cmの幅をもつテラス状の段は北端が棺床より10cm程高く、南は棺床とほぼ同じ標高を測る。また、北小口中央からは外に向かって中疊が多く検出され、南小口内中央からは大疊が多く検出されている。小口穴内から出土した疊は木材が腐朽した時の崩落による可能性が否めないが、小口板の裏込め石として扱えられた可能性も十分に考えられるだろう。

遺物は土坑周囲の疊集積に混じる様に山上しているものが多く、特に南側から森の大形破片(207・214・215)が出土している。

**第2号墓址** 本址はグリッド調査時に付近の疊を取り上げてしまったため、疊集積の出土状況が不整形なものになっている。図示した疊範囲は、本来の疊集積の形態とは若干異なってしまう。

墓1と同方位を主軸とし並列するが、本址は40cm以上掘削した深さで棺床面が検出された。両者の遺構深度が示すにかく具体的に言及することはできないが、土坑深度の他、穂床の厚み・疊範囲面積・十坑面積等、本址の方が若干大きい規模をもつ。遺構規模の大小のみで論じることは、憶測と成り得るが、あえて埋葬形態から上下関係を推し測ると墓2と墓1と考えられるだろう。

小口穴間の範囲と検出時に疊が出土しなかった中央部の範囲がほぼ合致するため、この部分が遺体安置場と推定される。北端は土坑掘り方から小口穴底部までテラス状の段が確認されなかったが、南端は墓1の様にテラスが設けられていた。そのテラスは棺床面より10cm程低いが、疊は棺床面と同レベルから20cm程高い箇所まで疊を敷きつめていた状況が検出されている。以上のことから勘案すると小口穴を端部として、遺体を安置していたことがうかがえる。遺物は墓1同様に上坑周囲の疊集積に混じる様に遺物が多数出土した。特に、検出時に疊集積が少なかった北側に壺・甕の大形破片(197・203・205)が集中していたほか、中央から大疊1点が検出された。

**第3号墓址** 本址の特徴は東と西の2か所に疊集積が分断されていること、側部の疊集積が認められなかったことが挙げられ、想定される木棺周囲にも疊集積が存在しないことになり、他3墓とは異なる。

墓1同様に上坑深度は浅く、盛土を伴う埋葬が想定される。密度の高い疊集積は小口板の倒壊防止用と考えられるが、小口穴～中央にかけての木棺が安置されていた位置からも疊の出土が認められ、これらは土坑の上端と

ほぼ同様高地点にて検出されている。したがって、盛土状埋葬でかつ蓋板が存在していたことを前提にした場合に、木棺部が腐食して陥没したことを加味すると、木質部上に積載されていた礫や外側に積まれていた礫等も含まれると考えることが妥当であろう。なお、本址は土坑周囲の礫集積が墓 1 と比べて少ないため、土坑上部が削平されたと仮定することは容易であるが、他墓と同時性を想定している以上、同層埋面から検出されている墓 1・2 の礫集積の状況から、積極的にその可能性を追求することは不適当と考えられる。

東端ではテラスが確認されず、西端には幅 10cm 程のテラス状部分が確認されている。テラスと棺床面はほぼ同じレベルを測る。墓 2 と同じく、東端の小口穴と土坑形態の関係から小口穴を端部とする遺体安置場が想定される。

遺物は西側の礫集積に混じる様に集中して壺・甕・鉢の大形破片(224~228・230~235・238~240)が出土している。ほかに、東部礫集積の南から十製耳飾(211)が 1 点出土している。

**第4号墓址** 本址は他 3 墓と比較すると 1.5~2 倍の面積を有する大型墓址である。

礫集積の配置は東西に大礫(間隙を中礫以下の大礫で充填する)、南北に中礫の割合が多い。検出時中央部では中・大礫の出土が比較的少なく、墓標の役割を担っていたと考えられる巨礫が 5 点重なりあうように出土している。巨礫は礫床の最も上面である棺床面に接するように出土している。

棺床は棺床面へ小口穴検出面まで中礫が約 30cm と厚く堆積し、木棺構築材固定の役割も兼ねていたものであろう。本址の礫床は中礫のみではなく、部分的に大礫も混じる。特に小口穴の開口から上坑の下端までは大礫が集中的に出土した。

棺内にゆとりをもたせた遺体置き場を想定すると土坑に見合う安置場が構築されたことも考えられるが、礫の出土状況から他墓と同様に小口穴を端部とした遺体安置場が設けられていたと推測される。

本址は他墓よりも骨片の遺存状態が良好であったため、土砂の無い分け作業を行った結果、人骨片約 2kg を回収することができた。ほか、磨製石器 1 点がみつかったが、玉類等の発見には至らなかった。

#### 5 土坑・ピット(第 6・7 表)

総数は 72 基、1 次は上坑 9 基・ピット 17 基、2 次は土坑 10 基・ピット 36 基である。分布をみると 5 住～平建 1 の間に多くが密集している。遺物が出土した土坑の数は極僅かに過ぎず、また、切り合ひから時期を推定できるものも少ない。以下特徴的な土坑について、記載していく。

1 次 第 1 号土坑(第 9 図) A 区北西に位置する。頭部の欠損した壺(117)が出土し、その底部に穿孔が観察された。祭りが行われた可能性を踏まえ、墓址の可能性を考慮して調査を行ったが、骨等は検出されなかった。

1 次 第 2 号土坑(第 9 図) 1 次土 1 の南に並列し、鉄分が多量に入る土坑である。墓址等の可能性を踏まえて調査をおこなったが、骨等は検出されなかった。

2 次 第 16 号土坑 5 住～平建 1 の間に位置する。主な覆土は青灰色粘土層で、その下層に集積層が 1 枚認められ、本址底面から鉄分が付着する礫が多数検出された。これらのことから本址は井戸址と推定される。なお、本址覆土から灰釉陶器小杯が 1 点出土していることから本址埋没時期は平安時代後期以降と考えられる。

#### 6 溝状遺構(第 8・9 表、第 13 図)

5 基が検出された。1 次溝 1 は調査区中央検出され、非常に浅く幅も狭い。規模・方向からは区画溝とは考え難い。2 次溝 1 は住居内で途切れるが 5 住に切られている。2 次溝 2~4 は調査区北部に平行に並ぶ一群として捉えることができる。いずれの溝も出土遺物が乏しく、滯水や流水痕跡はなく性格は不明である。

#### 7 集石遺構

**第 1 号集石遺構(第 13 図)** 積の範囲は 3.2×2.0m を測り、深さ 10cm を測る土坑に伴って検出された。構成する礫の密度は低く散在しており、φ 10~20cm の礫が主体的に用いられている。礫は覆土上層で検出された 1 例のみで礫下には灰褐色砂質土の堆積が認められた。なお、小口穴は検出されていない。人為的な集石と考えられるが、墓址である可能性は低く、性格は不明である。

第1表 1次住居址一覽表

（）は數値、深さは検出面からの最大値を示す

第2表 2次住居址一覽表

固 化 編 號	地 區	平 面 形	規 模(cm)		床面積 (m <sup>2</sup> )	長軸 方位	爐形態		主柱穴	遺構所見	時期
			長軸×短軸	深さ			種類・位置				
5住	A	円形	454×(432)×26		17.0	N-22-E	地床炉 2基 中央 径40cm 1基火床面が「ナツ 状	4基 P3-6. S-12	7月を切る、2基ある地床炉は切りあう関係を持ち、後土の 宿存状況と出土の堆積状況から炉2を作り替えて炉1を構 築したと考えられる。即ち1切りあう関係をもつP1-P6は恐らく P1+2使用時の古い炉の物ぬき窯と思われる。炉2の上面で 窓(415)、北面には小窓(404)が、両面とも横木も残る 状態で出土。北面からは鐵瓦石(90)が出土している。 P1は鉄瓦14基が出土されたが、P2 4-7-9-1105号は掘 て廻り、並みに埋積した土壌とえらぶるため、大きさとし ては、並みに埋積した土壌とえらぶるため、大きさとし ては、	弥生 中期 後半	
6住	A	不明	260×(138)×13		3.2	N-6-W	地床炉 2基 中央 径40cm	不明	7月を切る、炉2は2基とも床面で横接された、等高が出土 しかねないところ地盤と接觸する。おそらく、地盤と同 程度の高さの炉2がある。炉2は3基掘出されたが、 穴穴詰めされるもののが多かった。P1は鉄瓦の大形である。 後(性格は不確明である。	弥生 中期 後半	
7住	A	不明	180×80 (硬化面範囲)		1.3	不明	不明	1基 P2	6月に砌成した。大半は壁面外で、9住、6に切られた直 接接続した。炉2は、壁面は瓦葺及び土葺の壁面に おいて前壁に接するところ、床面を共用する、即ち2つに 分離して設置された。P1から12多量の瓦化焼物が出土され ており、炉2の存在が考えられるが、炉2は壁面は接続さ れておらず。	弥生 中期 後半	

第3表 1次掘立柱建筑物址一览表

(教育)传播官德-《教育》传播道德

No.	固 定 区 域	地 区	平面形 柱配 り	主軸方 位 面積(m <sup>2</sup> )	規 模 (cm)	柱間寸 法 (cm)	柱穴			炉 形態 位置	備 考	時 期
							平面形	規 模(cm)	柱 徑			
I	A	方形 側柱式	N-87-W 7.8	3闕×1闕 344×224	344×224	柱行120~160 梁間220~240	方形 円形	30~40		地床炉 中央	地床式植物炉。または竪穴式住 居を複数個の間に解消した か。	生 中期 中後 期

第4表 2次平地式建物址一覧表

No.	図 No.	地区	平面形	主軸方位 面積 (m <sup>2</sup> )	規模 (cm)	柱間寸法 (cm)	柱穴				炉 形態、 位置	備考	時期
							平面形	主柱穴	支柱穴	柱底			
1	B	八角形	N-84-W 突出面積 12.04 全体面積 (25)	542×284	170~250	円形 一部梢円	P31·33·42·48	土15·P34·37 P41·50·49	有	地床炉 中央 3基	壁面修理に付いて 炉底をめぐらすなさいと を記載している。柱穴 と炉底のみが残り抜き られた後、平地式爐 物置とした。	先生 中原 後半	

第5表 碓床木棺墓一覧表

墓 No.	平面形	細胞面 規模(cm)			細胞積		細床厚 み (cm)	土坑規模(m)				推定木棺 規模(cm)		主軸方位	埋葬 頭位	時期	
		長	幅	細胞面 面積(m <sup>2</sup> )	土坑 面積	木棺 面積		長	幅	上端～細床 比高(平均)	土坑面 積(m <sup>2</sup> )	細胞積 (m <sup>3</sup> )	長	幅			
1	長方形	2.6	1.4	3.64	四方	あり	7	2.3	0.8	0.05	1.84	1.54	1.6	0.5	N-4-E	北or南	弥生中期後半
2	長方形	2.7	1.5	4.05	四方	あり	15	2.3	1.0	0.16	2.30	1.76	1.6	0.6	N-6-E	北or南	弥生中期後半
3	長方形	2.3	1.2	2.76	両端 なし	なし	10	2.2	1.0	0.04	2.20	1.80	1.8	0.7	N-8-E	東or西	弥生中期後半
4	長方形	2.8	2.1	5.88	四方	あり	30	2.6	1.6	0.20	4.16	2.99	1.5	0.7	N-9-E	東or西	弥生中期後半

第6表 1次土坑・ピット一覧表 (数字) 残存値

土坑	No.	平面形	規模(cm)		備考
			最大長×幅×深		
1	横円	128×92×24			基址か
2	長方形	156×94×16			基址か
3	横円	88×34×22			
4	円	50×50×13			
5	横円	260×200×11			
6	横円	108×70×15			
7	横円	(110)×(40)×(24)			調査区外にかかる
8	横円	260×110×6			
12	横円	100×70×15			
	1	円	43×36×8		建1 ピット
	2	円	22×22×8		
	3	円	35×30×10		
	6	円	22×18×22		
	7	円	17×15×15		
	8	円	50×40×9		
	9	円	40×30×21		
	10	円	42×32×12		
	11	円	48×34×11		
	12	円	44×34×10		
	13	横円	70×50×9		
	14	円	24×20×-		
	15	円	22×21×-		
	20	円	70×52×5		
	21	横円	36×28×14		
	22	円	26×24×26		建1 柱穴
	23	円	30×24×15		建1 柱穴

第7表 2次土坑・ピット一覧表

土坑	No.	平面形	規模(cm)		備考
			最大長×幅×深		
1	横円	64×30×11			
2	横円	44×34×7			
4	不明	(28)×(28)×(22)			P27に切られる
5	横円	38×24×52			柱穴か
6	円	50×42×30			柱穴か、横出面で出土
8	円	36×33×32			
12	円	28×28×29			
14	円	(80)×(38)×32			P28に切られる
15	円	54×54×42			平建1の柱穴
16	横円	184×130×89			平安時代の井戸址
1	円	29×28×25			
2	円	28×26×25			
5	円	20×20×21			
6	円	24×23×27			
7	円	34×30×33			
8	円	30×24×22			
9	円	22×22×24			
11	横円	36×24×30			
15	円	24×24×20			
16	円	12×(12)×12			
19	円	26×24×26			
20	円	22×20×26			
21	円	24×22×20			
23	円	24×24×19			
24	円	16×16×6			
25	円	(14)×(10)×24			
26	円	12×16×18			土14を切る
27	円	40×32×16			土4を切る
28	円	36×33×7			
30	円	20×18×8			
31	円	28×(20)×27			平建1の柱穴
32	横円	47×(30)×10			
33	円	20×19×12			平建1の柱穴
34	横円	38×28×24			平建1の柱穴
35	横円	38×34×16			
36	円	21×19×7			
37	円	22×18×33			平建1の柱穴
38	円	35×34×8			平建1の炉址
39	円	33×33×10			平建1の炉址
40	円	(38)×34×8			平建1の炉址
41	円	26×22×34			平建1の柱穴
42	円	40×(32)×60			平建1の柱穴、底面で土器出土
44	横円	32×24×9			
46	円	18×18×14			平建1の柱穴
49	長横円	42×20×25			平建1の柱穴
50	横円	50×28×25			平建1の柱穴

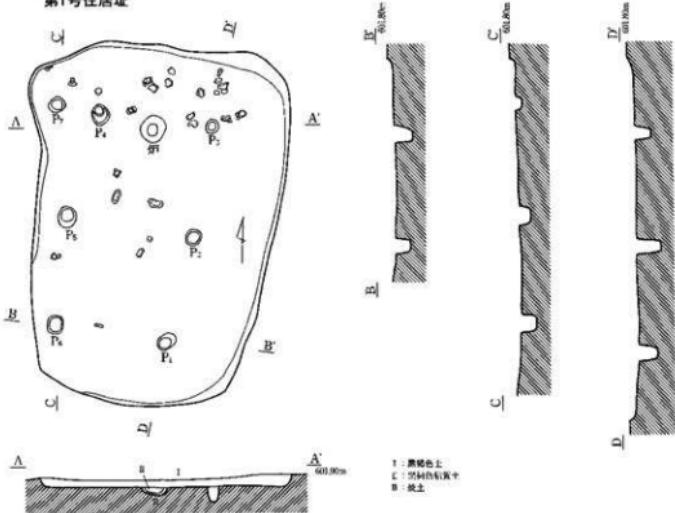
第8表 1次溝状遺構

No.	方向	規模(cm)	長×幅×深	備考
1	N-45-W	240	14×4	

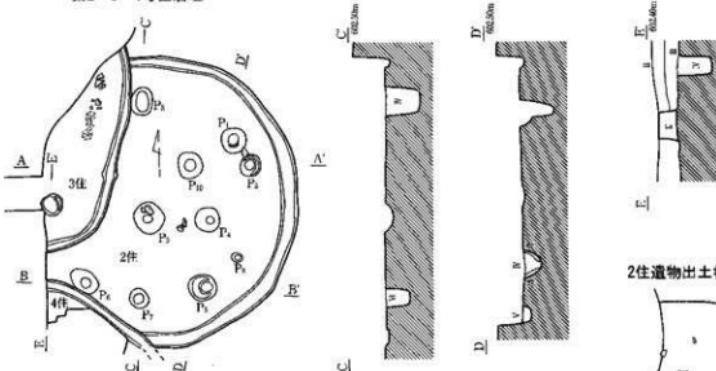
第9表 2次溝状遺構

No.	方向	規模(cm)	長×幅×深	備考
1	N-35-W	445	30×10	5住に切られる
2	N-84-E	200	17×7	
3	N-84-E	540	22×10	2-3-4は平行に走る。
4	N-84-E	540	35×11	

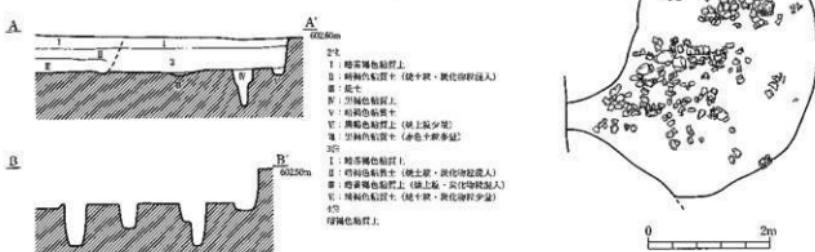
第1号住居址



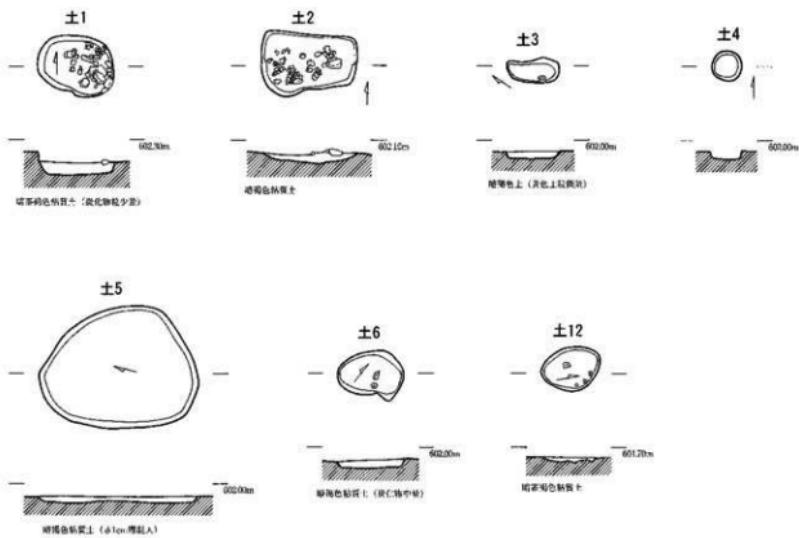
第2·3·4号住居址



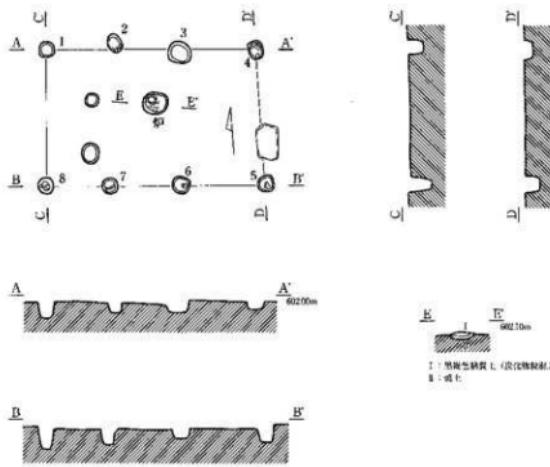
## 2住遺物出土状況



第8図 1次構造(1)

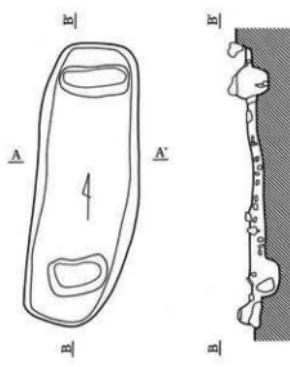


#### 第1号掘立柱建物址

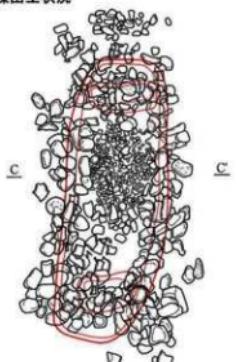


第9図 1次遺構 (2)

墓 1



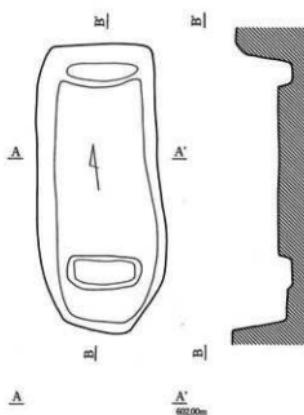
縹出土状況



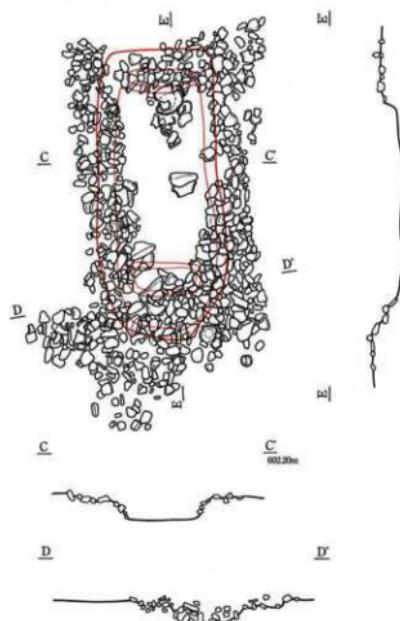
C



墓 2



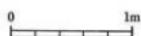
縹出土状況



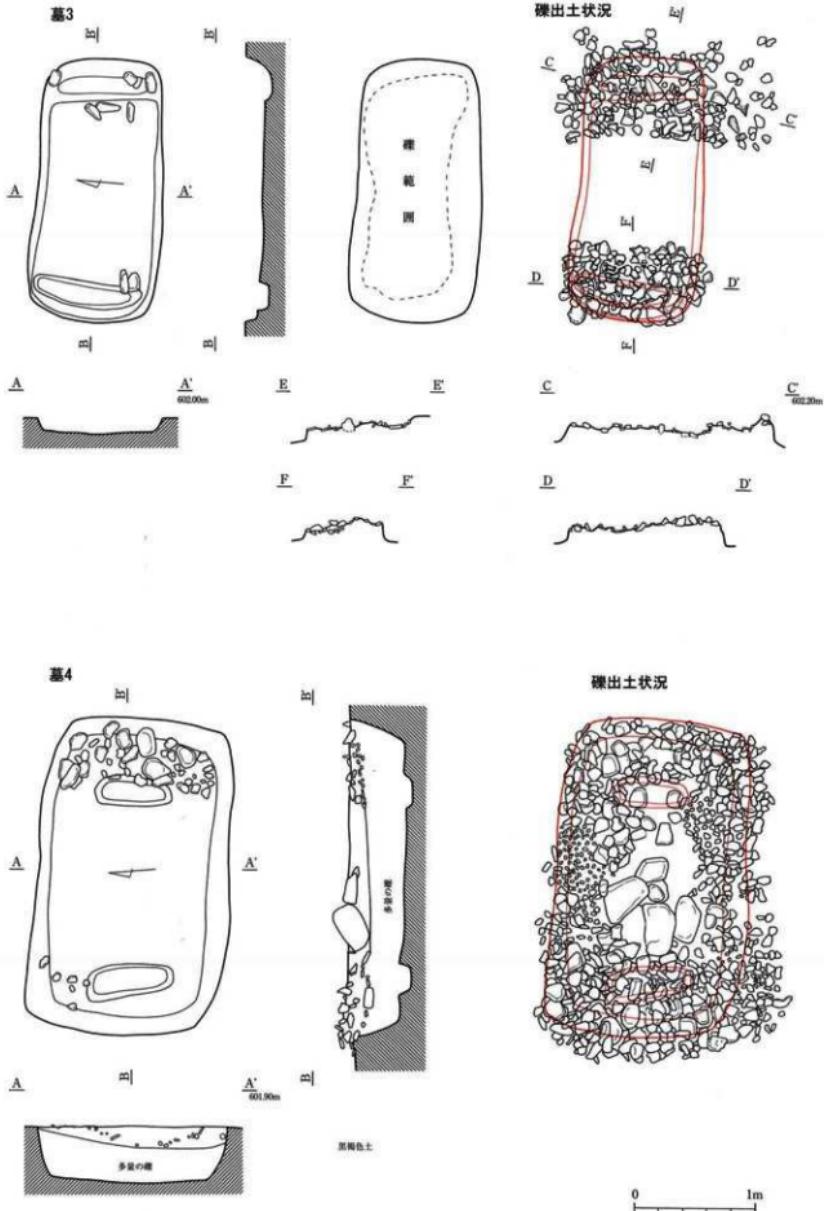
C



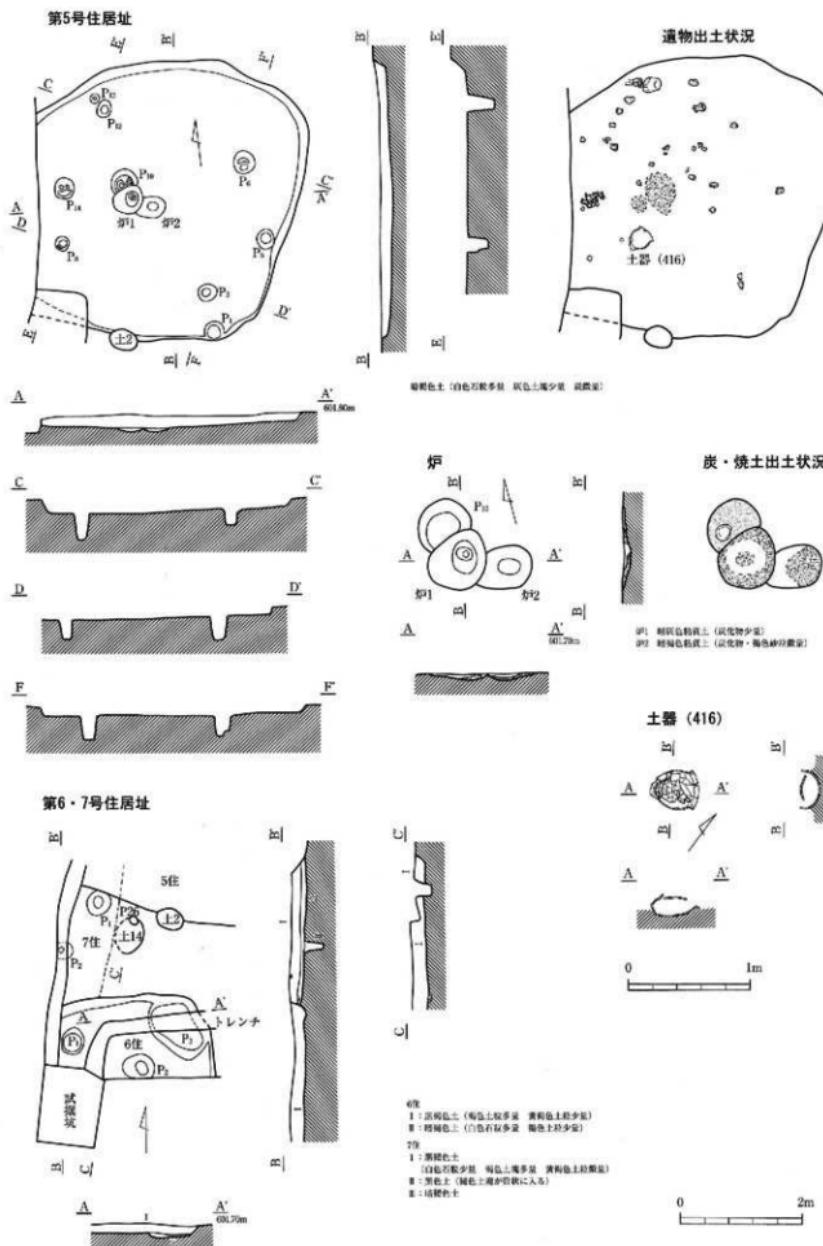
D



第 10 図 1 次遺構 (3)

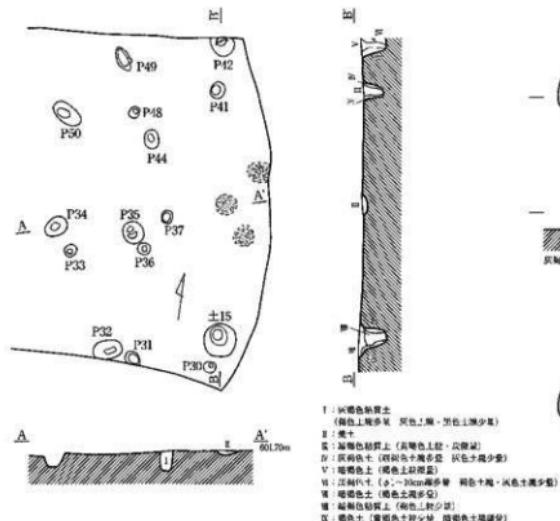


第11図 1次遺構 (4)

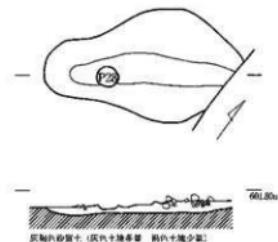


第12図 2次遺構 (1)

第1号平地式建物址



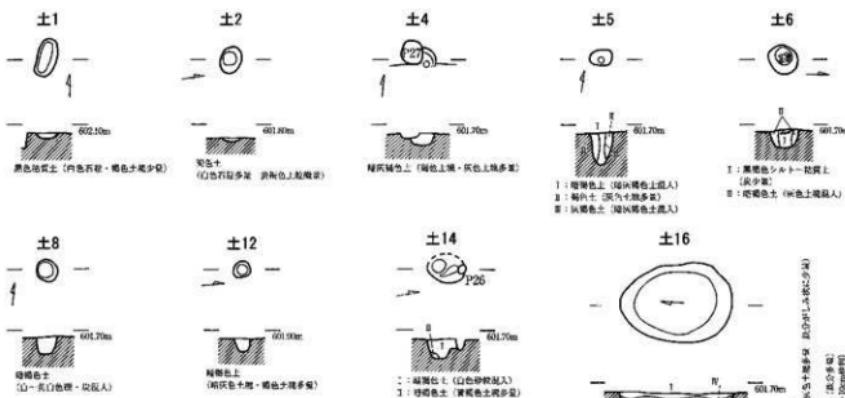
第1号集石遺機



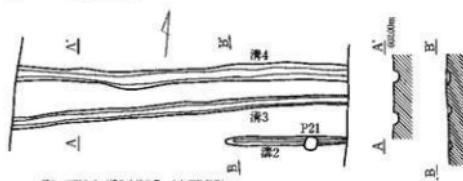
碑出土状况



I: 淡色新熟土質  
(褐色土壤多量、黑色土壤少量)  
II: 黑色  
III: 基礎色熟質土 (黃褐色土壤、灰褐色)  
IV: 灰褐色土 (灰褐色土壤多量、灰色土壤少量)  
V: 紫褐色土 (褐色土壤混擬)  
VI: 深褐色土 (深~深褐色土壤、褐色土壤、灰色土壤多量)  
VII: 暗褐色土 (褐色土壤混擬)  
VIII: 深暗褐色土 (褐色土壤少量)  
IX: 黑色土 (深褐色土壤少量、深褐色土壤多量)  
X: 黑色土 (深褐色土壤少量、深褐色土壤多量)



#### 第2·3·4号灌状遺擱



法2 灰褐色土 (褐色土上部多呈 白色石粒散在)  
法3 黄灰灰土 (黄褐色土上部微呈 白色点状少些)  
法4 黄色土 (深灰色土带, 灰色土较少者, 白色石粒较多)

第1号溝状遺構



### 第13図 2次遺構(2)

### 第3節 遺物

#### 1 上器・土製品（第14～24図、第10表）

山上土器・土製品の総量は1次調査243.8kg、2次調査24.7kg、計268.5kgである。内訳は、多量の弥生土器と微量の縄紋土器片、古墳時代の十師器、数点の上製品に区分される。弥生土器のほとんどは弥生時代中期後半から中期末に属するもので、わずかに弥生時代後期のものが混じっている。接合、固化実測できたものは458点で、これらを中心にして上器様相を観察した。

##### （1）縄紋土器

図化できたものはないが、厚手で条痕状の沈線が窺える。縄紋時代中期末葉に属すると考える。弥生時代の包含層形成以前に該期の遺構が生活痕があったのか、氾濫等で流入したものかの判断はつかない。

##### （2）弥生土器

###### ア 器種・器形

壺形土器（以下「形上器」は省略する。）、甕、高杯、鉢、盤がある。甕と甕は図化できた個体数が多く、口縁部形態で分類が可能である。壺Aと甕Aは口縁が外反、壺Bと甕Bは受け口や有段口縁を呈す。甕、甕の紋様には櫛描紋と範描紋があり、高杯、鉢は赤彩が施される。

###### イ 時期

###### 中期後半～中期末

ほとんどの弥生土器がこの時期に属する。器種・器形、形態、紋様構成などは上器型式では從米、栗林式土器と呼称されているものに等しい。紋様等からみると全体的に壺に櫛描紋が多用されるなど栗林式の終末期に近い様相に相当すると考えるが、82や272、400など若干古い要素をもつるものも散見される。本時期の十器は個々の器形、紋様から見ると当地域の該期の豊富な十器様相を示す良好な資料といえるが、一括性・同時性という点においては2住や5住、墓址当の限られた遺構出上品を除き後述のとおり残念ながら参考資料にすぎない。

###### 後期

5、16、18、36、128、325、372が該当する。128は壺の頸部破片であるが、後期に特徴的な櫛描紋であるT字紋が変化した丁字紋が認められる。16、36は甕で口縁部が長く伸びている点で中期のものと区別できる。

###### ウ 上器群

遺構出土の上器群を考察することによって遺構の時期を探ることは通常の場合有効な方法であるが、今回の1次調査区は弥生時代中期後半～末の遺物を大量に含む包含層が全面的に発達しており、それ以降の遺構の覆土にも当該期の遺物が一緒に混入している。従って遺構から出土した土器群の総体的な様相をもって遺構の時期とするのは困難なものもある。しかし、遺物の出土地点を明らかにする必要性から各遺構出土器群として提示し記述する。遺構の時期決定は山上土器の様相と遺構そのものの形態的特徴によって行った。

#### 1 住出土土器群（第14～15図1～39）

第1号住居址覆土とその上部の包含層から出土（1～22）、本址周辺の包含層から出土（23～39）したものである。ほとんどが弥生時代中期後半のものであるが、16、36に弥生後期の甕がみられる。大半を占める中期後半のものは出土状況から本址の埋没時期を示しているとは考えられない。

#### 2 住出土土器群（第15～17図40～115）

第2号住居址の覆土、床面から出土した。出土状況から明らかに本址に帰属するものであり、非常に良好な一括資料と認められる。器種組成は高杯、鉢、甕、壺、台付甕で構成され、当地域での弥生中期後半～末の土器様相、紋様構成等をよく示している。

### 5 住出土土器群（第 23・24 図 402～430）

第 5 号住居址の覆土、床面から出土し、その状況から明らかに本址に帰属する一括資料である。すべて弥生中期後半～末の土器である。

### 6 住出土土器群（第 24 図 431）

総量は少なく、1 点を図化できたに過ぎない。弥生中期後半～末の上器と考える。

### 建 1 出土土器群（第 18・19 図 141～189）

量は多く、柱穴範囲内、柱穴範囲外の各包含層から出土した。すべて弥生中期後半～末に属する。包含層出土品であり出土状況も決定的なものはないが、本址の帰属時期を示すものと捉えたい。

### 土坑出土土器群（第 18 図 116～140）

1 次調査区の土坑 1・2 とその周辺及び 2 次調査区の土坑 6 から出土した。弥生中期後半～末がほとんどであるが 128 は後期の壺である。土坑 1 は底部穿孔の壺(117)を伴っており中期に属すると考えるが、他はすべて覆土、包含層出土品で、弥生中期後半～末がこれらの土坑の埋没時期を示しているかは定かではない。

### 墓 1 出土土器群（第 20 図 206～223）

上層と内部から出土した。すべて弥生中期後半～末の上器である。南側の内部からは壺の大形破片(207・214・215)が出土している。

### 墓 2 出土土器群（第 19 図 190～205）

上層と内部から出土した。すべて弥生中期後半～末の上器である。北側の内部に壺・甕の大形破片(197・203・205)が集中していた。

### 墓 3 出土土器群（第 20 図 224～241）

上層と内部から出土した。すべて弥生中期後半～末の土器である。西側の礫集積に混じる様に集中して壺・甕・鉢の大形破片(224～228・230～235・238～240)が出土している。

### 墓 4 出土土器群（第 20 図 242～257）

上層と内部から出土した。他の墓址に比べて小破片が多い。すべて弥生中期後半～末の上器である。

### 墓址周辺包含層出土土器（第 21 図 258～324）

集中して存在する礫床木棺墓の周囲の包含層から多量に出土しているので、他の包含層と区別して図示した。すべて弥生中期後半～末の土器である。

### 包含層出土土器（第 22・23 図 325～392）

造構に伴わない包含層出土品を扱う。多量の出土があり、大半は破片だがまれに 385 のような一括品もある。弥生中期後半～末に属するものがほとんどだが、325、372 のような弥生後期の上器がわずかに混じっている。

#### (3) 土師器（第 24 図 448・449・457）

2 次調査区の古墳時代上器出土地点からわずかに出土し、3 点を図示できた。いずれも古墳時代前期から中期に属する壺の破片である。弥生中期後半～末の包含層を切り込んでこの時期の小規模な造構が存在したか、何らかの生活痕跡があった可能性を示す資料といえる。

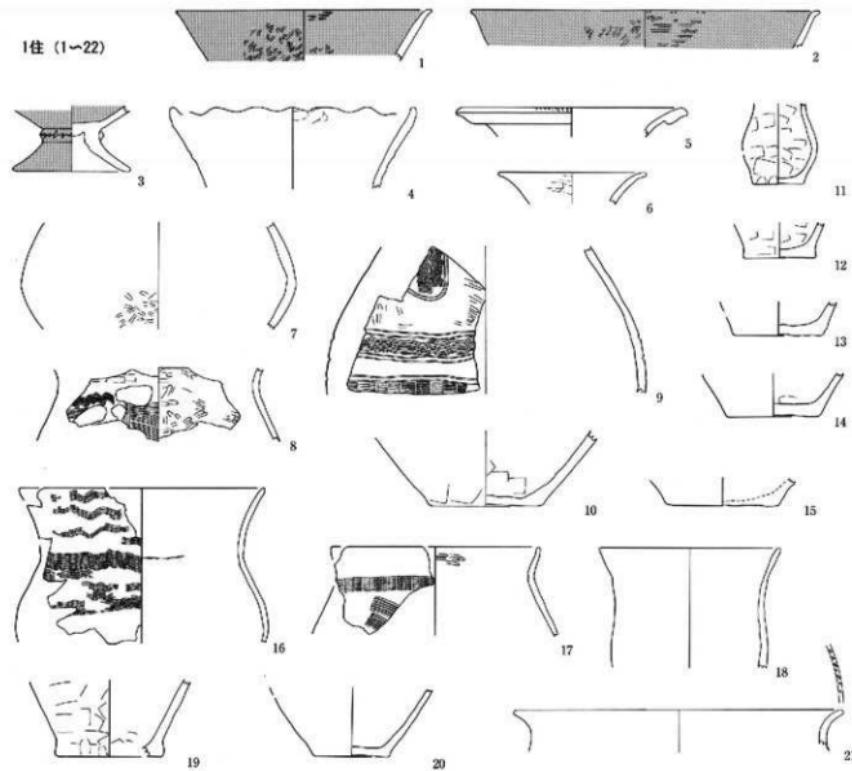
#### (4) 灰陶陶器

2 次調査区の上坑 16 から破片が出土したが図示していない。10 世紀代以降のものと考える。

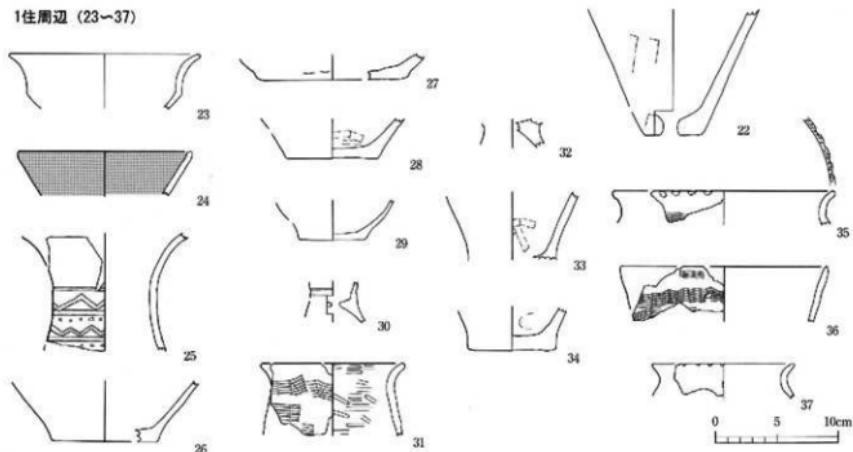
#### (5) 土製品（第 17 図 108、115、第 20 図 241、第 21 図 289、第 22 図 344、第 24 図 430）

108 は 2 仕の覆土中から出土した注口状土製品だが、本住居址出土上器群に伴うものかは疑問である。115 も 2 仕出土だが上器片を転用した土製円盤で、紡錘車であろう。241 は耳飾状土製品で、壺 3 から出土しており本址に伴うものである。289 の土製有孔土製品は外周を欠いているが、焼成後の土器片に穿孔したとみられるもので、有孔円盤の可能性もある。344、430 は用途不明の土製品である。

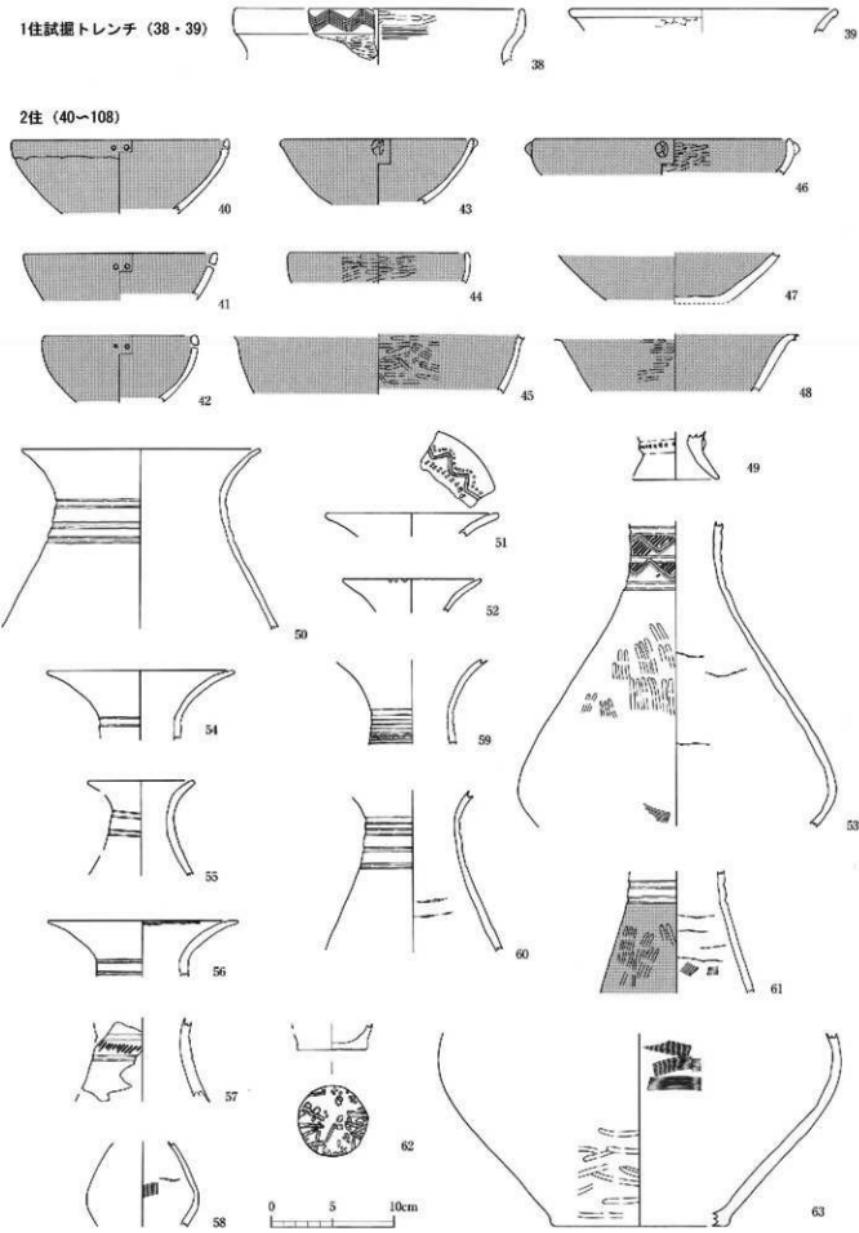
## 1住 (1~22)



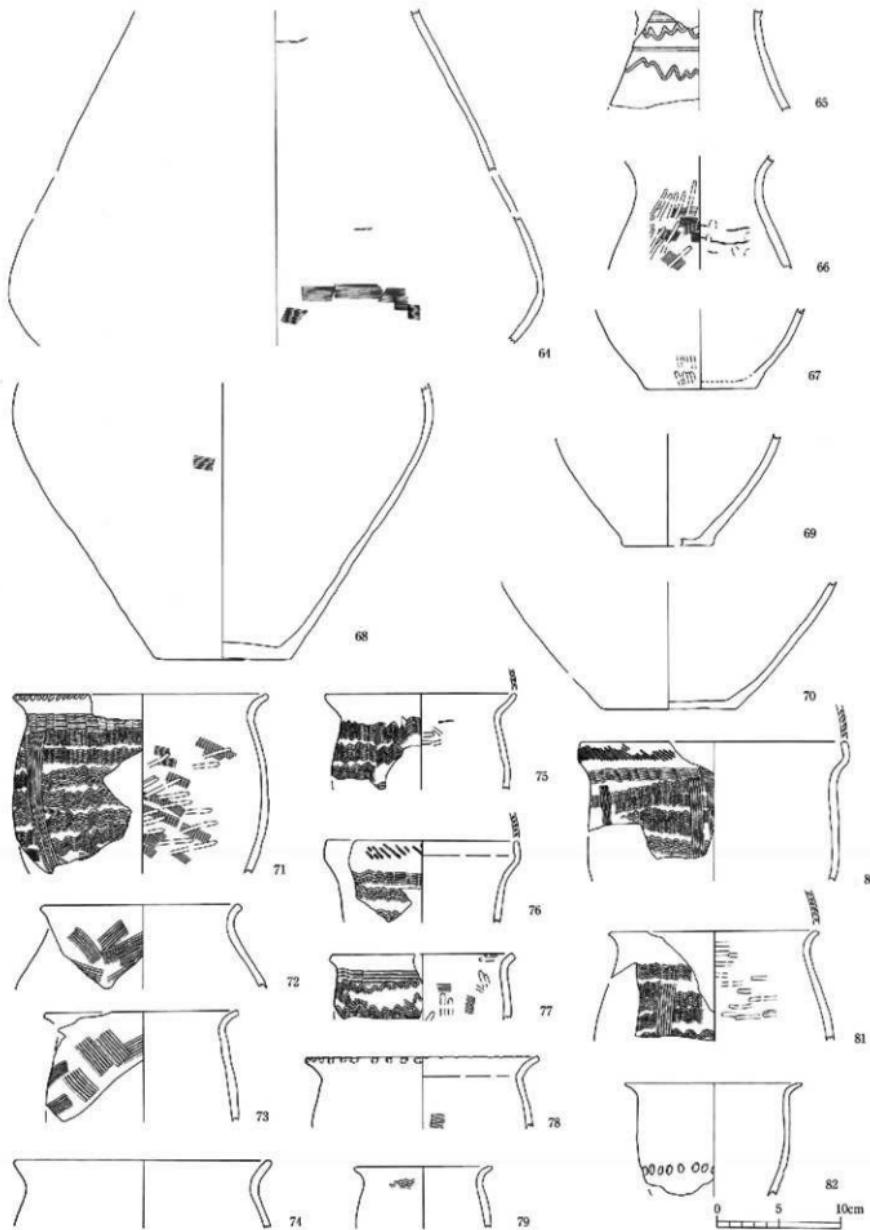
## 1住周辺 (23~37)



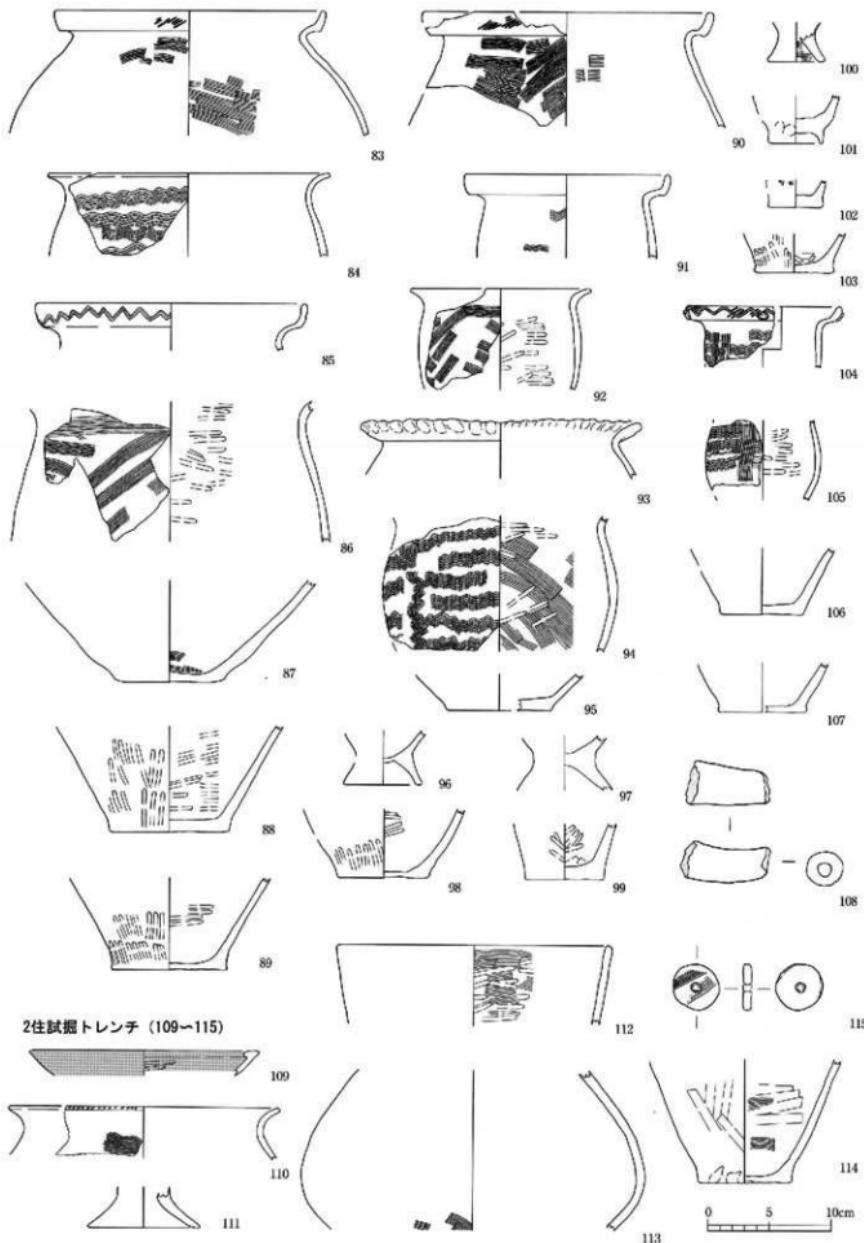
第14図 土器・土製品 (1)



第15図 土器・土製品(2)

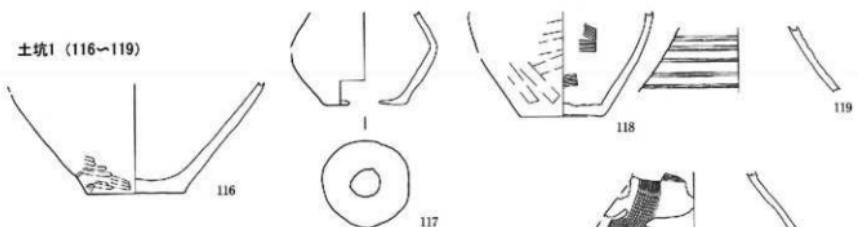


第16図 土器・土製品 (3)

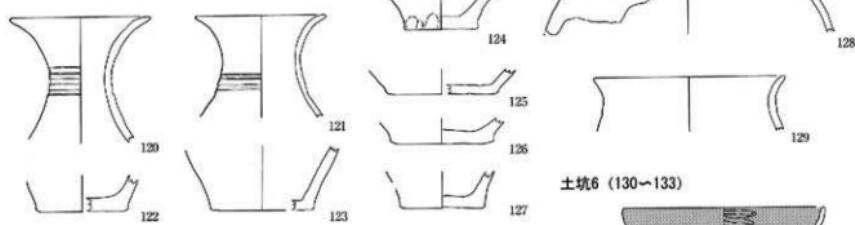


第17図 土器・土製品(4)

土坑1 (116~119)



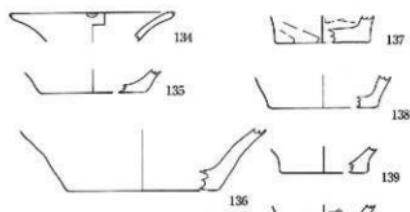
土坑2 (120~129)



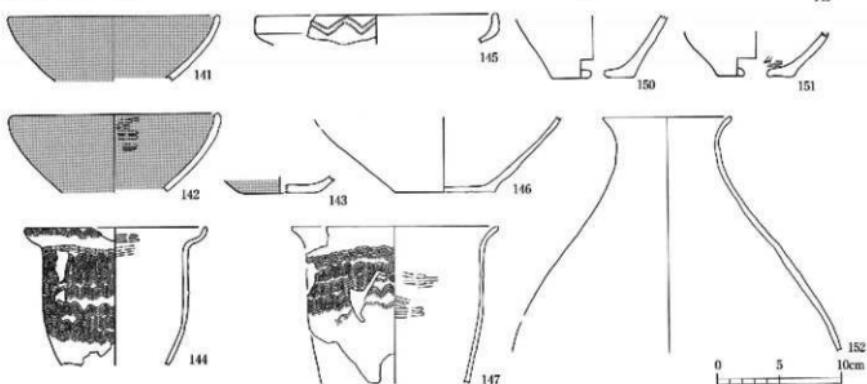
土坑6 (130~133)



土坑1・2周辺 (134~140)

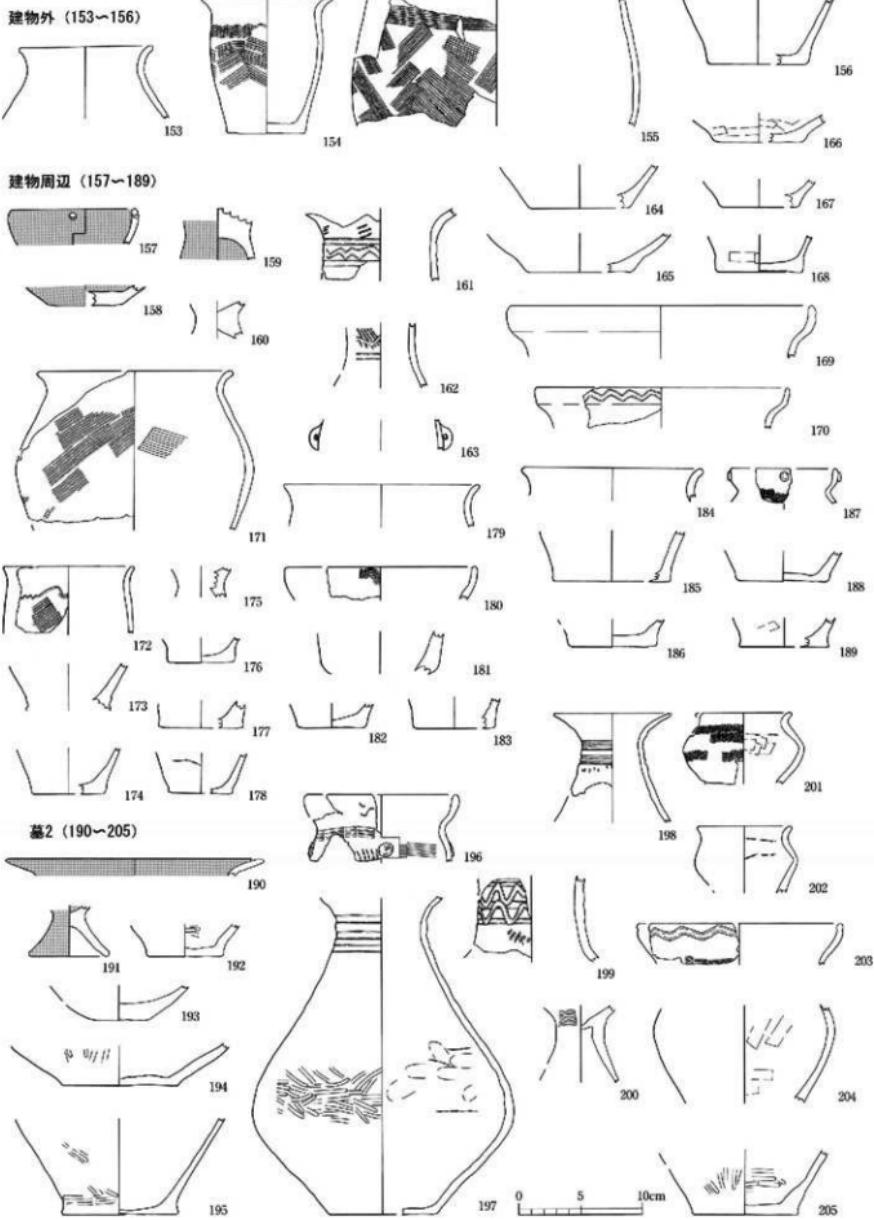


建物内 (141~152)



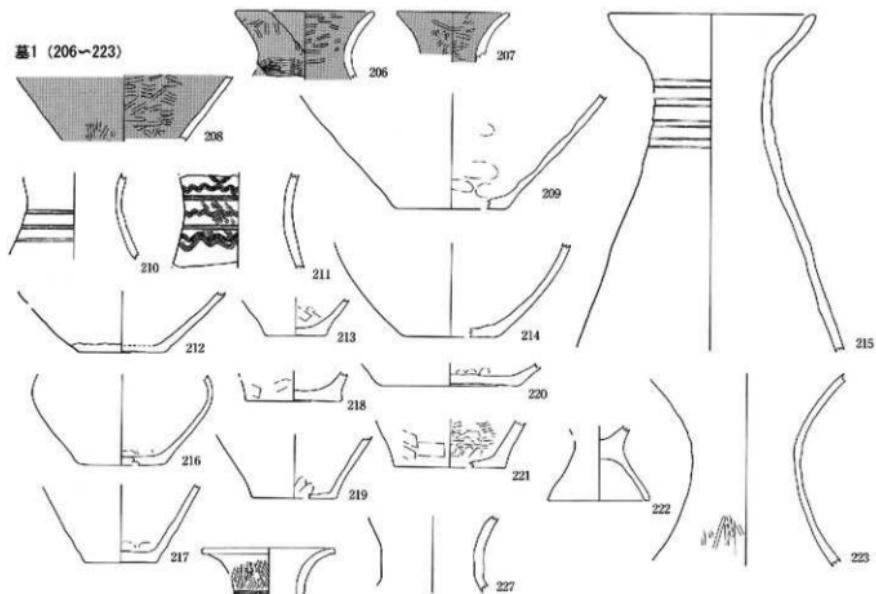
0 5 10cm

第18図 土器・土製品 (5)

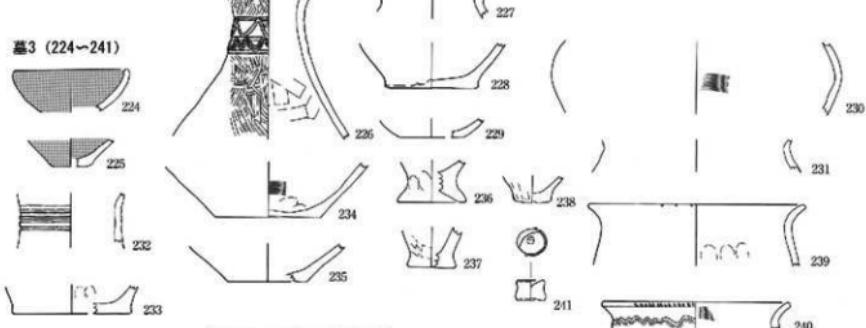


第19図 土器・土製品 (6)

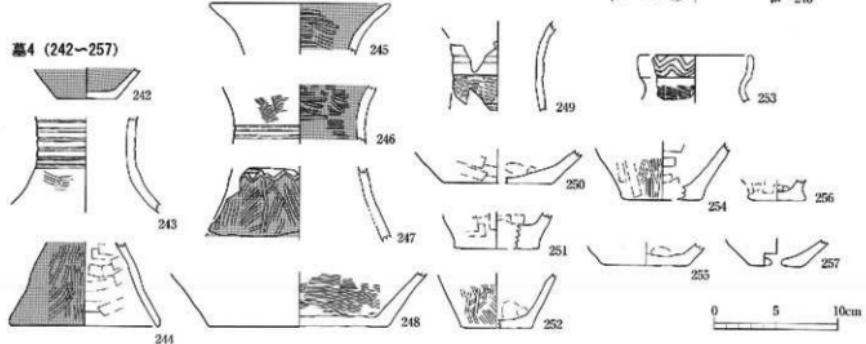
## 墓1 (206-223)



## 墓3 (224-241)



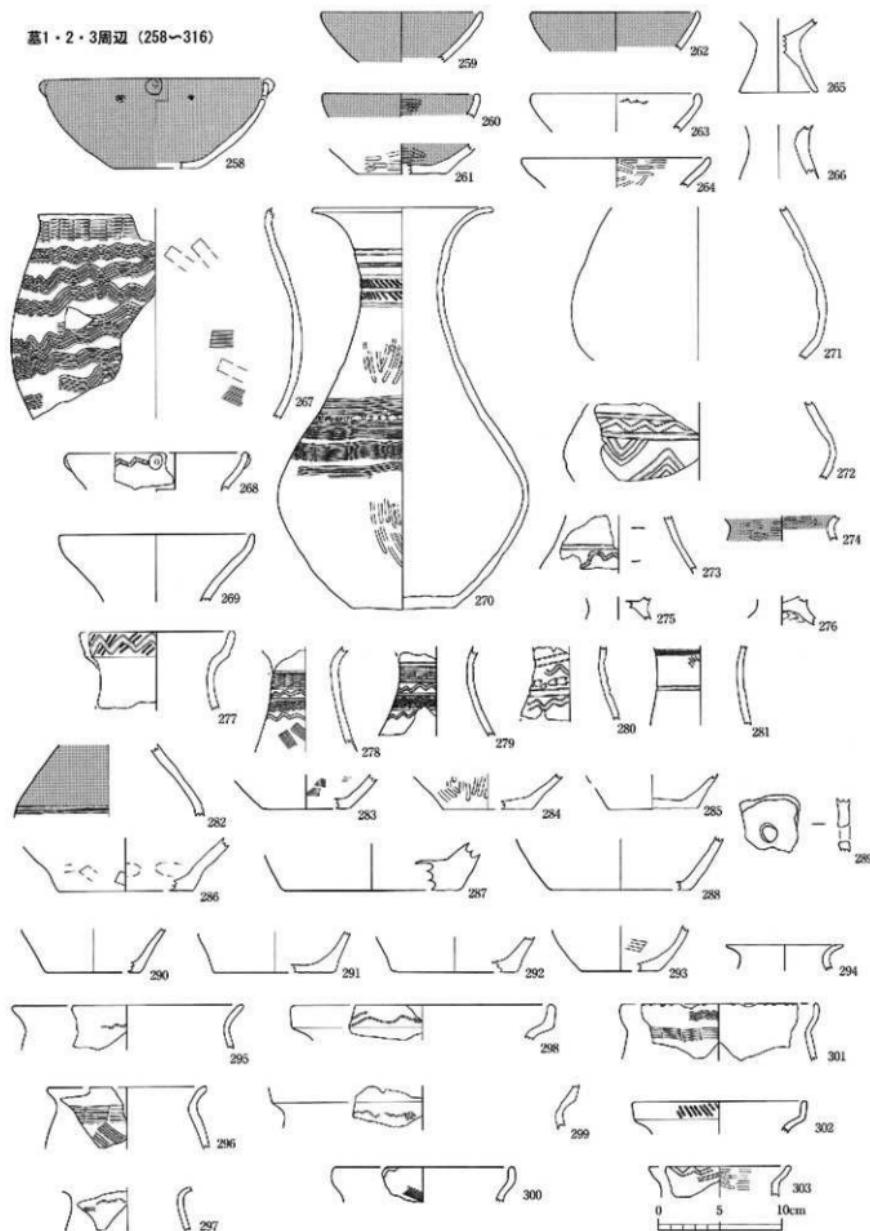
## 墓4 (242-257)



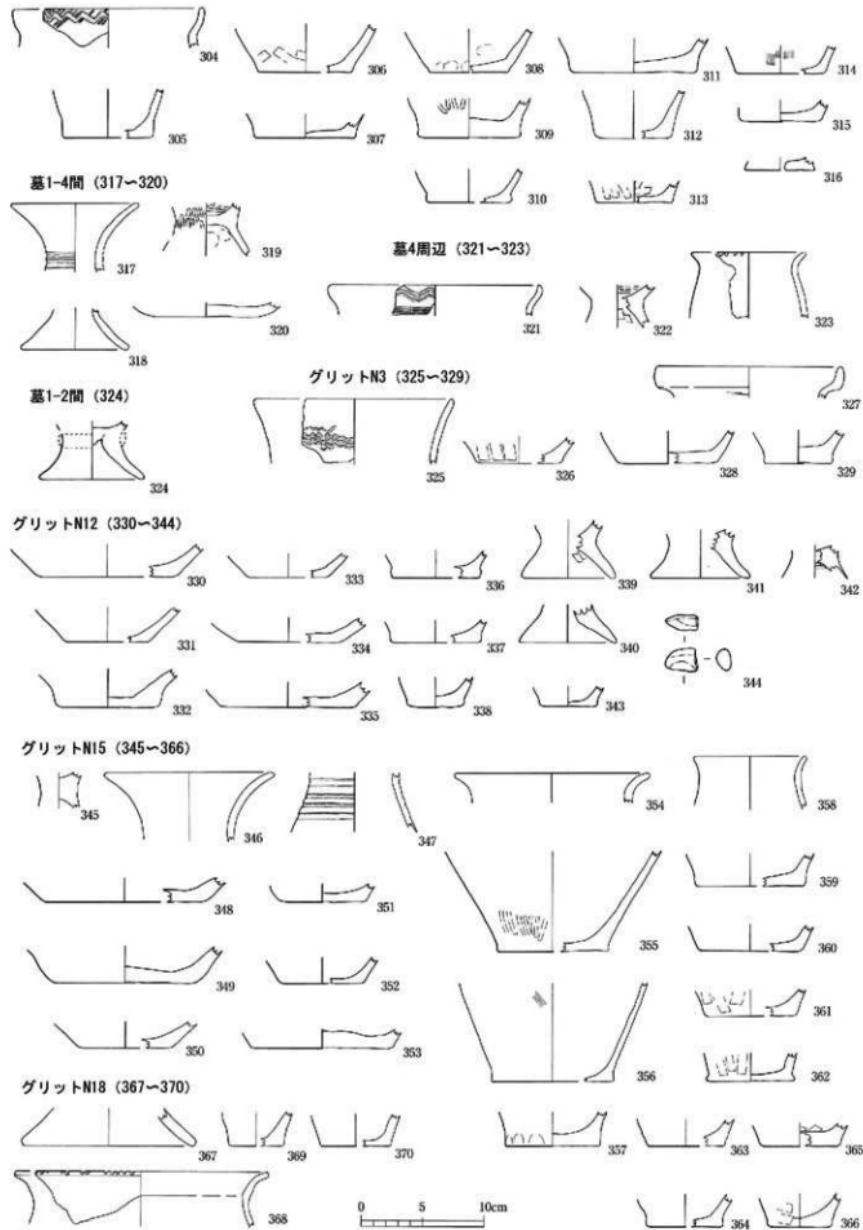
0 5 10cm

第20図 土器・土製品 (7)

墓1・2・3周辺 (258~316)

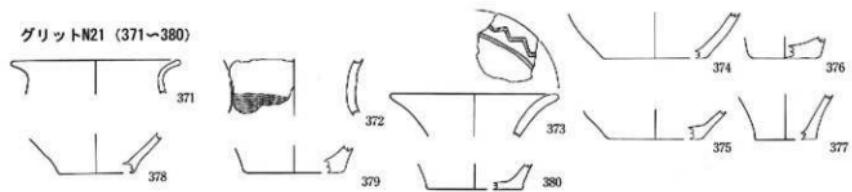


第21図 土器・土製品 (8)

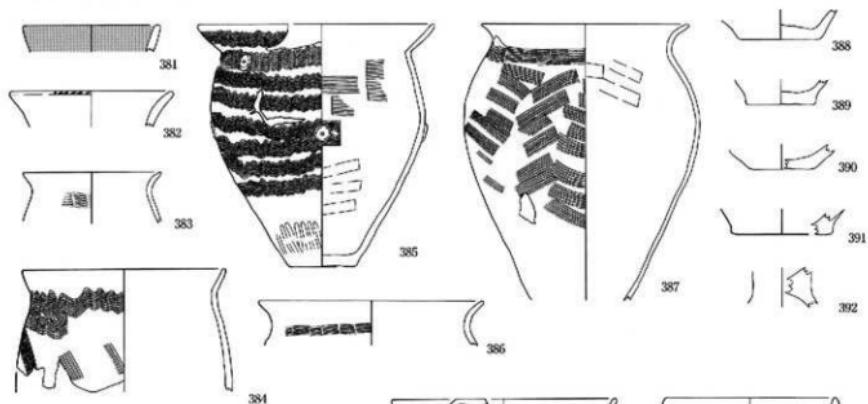


第22図 土器・土製品 (9)

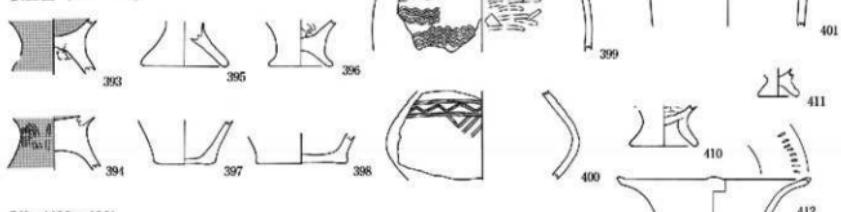
グリットN21 (371~380)



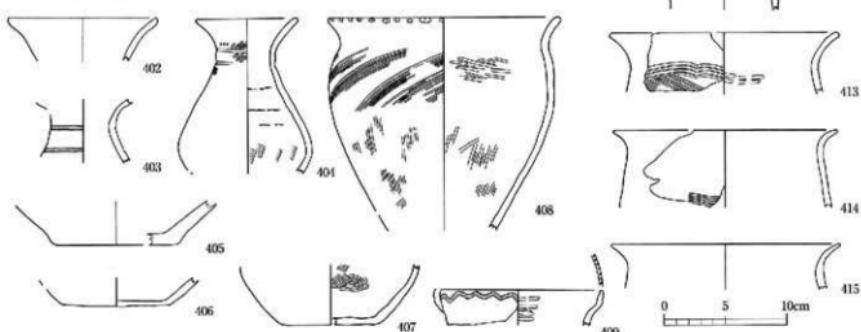
グリットN24 (381~392)



検出面 (393~401)

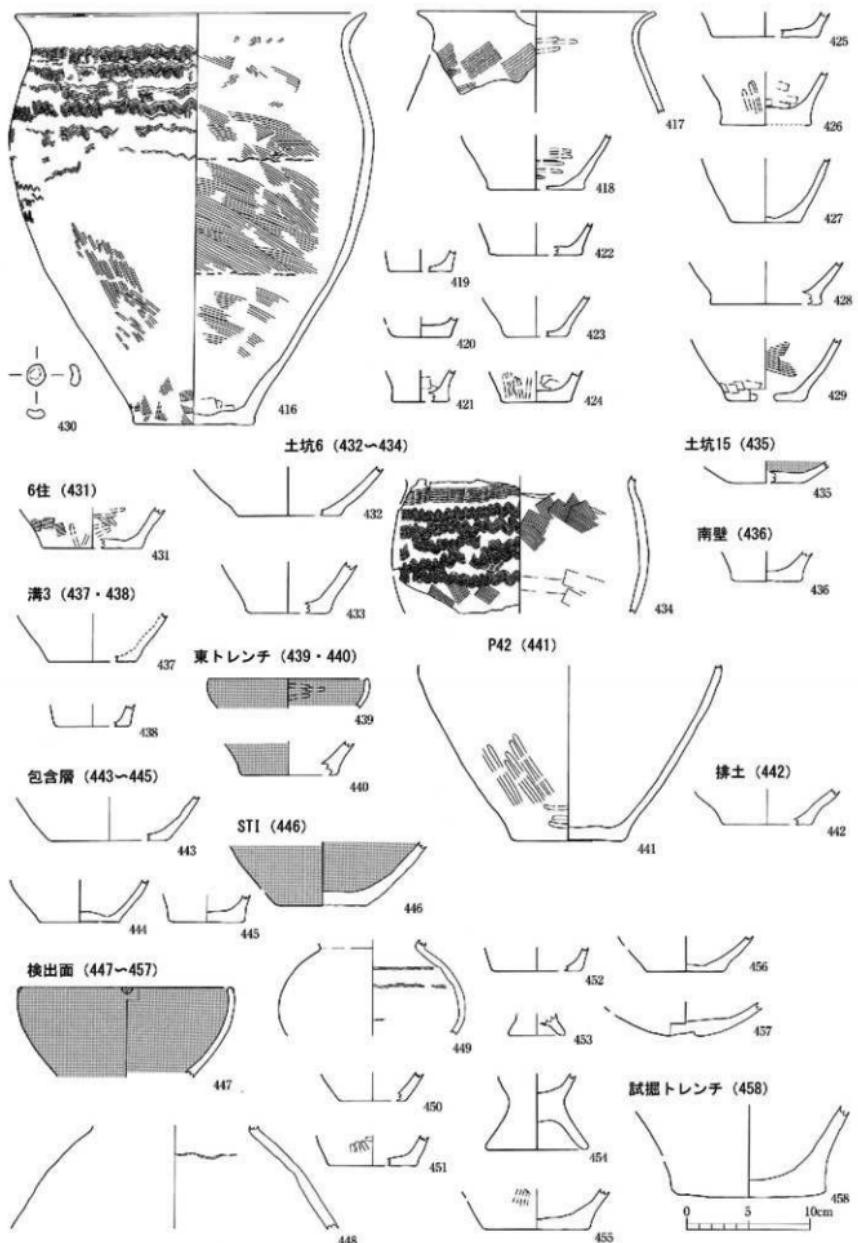


5住 (402~430)



0 5 10cm

第23図 土器・土製品 (10)



第24図 土器・土製品 (11)

第10表 土器觀察表

番号	地点	形式	寸法		保存度	色調	伊七	経緯・調査		先歴	記号	
			幅	厚				内面	表面			
1 1位	高所	(21.6)	111/6	赤褐色、内側 青褐色	石色、褐色、灰褐色	口縁ヨコナダ、ナダのくらみタキのち 擦痕	ナダのくらみタキのち 擦痕	HIE 6	1位-008 NHE0-044	内側擦痕		
5 1位	高所	(22.0)	11-25	赤褐色 褐色	赤褐色、内側 褐色	口縁ヨコナダ、ナダのくらみタキのち 擦痕	ナダのくらみタキのち 擦痕	1位 7	1位-010	外側擦痕		
3 1位	高所	(9.7)	底 部	褐色	褐色、灰褐色、灰褐色	ミガキ?(擦痕)、凸面付程のくらみタ キ、ロカナダ	ミガキ?(擦痕)	NHE3-1	NHE-058	外面、擦痕 内側擦痕		
4 1位	底 B2	(20.0)	口1/5	褐色	褐色、灰褐色、灰褐色	口縁ヨコナダ、ミガキ?(擦痕)、擦痕	擦痕付程、ミガキ?(擦痕)	1位-12	1位-008 18位?	口部擦痕		
5 1位	底 A	(19.0)	口 面	褐色	石色、褐色、灰褐色	ミガキ?ヨコナダ、ナダのくらみタキのち 擦痕	ナダのくらみタキのち 擦痕	1位-10	1位-010	作成後		
6 1位	底 A	(12.2)	11-15	褐色~灰褐色	褐色、灰褐色	口縁ヨコナダ、工具によるナダ	ナダ?(擦痕)	1位 9	1位-012			
7 1位	底		断片部	褐色~黑褐色	褐色、灰色、灰褐色	ミガキ?(ヨコ方向)	ミガキ?(擦痕)	1位-15	1位-011, NHE0-028			
8 1位	底		断片部	褐色~黑褐色	褐色、灰色、灰褐色	二重以上ヨコナダ、擦痕状、稍有灰斑 擦痕のち黒斑	ミガキ?	1位-13	1位-008			
9 1位	底		断片部	褐色~灰褐色	褐色、灰褐色、灰褐色	擦痕状、擦痕状、擦痕状、ミガキ?、ヘ ンズ擦痕、底状、底状	ナダ?(擦痕)	1位 16	1位-014			
10 1位	底	(9.6)	底2/3	褐色	灰褐色	工具によるナダ、底部ナダ	工具によるナダ	1位-1	1位-009, NHE0-043, 装 具			
11 1位	底			4.2	暗褐色	褐色、灰褐色、灰褐色	工具によるナダ、擦痕底、底アラジ ニツ	1位-5	1位-001-013			
12 1位	底			6.0	浅褐色~黑褐色	褐色、灰褐色、灰褐色	工具によるナダ、底部ナダ	1位 3	1位-013			
13 1位	底			7.5	灰白色	石色、灰褐色、灰褐色	底斑、底部ナダ(モミ庄跡あり)	NHE0-2	NHE-037			
14 1位	壳			7.9	褐色~深褐色	石色、褐色、灰褐色、灰褐色	擦痕、底部ナダ(モミ庄跡あり)	NHE0-4	NHE0-040-041			
15 1位	底			(9.4)	底5/6	暗褐色	褐色、灰褐色、灰褐色	擦痕、底部擦痕	底底により不明	1位 15, 16- 016, NHE3-052		
16 1位	底 A	(31.0)	ヨコ一部	褐色~棕褐色	褐色、石色、褐色、灰褐色、灰褐色	口縁ヨコナダ、擦痕状	ミガキ?(ヨコ方向)?、 擦痕	1位-14	1位-009 NHE3-052	骨盤		
17 1位	壳 B2	(17.2)	口 部	褐色~深褐色	褐色、灰褐色、灰褐色	11位ヨコナダ、ナダ?、底部擦痕状、 擦痕状底部	ミガキ?	1位-11	1位-014			
18 1位	壳		(14.0)	口 面	底褐色~褐色	褐色、灰褐色、底~擦痕	ミガキ?ヨコナダ、擦痕	1位-17	1位-008, A 横-006	作成後		
19 1位	壳			(8.0)	暗褐色	褐色、灰褐色、底~擦痕	工具によるナダ、指頂底、底部ナ ダ	1位 4	1位-006			
20 1位	壳			6.3	灰褐色	褐色、灰褐色、灰褐色	ミガキ?(テナリ向)擦痕、底部ナ ダ	NHE0-1	NHE-038			
21 1位	壳 A	(27.0)	口1/10	暗褐色	褐色、灰褐色、灰褐色	11位 L R ヨコ方向擦痕、11位ヨコ ナダ	ミコナダ?	1位-8	1位-010			
22 1位	底			5.0	灰褐色~棕褐色	褐色、灰褐色、灰褐色、灰褐色	工具によるナダ、底部擦痕のちナ ダ	ナダ	1位-2	1位-008-012, NHE0- 049		
23 1位周辺	高所	(16.7)	111/3	褐色	褐色、灰褐色、灰褐色	口縁ヨコナダ、擦痕	擦痕	NHE0-1	NHE-016	内側擦痕? (厚底)		
24 1位周辺	新かき 高所	(14.4)	口一部	外底褐色、内底 褐色	褐色、灰褐色、灰褐色	コヨヨコナダ、ミガキ?(擦痕)	ミガキ?(擦痕)	NHE0-2	NHE-044	内外擦痕 (外底擦痕)		
25 1位周辺	底			断片部	褐色~深褐色	褐色、灰褐色、底~形狀	ミガキ?(擦痕)、擦痕状擦痕、山形擦 痕、擦痕	NHE0-14	NHE-043-046, 50C3- 051			
26 1位周辺	底			底1/4	褐色	褐色、灰褐色、灰褐色	擦痕、底部ナダ	NHE0-5	NHE-044			
27 1位周辺	底			(12.4)	底1/4	褐色	褐色、灰褐色、底~擦痕	NHE0-7	NHE-042			
28 1位周辺	底			9.7	底底	褐色~深褐色	擦痕、底部擦痕	NHE0-8	NHE-044			
29 1位周辺	壳			5.6	底底	褐色、灰褐色、灰褐色、灰褐色	擦痕、底部ナダ?	NHE0-3	NHE-036			
30 1位周辺	高所?			断片 碎片?	褐色	石色、褐色、灰褐色、灰褐色	擦痕状擦痕、底底、ケズリ、穴あ?	NHE0-3	NHE-069			
31 1位周辺	底 A	(11.0)	111/8	茶褐色~褐 色	褐色~深褐色	口縁ヨコナダ、擦痕状	ミガキ?(ヨコ方向)	NHE3-2	NHE-059			
32 1位周辺	台付 底			断片部	褐色	褐色、灰褐色、底~擦痕	擦痕	NHE0-9	NHE-044			
33 1位周辺	底			底2/3	褐色	小穴、褐色、灰褐色、底~擦痕	工具によるナダ?	NHE0-6	NHE-016			
34 1位周辺	壳			(7.7)	褐色~茶褐色	褐色、灰褐色、灰褐色、底~擦痕	擦痕、底部ナダ(モミ庄跡あり)	NHE0-3	NHE-044			
35 1位周辺	壳 A	(18.2)	口1/12	茶褐色	褐色、灰褐色、灰褐色	11位ヨコ方向擦痕、口縁ヨコナダの ちナダ?、ナダ?、底部擦痕状	ナダ?	NHE0-13	NHE-043			
36 1位周辺	壳			(17.0)	11-21	褐色	小穴、褐色、灰褐色、底~擦痕	NHE0-11	NHE-043	骨盆		
37 1位周辺	壳 A	(11.6)	口1/12	褐色	褐色、灰褐色、底~擦痕	口縁ヨコナダ、擦痕	擦痕	NHE0-10	NHE-044			
38 1位周辺	壳 B1	(23.6)	11-15	褐色	褐色、灰褐色、灰褐色	11位ヨコナダ、擦痕状。ミガキ?(ヨ コ方向)?	ミガキ?(ヨコ方向)?のち ハグメ?	1位試T-2	1位T-005			
39 1位周辺	壳 A	(21.9)	口一部	茶褐色	石色、褐色、灰褐色、底~擦痕	口縁ヨコナダ、斜面に擦痕、下具 によるナダ?	ナダ(厚底)	1位試T-1	1位T-005			
40 1位周辺	朴	(17.6)	口2/3	褐色~深褐色 褐色~褐色	褐色、灰褐色、底~擦痕	11位ヨコナダ?、2孔穿孔。ミガキ?(厚 底)のち擦痕	ミガキ?(厚底)のち 擦痕	2位-49	2位 016- 049	内外擦痕		
41 2位	朴	(15.6)	111/12	内底褐色~ 褐色~褐色	石色、褐色、灰褐色、底~擦痕	11位ヨコナダ?、2孔穿孔。ミガキ?(厚 底)のち擦痕	ミガキ?(厚底)のち 擦痕	2位-23	2位-041	内外擦痕		
42 2位	朴	(12.4)	口1/5	茶褐色~深 褐色	石色、褐色、灰褐色、底~擦痕	口縁ヨコナダ?、2孔穿孔。ミガキ?(厚 底)のち擦痕	ミガキ?(厚底)のち 擦痕	2位-22	2位-040	内外擦痕		
43 2位	朴	(16.4)	口1/2	茶褐色~深 褐色	石色、褐色、灰褐色、底~擦痕	11位ヨコナダ?、2位穿孔。ミガキ?(厚 底)のち擦痕	ミガキ?(厚底)のち 擦痕	2位-28	2位-18-2- 048	内外擦痕		

番号	地名	測定点	寸法		寸法	色調	點	形状・圖形		実測	件名	備考
			高さ	口径				表面	内部			
41	2住	井	(14.6)	口1/8	外輪白色～赤 色、内輪白色～ 赤色	石英、褐色、灰色、微～ 粉紅	口輪ヨコナガ、ミガキ(ヨコ方向)の ちぶき	ミガキ(ヨコ方向) のちぶき	2住.24	2住.045	内外赤茶	
45	2住	馬糞		杯盤片	外輪赤～土黃 色、内輪白色～ 赤色	石英、褐色、灰色、微～ 粉紅	ミガキのちぶき(厚底)	ミガキ(ヨコ方向) のちぶき	2住.26	2住.041	内外赤茶	
46	2住	井	(19.0)	口1/10	外輪褐色～赤 色、内輪褐色～ 赤色	石英、褐色、灰色、微～ 粉紅	口輪ヨコナガ、4枚枚起立粘土の ちぶき、ミガキのちぶき(厚底)	ミガキ(ヨコ方向) のちぶき	2住.25	2住.046	内外赤茶	
47	2住	井		裏下端 片	外輪褐色～灰 色、内輪褐色～ 灰色	石英、褐色、灰色、微～ 粉紅	ミガキのちぶき(厚底)	ミガキ(ヨコ方向) のちぶき	2住.21	2住.027	内外赤茶	
48	2住	馬糞		杯盤片	外輪褐色～灰 色、内輪褐色～ 灰色	石英、褐色、灰色、微～ 粉紅	ミガキのちぶき(厚底)	ミガキ(ヨコ方向) のちぶき	2住.27	2住.046 060	内外赤茶	
49	2住	井	(7.1)	底1/2	外輪褐色～ 灰色、内輪褐色～ 灰色	石英、褐色、灰色、微～ 粉紅	凸筋船のちばぎミ、ミガキ(厚 底)、ヨコナガ	ケズリ(厚底)、ミガ キ(厚底)	2住.60	2住.006	内外赤茶?	
50	2住	井	(19.4)	口1/3	外輪～時青色 褐色	石英、褐色、灰色、黑色、微～ 粉紅	口輪ヨコナガ、輪底花紋状底、厚底	厚底	2住.64	2住.009 050		
51	2住	井	(14.0)	口1/5	外輪褐色～ 灰色	石英、褐色、灰色、微～ 粉紅	口輪ヨコナガ、厚底花紋状底、厚底	厚底	2住.46	2住.018		
52	2住	井	(31.2)	口1/4	外輪褐色～ 灰色	石英、褐色、灰色、微～ 粉紅	口輪ヨコナガ、輪底花紋状底、厚底 片	厚底	2住.44	2住.041		
53	2住	井		瓶底大 片	外輪褐色～ 灰色	石英、褐色、灰色、微～ 粉紅	口輪ヨコナガ、輪底花紋状底、厚底 片	厚底	2住.30	2住.036-1-026-2, AT1-068		
54	2住	井	(15.1)	口1一部	外輪褐色～ 灰色	石英、褐色、灰色、微～ 粉紅	口輪ヨコナガ、輪底花紋状底、厚底 片	厚底	2住.6	2住.019		
55	2住	井	(8.6)	口1/2	外輪褐色～ 灰色	石英、褐色、白色、黑色、微～ 粉紅	口輪ヨコナガ、厚底花紋状底	厚底	2住.65	2住.019		
56	2住	井	(15.3)	口1/8	外輪褐色～ 灰色	石英、褐色、灰色、微～ 粉紅	口輪ヨコナガ、厚底、新切削側厚底 片	厚底	2住.37	2住.011		
57	2住	井		噴霧片	外輪褐色～ 灰色	石英、褐色、微～ 粉紅	厚底	厚底	2住.61	2住.033		
58	2住	井		刷毛片	外輪褐色～ 灰色	石英、褐色、微～ 粉紅	厚底	厚底	2住.52	2住.050		
59	2住	井		喷霧片	外輪褐色～ 灰色	石英、褐色、微～ 粉紅	厚底	厚底	2住.38	2住.025		
60	2住	井		喷霧片	外輪褐色～ 灰色	石英、褐色、灰色、微～ 粉紅	厚底	厚底	2住.68	2住.009		
61	2住	井		喷霧片	外輪褐色～ 灰色	石英、褐色、灰色、微～ 粉紅	厚底	厚底	2住.39	2住.023	外面像?	
62	2住	井		真光	外輪褐色～ 灰色	石英、褐色、灰色、黑色、微～ 粉紅	上部にナガ(厚底)、 武蔵へクタ丁による破損	ナガ(厚底)	2住.29	2住.017		
63	2住	井	(14.6)	底	外輪褐色～ 灰色	石英、褐色、白色、微～ 粉紅	厚底、下部にミガキ(ヨコ方向)、底 21ナガ	厚底	2住.63	2住.023- 024-047- 049-211	内面上部に 赤色板付 着	
64	207	井		瓶底大 片	外輪褐色～ 灰色	褐色、灰色、微～ 粉紅	厚底	厚底	2住.022-023-028-1- 029-030-037-041- 044-046-045- AT1-067-068			
65	2住	井		喷霧片	外輪褐色～ 灰色	石英、褐色、灰色、微～ 粉紅	厚底再び緑、山毛花透底、厚底	厚底	2住.48	2住.006		
66	2住	井		喷霧片	外輪褐色～ 灰色	石英、褐色、灰色、微～ 粉紅	ハケメのらぐミガキ(ツバ方向)	ナガ	2住.16	2住.002		
67	2住	井	9.1	喷霧片 合	外輪褐色～ 灰色	褐色、灰色、微～ 粉紅	ミガキ(ツバ方向)	厚底	2住.3	2住.007		
68	2住	井	11.4	喷霧片 丸	外輪褐色～ 灰色	褐色、灰色、白色、微～ 粉紅	厚底(ミガキ)、ハケメ、厚底、厚底、 丸ナガ	厚底	2住.31	2住.017-018-1-023、 AT1-067-068		
69	2住	井	(7.4)	底1/4	外輪褐色～ 灰色	褐色、灰色、白色、微～ 粉紅	厚底、厚底厚底	厚底	2住.55	2住.027-038-060		
70	2住	井		11.2	真光	外輪褐色～ 灰色	石英、表皮、褐色、灰色、白色、 微～ 粉紅	口輪ヨコナガのちばぎミ、輪底花紋 状底、前部ハケメのもの底状のちばぎ ミ(ヨコ方向)	厚底	2住.53	2住.022-026-1-047	
71	2住	井	(20.6)	111/2	外輪褐色～ 灰色	褐色、灰色、白色、微～ 粉紅	口輪ヨコナガ、輪底花紋状底	ハケメのらぐミガキ (ヨコ方向)	2住.67	2住.019-049-049- AT1-068		
72	2住	井	(16.0)	111/5	外輪褐色～ 灰色	褐色、灰色、白色、微～ 粉紅	口輪ヨコナガ、輪底花紋状底	厚底	2住.16	2住.013	板然に上る 墨みあり	
73	2住	井	(15.6)	口1-5	外輪褐色～ 灰色	褐色、灰色、白色、微～ 粉紅	口輪ヨコナガ、輪底花紋状底	厚底	2住.15	2住.014	板然に上る 墨みあり	
74	2住	井	(20.8)	口1/5	外輪褐色～ 灰色	褐色、灰色、白色、微～ 粉紅	口輪ヨコナガ、輪底花紋状底	厚底	2住.5	2住.013-017、AT1-007		
75	2住	井	(15.4)	口1/3	外輪褐色～ 灰色	褐色、灰色、白色、微～ 粉紅	口輪ヨコナガ、輪底花紋状底	ミガキ	2住.11	2住.018-019-046		
76	2住	井	(15.6)	111/6	外輪褐色～ 灰色	褐色、灰色、白色、微～ 粉紅	口輪ヨコナガ、輪底花紋状底、 厚底	厚底	2住.16	2住.047		
77	2住	井	(14.8)	C1/4	外輪褐色～ 灰色	褐色、灰色、白色、微～ 粉紅	ミガキヨコナガ、輪底花紋状底	ハケメのらぐミガキ (ヨコ方向)	2住.8	2住.013		
78	2住	井	(18.8)	口1/4	外輪褐色～ 灰色	褐色、灰色、白色、微～ 粉紅	口輪ヨコナガ、底状	厚底、下部ハケメ	2住.13	2住.018-1		
79	2住	井	(10.6)	111/4	外輪褐色～ 灰色	褐色、灰色、白色、微～ 粉紅	口輪ヨコナガ、底状	ミガキ	2住.42	2住.020		
80	2住	井	(21.6)	口1/3	外輪褐色～ 灰色	褐色、灰色、白色、微～ 粉紅	口輪ヨコナガ、輪底花紋状底、 厚底	厚底	2住.17	2住.002-004-009		
81	2住	井	(16.6)	口1/5	外輪褐色～ 灰色	褐色、灰色、白色、微～ 粉紅	口輪ヨコナガ、輪底花紋状底	ミガキ(ヨコ方向)	2住.47	2住.025-045-046		
82	2住	井	(14.3)	111/2	外輪褐色～ 灰色	褐色、灰色、白色、微～ 粉紅	口輪ヨコナガ、輪底花紋状底	厚底	2住.66	2住.013-043-047、 AT1-008		
83	2住	井	(22.0)	口1-3	外輪褐色～ 灰色	褐色、灰色、白色、微～ 粉紅	口輪ヨコナガ(底状)、口輪ヨコナ ガ、L Rヨコナガ向開、輪底花紋状底、 厚底	厚底	2住.10	2住.001-002-012		
84	2住	井	(22.8)	C1/12	外輪褐色～ 灰色	褐色、灰色、白色、微～ 粉紅	口輪ヨコナガ、底状	厚底	2住.12	2住.026-1		

番号	生点	形大	寸法	疗疾	色調	加土	外因	状態・脚性		実測No.	汽配	備考
								表面	内面			
86 7枚	便	B1	(22.0)	口1/5 刮剥片	石灰、褐色、灰色、黒～灰色	無	[1]等溝裂(堅膜)、[2]カコナゲ、黒 紋(堅膜)のうち、幅山形紋、斜紋	解説	2往-7	2往-002-028		
86 2枚	便			(9.0)	灰2/3	石英、褐色、灰色、黒～砂粒	褐色地に褐色斑紋、薄肉變形多発	[ミガキ(ヨコ方向)]	2往-62	2往-017、2往-008		
87 2枚	便				白色～褐色	石英、褐色、灰色、白色、黒～砂粒	褐色地に褐色斑紋、薄肉變形多発	[ミガキ(ヨコ方向)]	2往-56	2往-015		
88 2枚	便			(9.0)	灰2/4	青褐色～暗褐色	石灰、褐色、灰色、黒～砂粒	[ミガキ(タテ方向)]、底部ナゲ	ミガキ(ヨコ方向)	2往-54	2往-024、WTI-008	
89 2枚	便			9.4	灰2/3 底付	青褐色～深褐色	石灰、褐色、灰色、黒～砂粒	[ミガキ(タテ方向)]、底部ナゲ	[ミガキ(ヨコ方向)]	2往-1	2往-026-1-026-2-037	
90 2枚	便	B1	(23.6)	口1/12	白色～米褐色	石英、褐色、白色、黒～粗粒	[1]等溝裂(堅膜)、[2]カコナゲ、 Rヨコ方向紋、ヨコナゲ、無羽状 粗粒	ハケメ	2往-9	2往-068-047		
91 2枚	便	B1	(16.6)	口1/2	灰褐色～褐色	石英、褐色、灰色、黒～砂粒	[1]カコナゲ、堅膜、病部波状紋	解説	2往-10	2往-009		
92 2枚	便	A	(14.6)	口 細	系褐色	石灰、褐色、灰色、黒～砂粒	[2]ヨコナゲ、堅膜變形横縫紋、胸 部波状紋	[ミガキ(ヨコ方向)]	2往-14	2往-041		
93 2枚	便	A	(22.7)	111/5	褐色	石英、褐色、白色、黒～砂粒	ヨコ波状紋、胸部波状紋	解説	2往-43	2往-020		
94 2枚	便			底付片	褐色	小石、褐色、灰色、白色、黒～ 砂粒	波状紋のうち底面波状紋	ハケメのちミガキ (ヨコ方向)	2往-60	2往-026-1-041、WTI-008		
95 2枚	便			(6.6)	底2/2	褐色～暗褐色	石灰、褐色、灰色、黒～砂粒	一見に入るナゲ(堅膜)、底部ナゲ	ナゲ(解説)	2往-34	2往-024	
96 2枚	便			6.4	底光	褐色～暗褐色	石灰、褐色、灰色、黒～半透明、 半透	半透明	2往-59	2往-047		
97 2枚	便付 裏?			片	褐色	褐色、灰色、黑色、黒～粗粒	[ミガキ(タテ方向)]	[ミガキ(ヨコ方向)]	2往-35	2往-050		
98 2枚	便			7.0	底光	淡褐色～暗褐色	石英、褐色、灰色、黒～砂粒	[ミガキ(ヨコ方向)]、底部波状紋の うち	2往-57	2往-026-1		
99 2枚	便			(6.6)	底1/4	褐色～暗褐色	石英、褐色、灰色、黒～砂粒	[ミガキ(タテ方向)]、底部ナゲ	上部にによるナゲのち [ミガキ(ヨコ方向)]	2往-33	2往-018 2	
100 2枚	便付 裏?			(4.6)	底1/3	褐色	石灰、褐色、灰色、黑色、黒～ 砂粒	ヨコ波状紋、ヨコナゲ	ハケメ	2往-36	2往-037	
101 2枚	便付 裏?			4.4	底付片	褐色	石英、褐色、灰色、白色、白～粗粒	粗粒、ヨコナゲ	ナゲ	2往-60	2往-046	
102 2枚	便			4.1	底光	褐色～暗褐色	小石、褐色、灰色、黑色、 黒～粗粒	向うからのがれ、底部波状紋のうち 黒～粗粒	ナゲ	2往-58	2往-050	
103 2枚	便			6.5	底2/3	褐色～系褐色	石灰、褐色、灰色、黒～砂粒	[ミガキ(タテ方向)]、底部波状紋	T工具によるナゲ	2往-4	2往-024	
104 2枚	便	B1	(12.6)	口1/4	褐色～茶褐色	石灰、褐色、灰色、白色、 黒～砂粒	[1]ヨコ波状紋のうち[2]半透明波状 紋、波状紋のうち下部の半 透明波状紋	解説	2往-41	2往-008		
105 2枚	便				刮剥片	褐色～茶褐色	石英、褐色、灰色、黒～砂粒	波状紋のうち下部波状紋	[ミガキ(ヨコ方向)]	2往-51	2往-047-058	
106 2枚	便			6.9	底光	褐色～灰褐色	褐色、灰色、白色、黒～砂粒	半透明	解説	2往-2	2往-015-019	
107 2枚	便			7.2	底2/4	褐色～暗褐色	石灰、褐色、灰色、黒～砂粒	工具によるナゲ(堅膜)、堅膜	[ナゲのちミガキ(堅 膜)]	2往-32	2往-023-024	
108 2枚	便付 裏上物品				底付片	褐色～暗褐色	石英、褐色、灰色、白色、白～粗粒	堅膜	解説	2往-19	2往-028	専局不明
109 2枚	便付 裏?			(18.8)	口1/8	褐色～暗褐色	外褐色～暗褐色、 内褐色～暗褐色	[ミガキのうち薄膜(堅膜)]	[ミガキ(ヨコ方向)]の うち	試II-b	試II-008	内外部形 (外側には ぼけ跡)
110 2枚	便	A	(22.0)	口1/8	褐色	褐色	石英、褐色、灰色、白色、 黒～粗粒	ヨコ波状紋、Rヨコ方向縫、 横波状紋	解説	試II-3	試II-008	
111 2枚	便付 裏?			(9.2)	底2/3	褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	堅膜、ヨコナゲ	解説	試II-2	WTI-001	
112 2枚	便?			(22.4)	口1/12	褐色～暗褐色	石英、褐色、灰色、黒～砂粒	ヨコナゲ、半透明	[ナゲのちミガキ(ヨ コ方向)]のうち黑色化 現?	試II-1	試II-007	骨上部では はなげ内 面黑色化現 現?
113 2枚	便				刮剥片	褐色～暗褐色	褐色、灰色、黑色、黒～砂粒	厚膜、下部ハケメ	解説	試II-6	試II-008	
114 2枚	便			7.7	底光	褐色～茶褐色	石英、褐色、灰色、黒～砂粒	上部によるナゲ、底部ナゲ(ほくら のほか)	上部ハケメのうち工具 によるナゲ、ハケメ	試II-1	試II-008	
115 2枚	便付 裏?				底付片	褐色～暗褐色	石英、褐色、灰色、黒～砂粒	解説、底部変形、孔のうちナ ゲ、ナゲ	解説	試II-7	試II-006	
116 土成1	便			8.2	底光	褐色～暗褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	堅膜、下部ヨコナゲ(ヨコ方向)、底部 ナゲ	解説	1-1	1-002-003、N483-132	
117 土成1	便			7.1	底光	褐色～暗褐色	石英、褐色、灰色、黒～砂粒	堅膜、底部ナゲ、側後穿孔	解説	+1-3	+1-001	
118 土成1	便			7.1	底3/4	褐色～暗褐色	褐色、灰褐色、白色、黒～粗粒	工具によるナゲ、底部ナゲ	ハケメ	+1-2	+1-001-003	
119 上成1	便				頭部片	褐色	褐色、灰褐色、白色、黒～粗粒	堅膜、根部化粧	解説	N482-5	N482-135	
120 上成2	便付 裏?	A		(11.4)	口1/8	褐色	褐色、灰色、黑色、黒～砂粒	ヨコ波状紋、根部化粧	解説、波状紋のうち	N480-16	N480-125-127	
121 上成2	便			(10.6)	口1/8	褐色	褐色、灰色、黑色、黒～砂粒	ヨコ波状紋、根部化粧	解説	N480-18	N480-130	
122 土成2	便			(7.1)	底付片	褐色～暗褐色	石英、褐色、灰色、黒～砂粒	堅膜、基部厚膜	ナゲ(解説)	N483-2	N483-124	
123 土成2	便			(8.4)	底2/3	褐色～暗褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	堅膜、底部堅膜	解説	N483-3	N483-131	
124 土成2	便			(6.0)	底2/3	褐色～暗褐色	石英、褐色、灰色、黒～砂粒	指ナゲ、底部堅膜	解説	N483-2	N483-129	
125 土成2	便			(9.0)	底1/3	褐色～暗褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	ヨコ波状紋、底部ナゲ	解説	N483-9	N483-127	
126 土成2	便			(8.4)	底2/3	褐色～暗褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	厚膜、底部ナゲ	解説	N483-10	N483-124	
127 土成2	便			6.9	底4/5	褐色	褐色、灰褐色、灰褐色、黒～砂粒	厚膜、底部堅膜	解説	土2-1	土2-004	
128 土成2	便				頭部片	褐色	石英、褐色、灰色、黑色、黒～ 砂粒	ヨコ波状紋、底部ナゲ	ナゲ	N483-17	N483-123	引後期
129 土成2	便	A	(15.6)		111/10	暗褐色	褐色、灰褐色、灰褐色、黒～ 砂粒	ヨコ波状紋	解説	N483-12	N483-131	

番号	地名	形状	寸法	種別	色調	粒土	特徴・構造		実測 kg	注記	備考	
							外面	内面				
130	上段6 鉢	球形 25cm	高さ 10cm	直径 10cm	口1/10 馬頭色、内側白 内外薄色～赤茶色	褐色、灰色、白色、黒～砂粒	コロコロナガ、ミガキのちぶき(壁威)	ミガキのちぶき(壁威)	1.6-0	1.6-006	内外面引合	
131	上段6 鉢又は 花盆			(16.4)	口1/8	褐色、内側白～ 暗茶色	褐色、灰色、白色、黒～砂粒	コロコロナガ、ミガキ(壁威)のちぶき のちぶき	1.6-3	1.6-006	内外面引合	
132	上段6 鉢			(8.8)	直1/6	褐色	褐色、白色、黒～砂粒	厚底、底面摩耗	厚底	1.6-2	1.6-006 内外面引合	
133	上段6 鉢			(8.4)	直1/1	褐色～赤茶色	褐色、灰色、白色、黒～砂粒	厚底、底面摩耗	厚底	1.6-1	1.6-006	
134	上段6 鉢 A			(13.2)	口1/5	褐色	褐色、白色、黒～砂粒	厚底、底面摩耗	厚底	1.6-003 13	N2493 138	
135	上段6 鉢			(8.8)	直1/10	褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	厚底、底面摩耗	厚底	1.6-003 11	N2493 139	
136	上段6 鉢			(12.6)	直一部	褐色～褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	厚底、底面摩耗	厚底	1.6-003 4	V2493-138	
137	上段6 鉢			(7.8)	直1/3	褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	工具によるナガ、底面ナナ	工具によるナナ	1.6-003 1	V2493 138	
138	上段6 鉢			(9.6)	直1/6	褐色～暗茶色	褐色、白色、黒～砂粒	厚底、底面摩耗	ナナ	1.6-003 5	V2493-138	
139	上段6 鉢			(7.2)	直1/4	褐色	褐色、白色、黒～砂粒	厚底、底面摩耗	厚底	1.6-003 7	V2493-140	
140	上段6 鉢			(7.0)	直1/4	褐色	褐色、白色、黒～砂粒	ハケメ?(壁威)、底面摩耗	ハケメ?(壁威)	1.6-003 6	V2493 138	
141	植物 内	鉢		(17.2)	口1/8	外赤褐色～黒	褐色、灰色、黒～砂粒	ミガキ(コナガ)、ミガキのちぶき(壁威) ミガキ?(壁威)のちぶき	ミガキ(コナガ)のちぶき	1.6-003 12	N2493 106 内外面は注 釣り脚	
142	植物 内	鉢		(17.0)	口1/8	外赤褐色～黒	褐色、灰色、黒～砂粒	口縁ヨコナガ、ミガキのちぶき(壁威) ミガキ(コナガ)のちぶき	ミガキ(コナガ)の ちぶき	1.6-003 16	N2493 103 (外側は注 釣り脚)	
143	植物 内	鉢		(6.8)	直1/4	褐色～青緑	褐色、灰色、黒～砂粒	ミガキ?(壁威)のちぶき、底面ミガキ ?: (壁威)のちぶき	厚底	1.6-003 14	N2493 103 外側、底部 摩耗	
144	植物 内	鉢 B1		(14.6)	口1/3	褐色～青緑	褐色、灰色、黒～砂粒	ミガキ(ヨコナガ)	ミガキ(ヨコナガ)	1.6-006	1.6-006-101	
145	植物 内	鉢 B1		(19.3)	111/12	褐色～暗褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	ミガキ(ヨコナガ)、ミガキのちぶき(壁威) ミガキ(壁威)脚部(底面に開脚?)、厚底	厚底	1.6-006	1.6-006-101	
146	植物 内	鉢		(8.4)	直3/4	褐色～暗褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	厚底、底面摩耗	厚底	1.6-006	1.6-006-101	
147	植物 内	鉢 A		(16.8)	口1/8	褐色～暗茶色	褐色、灰色、黒～砂粒	口縁ヨコナガ、底面状、厚底状、厚底	ミガキ(ヨコナガ)	1.6-006-101	V2493 085-101-102	
148	植物 内	鉢 A		(14.4)	口1/6	褐色～暗褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	ミガキヨコナガ、波状底	厚底	1.6-006	V2493 102	
149	植物 内	鉢 A		(16.2)	口1/2	褐色～暗褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	ミガキヨコナガ、波状底柔柔	厚底	1.6-006	V2493 083-084	
150	植物 内	鉢		(6.8)	直2/3	褐色～暗褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	厚底、底面摩耗、穿孔のちナナ	厚底	1.6-006-10	V2493 085-090	
151	植物 内	鉢		(6.4)	直1/2	褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	厚底、底面摩耗、穿孔のナナ	厚底	1.6-006	V2493 091	
152	植物 内	鉢		10.4	111/2	褐色～暗褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	ミガキ(壁威)、厚底	厚底	1.6-006	V2493 092	
153	植物 外	鉢 A		(10.8)	111/6	褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	口縁ヨコナガ、厚底	厚底	1.6-003 10	V2493-110	
154	植物 外	鉢 A	11.2	5 (10.7)	6.5	褐色～青緑	褐色、灰色、黒～砂粒	ミガキ(ヨコナガ)、波状底、穿孔状柔柔、 ミガキ(壁威)、底面摩耗	ナナ(壁威)	1.6-006 01	V2493-091-092	
155	植物 外	鉢				褐色～暗褐色	褐色、灰色、黑色、黒～砂粒	新植株様態、板羽状底	厚底	1.6-006-111-112-113	V2493-111-112-113	
156	植物 外	鉢			(8.2)	褐色～青緑	褐色～暗褐色	厚底、底面摩耗	厚底	1.6-006-115-116	V2493-116	
157	植物 外	鉢			(10.2)	直一部	褐色～暗褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	ミガキ(ヨコナガ)、穿孔のちナナ、ミガ キのち青緑(厚底)	厚底	1.6-006-111	内外面引合 (壁威)
158	植物 外	鉢			(6.6)	底1/4	褐色～暗褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	ミガキ(厚底)、底面摩耗	厚底	1.6-006-116	内外面引合 (壁威)
159	植物 外	鉢				苏葉色～赤茶色	褐色、灰色、黒～砂粒	ミガキ(壁威)のちぶき	ミガキ(壁威)のちぶき	1.6-006-115	外側、波状 内側、青白 内外面引合	
160	植物 外	鉢				脚部片	褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	ミガキ(壁威)のちぶき	ミガキ(壁威)	1.6-006-115	外側、波状 内側、青白 内外面引合
161	植物 外	鉢				脚部片	褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	厚底	1.6-006-116	V2493-116	
162	植物 外	鉢				脚部片	褐色	褐色～灰褐色、白色、黒～砂粒	厚底、ヨコナガのち山形比叡紋、穿 孔状柔柔、厚底	厚底	1.6-006-117	V2493-143
163	植物 外	鉢				脚部片	褐色	褐色	厚底	1.6-006-118	V2493-116	
164	植物 外	鉢			(R. 4)	直一部	褐色～暗褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	厚底、底面摩耗	厚底	1.6-006-115	V2493-115
165	植物 外	鉢			(B. 6)	直1/8	褐色～暗褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	厚底、底面摩耗	厚底	1.6-006-116	V2493-116
166	植物 外	鉢			(7.2)	成1/2	褐色～暗褐色	褐色、灰色、白色、黒～砂粒	工具によるナナ、底面工具によるナ 工具によるナナ	厚底	1.6-006-117	N2493-101
167	植物 外	鉢			(6.4)	直1/10	褐色	褐色、灰色、白色、黒～砂粒	厚底、底面摩耗	厚底	1.6-006-118	A2493 115
168	植物 外	鉢			(7.0)	直1/3	褐色～暗茶色	褐色、灰色、白色、黒～砂粒	工具によるナナ、底面厚底	ナナ	1.6-006-119	V2493-143
169	植物 外	鉢 B1	(24.6)	口1/12	褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	褐色	厚底	厚底	厚底	1.6-006-119	V2493-118
170	植物 外	鉢 B1	(20.6)	口1/10	褐色～暗褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	ミガキ(壁威)、口縁ヨコナガ、地 板羽状底	厚底	厚底	1.6-006-119	V2493-118	
171	植物 外	鉢 A	(15.5)	口1/3	褐色～暗茶色	褐色、灰色、黒～砂粒	ミガキ(壁威)、厚底、底面摩耗、脚部偏 斜脚部	厚底	ハケメ	21	108-112, 107-109-141	
172	植物 外	鉢 A	(10.6)	口1/16	深褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	ミガキ(壁威)、厚底、底面状柔柔、斜脚部	厚底	厚底	15	102	
173	植物 外	鉢			脚部片	褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	厚底	厚底	12	103	
174	植物 外	鉢			(6.6)	直1/6	褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	厚底、底面摩耗	厚底	12	103

番号	地名	形式	寸法	形状	表面	色調	加工	絞り・調節			束ね No.	件数 No.	備考
								外寸	内寸	内寸			
175	海辺 河辺 海岸	付合	高さ: 口径 (5.6)	脚部分	褐色	褐色、灰色、白色、黒～紺赤	研磨				K24EW0-13	NO480-100	
176	海辺 河辺 海岸	付合	高さ: 口径 (6.8)	脚部分	褐色～紺赤褐色	褐色、灰色、黑色、黒～紺赤	研磨、底面磨拭				K24EW0-6	NO590-101	
177	海物 河辺	張	高さ: 口径 (5.2)	脚部分	褐色	褐色、灰色、黑色、黒～紺赤	研磨、底面磨拭				N27E0-2	N27K0-143	
178	海物 河辺	張	高さ: 口径 (5.2)	脚部分	褐色	褐色、灰色、黑色、黒～紺赤	研磨、底面磨拭				N27E0-2	N27K0-115-116	
179	海物 河辺	A	高さ: 口径 (16.9)	脚部分	褐色	褐色、灰色、黑色、黒～紺赤	研磨				N27E0-5	N27K0-141	
180	海物 河辺	張	高さ: 口径 (16.6)	脚部分	褐色～紺褐色	褐色、灰色、黑色、黒～紺赤	研磨、口部研磨(草彌)、口部ヨコナガ、底 付研磨				N27E0-5	N27K0-141	
181	海物 河辺	張?	高さ: 口径 (3.6)	脚部分	褐色	褐色、灰色、黑色、黒～紺赤	研磨				N27E0-3	N27K0-143	
182	海物 河辺	張	高さ: 口径 (9.6)	脚部分	褐色	褐色、灰色、黑色、黒～紺赤	研磨、底面磨拭				N24EW0-5	NO590-100	
183	海物 河辺	張	高さ: 口径 (6.6)	脚部分	褐色～紺褐色	褐色、灰色、黑色、黒～紺赤	研磨、底面磨拭				N24EW0-7	NO590-101	
184	海物 河辺	A	高さ: 口径 (14.6)	脚部分	褐色	褐色、灰色、黒～紺赤	研磨、口部ヨコナガ、草彌				N27E0-2	N27K0-141	
185	海物 河辺	張	高さ: 口径 (9.6)	脚部分	褐色	褐色、灰色、黒～紺赤	研磨、底面磨拭				N24EW0-10	NO590-103	
186	海物 河辺	張	高さ: 口径 (7.3)	脚部分	褐色	褐色、灰色、黑色、黒～紺赤	研磨、底面ナガ(モニ正丸あり)				N24EW0-2	N27K0-100	
187	海物 河辺	B1	高さ: 口径 (8.4)	脚部分	褐色	褐色、灰色、黑色、黒～紺赤	研磨、底面磨拭				N27E0-4	N27K0-142	
188	海物 河辺	張	高さ: 口径 (7.4)	脚部分	褐色～紺褐色	褐色、灰色、黑色、黒～紺赤	研磨、底面磨拭				N27E0-1	N24E0-115	
189	海物 河辺	張	高さ: 口径 (7.2)	脚部分	褐色～紺褐色	褐色、灰色、黑色、黒～紺赤	工具によるナガ、底面磨拭				N27E0-1	N27K0-141	
190	高杯		高さ: 口径 (20.9)	脚部分	褐色～紺褐色	褐色、灰色、黒～紺赤	工具によるナガ、底面磨拭				N27E0-1	N27K0-141	内外兼用
191	高杯	高杯	高さ: 口径 (6.5)	脚部分	褐色	褐色、灰色、黒～紺赤	ミガキ(草彌)のち磨拭、ヨコナガ				N27E0-9	NO63-027	内外兼用
192	高杯		高さ: 口径 (6.2)	脚部分	褐色～紺褐色	褐色、灰色、黒～紺赤	ミガキ(ヨコ方向)、底面ナガ				N27E0-5	NO62-012	
193	高杯		高さ: 口径 (5.3)	脚部分	褐色	褐色、灰色、黒～紺赤	研磨、底面磨拭				M27E0-1	NO63-026	
194	高杯		高さ: 口径 (9.8)	脚部分	褐色～紺褐色	褐色、灰色、黒～紺赤	ミガキ(ヨコ方向)、底面ナガ				M27E0-2	NO2-009-013-017-019	
195	高杯		高さ: 口径 (9.4)	脚部分	褐色～紺褐色	褐色、灰色、黒～紺赤	ミガキ(ヨコ方向)、底面ナガ				N27E0-1	N27K0-008	
196	高杯	B2	高さ: 口径 (12.4)	脚部分	褐色～紺褐色	褐色、灰色、黒～紺赤	口部ヨコナガ、底面磨拭、横状狀、研磨				M27E0-10	NO62-005	
197	高杯	高杯	高さ: 口径 (9.1)	脚部分	褐色～紺褐色	褐色、灰色、黒～紺赤	工具によるナガ、底面磨拭				M27E0-14	NO62-054	
198	高杯	A	高さ: 口径 (9.6)	脚部分	褐色	褐色、灰色、黒～紺赤	ミガキ(ヨコ方向)のち磨拭、ヨコナガ				M27E0-12	N27K0-009	
199	高杯		高さ: 口径 (7.0)	脚部分	褐色～紺褐色	褐色、灰色、黒～紺赤	研磨、底面磨拭、山形比鉢状、1.8ヨコ方向				M27E0-13	N27K0-010	
200	高杯		高さ: 口径 (7.0)	脚部分	褐色～紺褐色	褐色、灰色、黒～紺赤	ハケメ又は工具によるナガ、底面				M27E0-6	NO2-009-013-017-019	
201	高杯	A	高さ: 口径 (7.8)	脚部分	褐色～紺褐色	褐色、灰色、黒～紺赤	ミガキ(ヨコ方向)のち磨拭、ヨコナガ				M27E0-11	NO62-017-017-019	
202	高杯	A	高さ: 口径 (7.6)	脚部分	褐色～紺褐色	褐色、灰色、黒～紺赤	ミガキ(ヨコ方向)のち磨拭、ヨコナガ				M27E0-6	N27K0-006	
203	高杯	B2	高さ: 口径 (16.6)	脚部分	褐色～紺褐色	褐色、灰色、黒～紺赤	ミガキ(ヨコ方向)のち磨拭、ヨコナガ				M27E0-9	N27K0-051	
204	高杯		高さ: 口径 (8.3)	脚部分	褐色～紺褐色	褐色、灰色、黒～紺赤	工具によるナガ				M27E0-4	N27K0-010	
205	高杯		高さ: 口径 (9.6)	脚部分	褐色～紺褐色	褐色、灰色、黒～紺赤	ミガキ(ヨコ方向)、底面ナガ				M27E0-3	N27K0-002	
206	高杯	A	高さ: 口径 (11.3)	脚部分	褐色～紺褐色	褐色、灰色、黒～紺赤	口部ヨコナガ、ミガキ(タテ方向)のち磨拭、横状狀				M27E0-11	N27K0-006	内外兼用
207	高杯	A	高さ: 口径 (9.2)	脚部分	褐色～紺褐色	褐色、灰色、黒～紺赤	ミガキ(ヨコ方向)のち磨拭				M27E0-1	N27K0-002	内外兼用
208	高杯		高さ: 口径 (9.6)	脚部分	褐色～紺褐色	褐色、灰色、黒～紺赤	ミガキ(ヨコ方向)のち磨拭				M27E0-10	N27K0-009	内外兼用
209	高杯		高さ: 口径 (9.6)	脚部分	褐色～紺褐色	褐色、灰色、黒～紺赤	ミガキ(ヨコ方向)のち磨拭				M27E0-14	N27K0-061	
210	高杯		高さ: 口径 (7.6)	脚部分	褐色～紺褐色	褐色、灰色、黒～紺赤	ミガキ(ヨコ方向)のち磨拭、ヨコナガ				M27E0-6	N27K0-006	
211	水		高さ: 口径 (7.6)	脚部分	褐色～紺褐色	褐色、灰色、黒～紺赤	R 1.3 ポンチ方向、底面磨拭、横状狀、横面磨拭、 ミガキ(タテ方向)				M27E0-14	NO61-014-NO63-061	
212	水		高さ: 口径 (7.6)	脚部分	褐色～紺褐色	褐色、灰色、黒～紺赤	ミガキ(タテ方向)のち磨拭				M27E0-9	N27K0-006	
213	水	A	高さ: 口径 (6.0)	脚部分	褐色	褐色、灰色、黒～紺赤	ミガキ(タテ方向)、底面ナガ				M27E0-1	N27K0-049-051	
214	水	A	高さ: 口径 (6.0)	脚部分	褐色	褐色、灰色、黒～紺赤	ミガキ(タテ方向)、底面ナガ				M27E0-13	NO61-002-010-NO63-052	
215	水		高さ: 口径 (16.9)	脚部分	褐色	褐色、灰色、黒～紺赤	ミガキ(タテ方向)のち磨拭、底面ナガ				M27E0-1	N27K0-002-003-005	
216	水		高さ: 口径 (6.1)	脚部分	褐色～紺褐色	褐色、灰色、黒～紺赤	ミガキ(タテ方向)、底面ナガ				M27E0-17	NO2-003-051-052	
217	水		高さ: 口径 (6.1)	脚部分	褐色～紺褐色	褐色、灰色、黒～紺赤	ミガキ(タテ方向)、底面ナガ				M27E0-1	N27K0-001	
218	水		高さ: 口径 (7.9)	脚部分	褐色～紺褐色	褐色、灰色、黒～紺赤	工具によるナガ、底面磨拭、底面ナガ、追加ナ ゲ				M27E0-5	N27K0-017-015	
219	水		高さ: 口径 (7.0)	脚部分	褐色～紺褐色	褐色、灰色、黒～紺赤	底面、背面磨拭				M27E0-1	N27K0-015	
220	水		高さ: 口径 (11.9)	脚部分	褐色～紺褐色	褐色、灰色、黒～紺赤	ミガキ(タテ方向)のち磨拭、底面ナガ				M27E0-1	N27K0-003	
221	水		高さ: 口径 (9.2)	脚部分	褐色～紺褐色	褐色、灰色、黒～紺赤	工具によるナガ、追加ナ ゲ				M27E0-7	N27K0-009	内面赤色無 背付有
222	水		高さ: 口径 (8.2)	脚部分	褐色～紺褐色	褐色、灰色、黒～紺赤	ミガキ(ヨコ方向)、ヨコナガ				M27E0-12	N27K0-011-013-NO63-051	
223	水		高さ: 口径 (9.4)	脚部分	褐色～紺褐色	褐色、灰色、黒～紺赤	ミガキ(横状狀)、ミガキ(タテ方向)				M27E0-15	N27K0-003-NO63-051	
224	水	鉢	高さ: 口径 (9.4)	脚部分	褐色～紺褐色	褐色、灰色、黒～紺赤	ミガキ(ヨコ方向)、底面				M27E0-9	N27K0-003	内外兼用

番号	品目	別式	寸法	操作種	色調	樹皮	牧場・飼料		表面	内面	実測 量	注記	備考
							外側	内側					
225	木3	株		(3.6)	透1/4 色	黄褐色～暗褐色 砂粒	石灰、褐色、灰色、白色。第一 層	ミガキ(原誠)、透正厚誠	ミガキ(原誠)	透5-9	±85-002	内外兼用	
226	木3	世 A	(10.8)	透口付 火		透褐色～暗褐色 砂粒	石灰、褐色、灰色、黑色、微～砂粒	コロコロナガ、ミダカ(タケノコ)、 ハケメ、保衛沈序、ヘツ桔山形松、樹 脂等	工具によるナゲ 摩滅	透3-4	±85-003、V1256-071		
227	木3	透			透褐色片	褐色	石灰、褐色、灰色、黑色、微～砂粒	摩滅	透5-5	±85-003			
228	木3	透		(7.6)	透1/2 色	透褐色～暗褐色 砂粒	石灰、褐色、微～砂粒	摩滅、藍銅斑痕	摩滅	透5-1	±85-003		
229	木3	透		(5.6)	透1/3 色	透褐色～暗褐色 砂粒	石灰、褐色、灰色、微～砂粒	摩滅、藍銅斑痕	摩滅	透3-3	±85-007		
230	木3	透			透褐色片	褐色	石灰、褐色、灰色、微～砂粒	摩滅	ハケメ	透3-7	±85-002		
231	木3	透			透褐色片	褐色	石灰、褐色、灰色、微～砂粒	丁真によるナゲ(摩滅)	ナゲ(摩滅)	透3-7	±85-003		
232	木3	透			透褐色片	褐色	石灰、褐色、微～砂粒	摩滅、噴出斑痕	摩滅	透3-2	±85-002		
233	木3	透		(9.8)	透1/5 色	透褐色	石灰、褐色、微～砂粒	摩滅、藍銅斑痕	摩滅、藍銅斑痕	透5-3	±85-003		
234	木3	透		8.8	透5 色	透褐色	石灰、褐色、微～砂粒	摩滅、武藏厚誠	ハケメ、船底に火	透3-1	±85-001		
235	木3	透		(6.8)	透1/5 色	透褐色	石灰、褐色、微～砂粒	摩滅、武藏厚誠	摩滅	透5-2	±85-003		
236	木3	透		(5.6)	透1/2 色	透褐色	石灰、褐色、灰色、微～砂粒	摩滅	ナゲ(摩滅)	透3-5	±85-005		
237	木3	透		(4.0)	透1/4 色	透褐色～暗褐色 砂粒	石灰、褐色、灰色、微～砂粒	工具によるナゲ、透正厚誠	ナゲ(摩滅)	透5-1	±85-004		
238	木3	透		3.0	透1/2 色	透褐色～暗褐色 砂粒	石灰、褐色、灰色、微～砂粒	工具によるナゲ、透正厚誠	ナゲ(摩滅)	透3-6	±85-003		
239	木3	透	A	(17.0)	口1/2 色	透褐色～暗褐色 砂粒	石灰、褐色、灰色、微～砂粒	11号キダミ、ロロコロナガ、厚誠 モガキ(摩滅)、透状	摩滅、透正厚誠	透5-6	±85-003		
240	木3	透	A	(15.4)	1/11 色	透褐色～暗褐色 砂粒	石灰、褐色、灰色、微～砂粒	ロロコロナガ、R1仕口方開闢、 モガキ(摩滅)、透状	ハケメ	透5-10	±85-003、V1256-071		
241	木3	透		1.65	(2.2) (2.3) 色	透褐色～暗褐色 砂粒	石灰、褐色、灰色、微～砂粒	摩滅、武藏厚誠	摩滅	透5-11	±85-001		
242	木4	針		(5.2)	透1/5 色	透褐色～暗褐色 砂粒	石灰、褐色、灰色、微～砂粒	摩滅、武藏厚誠	摩滅	透4-9	±85-001 (厚誠)		
243	木4	針			透褐色片	褐色	石灰、褐色、灰色、微～砂粒	透正厚誠、ミガキ(ロコ万葉)	摩滅	透4-13	±85-007		
244	木4	高杯		(12.0)	透1/6 色	透褐色～暗褐色 砂粒	石灰、褐色、灰色、微～砂粒	ミガキ(タケ方向)のち赤茶、ヨコナ ギ	工具によるナゲ	透4-10	±85-001 外面兼用		
245	木4	吸	A	(11.6)	口1/8 色	透褐色～暗褐色 砂粒	石灰、褐色、灰色、微～砂粒	11号キダミ、透正厚誠、摩滅	ミガキ(ヨコ方向)の ち赤茶	透4-12	±85-001 内面兼用		
246	木4	透			透1/3 色	透褐色片	外褐色、内褐色 石灰、褐色、灰色、微～砂粒	ハケメ、椎根沈序	ミガキ(ヨコ方向)の ち赤茶	透4-13	±85-007 内面兼用		
247	木4	透			透褐色片	褐色	透褐色～赤褐色 石灰、褐色、灰色、微～砂粒	透正厚誠、1.5倍厚誠、透正厚誠、 1.5倍厚誠、武藏厚誠	摩滅	透4-11	±85-009 外面兼用		
248	木4	透		(14.8)	透1/2 色	透褐色	石灰、褐色、灰色、微～砂粒	11号キダミ、透正厚誠、摩滅	ハケメ	透4-1	±85-003		
249	木4	透			透褐色片	褐色	透褐色～暗褐色 石灰、褐色、灰色、微～砂粒	摩滅、横筋沈序、摩滅(摩滅)、透状	摩滅	透4-16	±85-012		
250	木4	透		(9.2)	透1/3 色	透褐色～暗褐色 砂粒	石灰、褐色、灰色、微～砂粒	工具によるナゲ、透正厚誠	ナゲ(摩滅)	透4-8	±85-001		
251	木4	透		(6.9)	透1/4 色	透褐色～暗褐色 砂粒	石灰、褐色、灰色、微～砂粒	工具によるナゲ、透正厚誠	工具によるナゲ、透状	透4-6	±85-013		
252	木4	透		(5.8)	透1/4 色	透褐色～暗褐色 砂粒	石灰、褐色、灰色、微～砂粒	ミガキ(タケ方向)、透正厚誠	ナゲ(摩滅)、透正厚誠	透5-3	±85-001		
253	木4	R1		(8.4)	1/11 色	透褐色片	石灰、褐色、灰色、微～砂粒	11号キダミ、透正厚誠、山形ナガ、 透正厚誠、透状	ミガキ(タケ方向)、透正厚誠	透4-14	±85-013		
254	木4	透			透1/4 色	褐色	石灰、褐色、灰色、微～砂粒	3号キダミのち工具によるナゲ、ナゲ (摩滅)	工具によるナゲ	透4-2	±85-001 外面兼用		
255	木4	透			透褐色片	褐色	透褐色～暗褐色 石灰、褐色、灰色、微～砂粒	摩滅、透正厚誠	摩滅、透正厚誠	透4-5	±85-001		
256	木5	透		4.7	透完 色	透褐色	石灰、褐色、灰色、微～砂粒	工具によるナゲ、透正厚誠(透正厚誠) (透正厚誠)	工具によるナゲ	透4-4	±85-018		
257	木4	透		(4.6)	透1/3 色	透褐色～暗褐色 砂粒	石灰、褐色、灰色、微～砂粒	透正厚誠、透正厚誠、透正厚誠のち 透正厚誠	透正厚誠	透4-7	±85-001		
258	木4-3	透		7.36	(18.0)	透1/2 色	透褐色～暗褐色 砂粒	石灰、褐色、灰色、微～砂粒	ミガキ(タケ方向)、透正厚誠	N1253-12 N1253-069 N1256-071 外部、紙部 多色彩			
259	木4-3	透			透1/2 色	透褐色片	外褐色、内褐色 石灰、褐色、灰色、微～砂粒	透正厚誠、透状	ミガキ(タケ方向)のち赤茶 透正厚誠	N1253-12 N1253-069 N1256-071 外部、紙部 多色彩			
260	木4-3	透			透口8 色	透褐色	外褐色～透褐色 石灰、褐色、灰色、微～砂粒	透正厚誠	ミガキ(ヨコ方向)のち赤茶	N1256-11 N1256-054 (外面部)			
261	木4-3	透			透1/5 色	透褐色片	外褐色～透褐色 石灰、褐色、灰色、微～砂粒	透正厚誠	ミガキ(ヨコ方向)のち赤茶	N1256-11 N1256-034 (内面部)			
262	木4-3	透			透1/2 色	透褐色片	外褐色～透褐色 石灰、褐色、灰色、微～砂粒	透正厚誠	ミガキ(ヨコ方向)のち赤茶	N1256-14 N1256-051 内外兼用			
263	木4-3	透			透1/2 色	透褐色片	外褐色～透褐色 石灰、褐色、灰色、微～砂粒	透正厚誠	ミガキ(ヨコ方向)のち赤茶	N1256-14 N1256-071			
264	木4-3	透			透1/5 色	透褐色片	透褐色	透正厚誠	ミガキ(ヨコ方向)	N1256-9 V1253-052			
265	木4-3	透		(6.3)	透1/4 色	透褐色片	褐色	透正厚誠	透正厚誠	V1256-5 N1256-054 V1256-7 N1256-071			
266	木4-3	透			透口8 色	透褐色片	褐色	透正厚誠	ナゲ(摩滅)	N1256-7 N1256-071			
267	木4-3	透			透1/2 色	透褐色片	褐色	透正厚誠	ナゲ(摩滅)	N1253-18 V1253-051			
268	木4-3	透	B2	(14.0)	透1/2 色	透褐色片	透褐色	透正厚誠	透正厚誠	N1253-8 V1253-069			
269	木4-3	透	B2	(15.8)	透1/5 色	透褐色片	透褐色	透正厚誠	透正厚誠	N1253-8 N1253-051			
270	木4-3	透		32.9 5	(14.0)	透褐色片	透褐色	透正厚誠	透正厚誠	N1256-9 N1256-071			
271	木4-3	透			透褐色片	褐色	透褐色	透正厚誠	ナゲ(摩滅)	N1256-8 N1256-071			
272	木4-3	透			透褐色片	褐色	透褐色	透正厚誠	ナゲ(摩滅)	N1253-16 N1253-033			

地名	形式	寸法	形状	表面	色調	鉄上	形状・調節			実測	注記	備考
							外形	内面				
273. 門-3 四辺	板		板脚片	底面鈍角へ~高凸	石英、褐色、灰色、深~中凹	摩擦、噴塗表面、山形沈透状	ナゲ(漆油)	K12E-3-11	V1E3-069			
274. 門-3 四辺	板		板脚片	外側面~赤面	石英、褐色、灰色、深~中凹	ミガキ(ヨコ方向)のち磨擦	ミガキ(ヨコ方向)のち磨擦	ミガキ(ヨコ方向)のち磨擦	ミガキ(ヨコ方向)のち磨擦	K0E3-15	NEE3 051	外系、内面 上端部
275. 門-3 四辺	板		脚脚片	褐色	石英、褐色、灰色、黑色、深~中凹	摩擦	摩擦	摩擦	摩擦	K12E-3-9	V1E3-068	
276. 門-3 四辺 焼	板		脚脚片	褐色	石英、褐色、灰色、黑色、深~中凹	摩擦	摩擦	摩擦	摩擦	NAD3	NEE3-060	
277. 門-3 四辺	板 B1	(12.6)	脚脚片	褐色	石英、褐色、灰色、深~中凹	ロジンヨコナラ、T.ヨコ方向縫合、上 形沈透状、原版	ナゲ	WEG3-12	ME3 030			
278. 門-3-1 四辺	板		脚脚片	褐色	褐色、灰凸	鐵錆	ミガキ(ヨコ方向)、横構造版、磨版	ミガキ(ヨコ方向)、横構造版、磨版	ミガキ(ヨコ方向)、横構造版、磨版	NAD3 16	VEE3-051	
279. 門-3 四辺	板		脚脚片	褐色	褐色、灰凸	鐵錆	山形沈透状、磨版	ミガキ(ヨコ方向)、横構造版、磨版	ミガキ(ヨコ方向)、横構造版、磨版	NAD3-17	VEE3-051	
280. 門-3 四辺 焼	板		脚脚片	褐色	褐色、灰凸	鐵錆	山形沈透状、磨版	ミガキ(ヨコ方向)、横構造版、磨版	ミガキ(ヨコ方向)、横構造版、磨版	K12E-3-10	V1E3-069、V1E3-071	
281. 門-3 四辺	板		脚脚片	褐色	褐色、灰凸	鐵錆	磨版、横構造版、原版、押し引き 縫合、鋼板	ミガキ(ヨコ方向)、横構造版、原版	ミガキ(ヨコ方向)、横構造版、原版	NEE3 12	NEE3-061	
282. 門-3 四辺 焼	板		脚脚片	褐色	褐色、灰凸、白色、深~中凹	ミガキ(磨版)のち赤赤、横構造版	ナゲ	NEE3-13	NEE3-051	外系多部		
283. 門-3 四辺	板	(7.4)	近1/4	褐色	褐色、灰凸、深~中凹	磨版、底面摩擦	ハケメ	WEE3-3	NEE3 051			
284. 門-3 四辺 焼	板	(7.5)	近1/2	褐色	褐色、灰凸、深~中凹	磨版、底面摩擦	ミガキ(ヨコ方向)、電鋸摩擦	ミガキ(ヨコ方向)、電鋸摩擦	ミガキ(ヨコ方向)、電鋸摩擦	K12E-3	V1E3-071	
285. 門-3 四辺 焼	板	(7.6)	近1/2	褐色	褐色、灰凸、深~中凹	磨版、底面摩擦	ナゲ	NAD3-11	WEE3-071			
286. 門-3 四辺	板	(11.1)	近1/4	褐色~茶褐色	白灰、灰凸、褐色、灰色、深~中凹	T.工具によるナゲ、底面ナゲ	ナゲ、底面摩擦	ナゲ	WEE3-9	NEE3 032		
287. 門-3 四辺	板	(15.0)	近1/2	褐色~褐色	石英、褐色、灰凸、白色、白色、深~中凹	摩擦、底面摩擦	摩擦	摩擦	摩擦	K12E-3-4	V1E3-068	
288. 門-3 四辺	板	(11.8)	近~2倍	褐色~茶褐色	褐色、灰凸、褐色、深~中凹	摩擦、底面摩擦	モダニ	モダニ	モダニ	NAD3-2	NEE3-051	
289. 門-3 四辺 土質品	板		褐色~茶褐色	石英、褐色、灰色、深~中凹	ナゲ、穿孔のちナゲ	ナゲ	WEE3-9	NEE3-055				
290. 門-3 四辺	板	(7.9)	近~2倍	褐色	石英、褐色、灰凸、深~中凹	摩擦、底面摩擦	摩擦	摩擦	摩擦	WEE3-6	NEE3-051	
291. 門-3 四辺	板	(10.0)	近1/4	褐色	褐色、灰凸、深~中凹	摩擦、底面摩擦	摩擦	摩擦	摩擦	WEE3-2	NEE3 054	
292. 門-3 四辺	板	(10.0)	近1/2	褐色~浅茶褐色	石英、褐色、灰凸、深~中凹	摩擦、底面摩擦	摩擦	摩擦	摩擦	WEE3-3	NEE3-055	
293. 門-3 四辺	板	(6.6)	近1/2	褐色	褐色、灰凸、深~中凹	摩擦、底面摩擦	ハケメ	K12E-2	V1E3-071			
294. 門-3 四辺 焼	板 A	(9.4)	近1/4	褐色	褐色、灰凸、深~中凹	コヨニヨコナラ、摩擦	摩擦	摩擦	摩擦	NAD3-7	WEE3 054	
295. 門-3 四辺 焼	板 A	(18.8)	口1/6	褐色	褐色、灰凸、深~中凹	ロ袖ヨコナゲ、摩擦、底面、摩擦	摩擦	摩擦	摩擦	WEE3-13	NEE3-030	
296. 門-3 四辺 焼	板 A	(12.0)	口1-2倍	褐色	褐色、灰凸、深~中凹	ナゲ、底面、灰凸、深~中凹	T.工具によるナゲ、底面ナゲ	ナゲ	WEE3-11	NEE3-051		
297. 門-3 四辺	板	(21.4)	口1/2	茶褐色	石英、褐色、灰凸、深~中凹	11種ヨコナラ、11種ヨコナラ、羽根状 羽根状(底板被付)、摩擦	摩擦	摩擦	摩擦	WEE3 8	NEE3-056	
298. 門-3 四辺	板 B1	(21.4)	口1/2	茶褐色	褐色~茶褐色	11種ヨコナラ、11種ヨコナラ、羽根状 羽根状(底板被付)、摩擦	摩擦	摩擦	摩擦	WEE3-15	NEE3-032	
299. 門-3 四辺	板		脚脚片	褐色	褐色、灰凸、深~中凹	摩擦、底面摩擦	摩擦	摩擦	摩擦	WEE3-9	WEE3 055	
300. 門-3 四辺	板 B1	(11.7)	口1/2	褐色~茶褐色	石英、褐色、灰凸、深~中凹	ロ袖ヨコナラ、波状状、削落塗装板	ナゲ	K12E-3	V1E3-068			
301. 門-3 四辺	板 B1	(16.0)	口1/6	褐色~茶褐色	石英、褐色、灰凸、深~中凹	11種ヨコナラ、11種ヨコナラ、羽根状 羽根状、摩擦	摩擦	摩擦	摩擦	WEE3-6	NEE3-054	
302. 門-3 四辺	板 B1	(14.2)	口1/6	褐色~茶褐色	石英、褐色、灰凸、深~中凹	コヨニヨコナラ、T.ヨコ方向縫合、ナ ゴサツ	ミガキ(摩擦)	K12E-3	V1E3-066			
303. 門-3 四辺	板 B2	(11.4)	口1/8	暗茶褐色	石英、褐色、灰凸、深~中凹	コヨニヨコナラ(摩擦)、11種ヨコナラ、羽 根状、摩擦	ミガキ(ヨコ方向)	ミガキ(ヨコ方向)	ミガキ(ヨコ方向)	K12E-10	V1E3-051	
304. 門-3 四辺	板 B1	(15.0)	口1/8	褐色	褐色、灰凸、深~中凹	11種ヨコナラ、11種ヨコナラ、羽根状 羽根状(底板被付)、摩擦	摩擦	摩擦	摩擦	WEE3-14	NEE3-030	
305. 門-3 四辺	板	(7.4)	近1/4	褐色	褐色、灰凸、深~中凹	摩擦、底面摩擦	摩擦	摩擦	摩擦	WEE3 4	NEE3-064	
306. 門-3 四辺	板	(7.6)	近1/4	褐色~茶褐色	褐色、灰凸、深~中凹	工具によるナゲ、底面ナゲ	摩擦	摩擦	摩擦	WEE3-3	NEE3-030	
307. 門-3 四辺	板	(8.2)	近1/4	褐色	褐色、灰凸、深~中凹	摩擦、底面摩擦	ナゲ	K12E-3	V1E3-069			
308. 門-3 四辺	板	(6.6)	近1/3	褐色	石英、褐色、灰凸、深~中凹	摩擦、底面摩擦	ナゲ	WEE3-1	NEE3-054			
309. 門-3 四辺	板	(8.4)	近1/3	褐色	石英、褐色、灰凸、深~中凹	ミガキ(ヨコ方向)、工具によるナ ゲ(摩擦)、底面摩擦	ナゲ(摩擦)	ナゲ(摩擦)	ナゲ(摩擦)	K12E-4	V1E3-071	
310. 門-3 四辺	板	(7.0)	近1/4	褐色	石英、褐色、灰凸、深~中凹	摩擦、底面摩擦	ナゲ	WEE3 4	NEE3-051			
311. 門-3 四辺	板	(10.2)	近1/3	褐色~茶褐色	石英、褐色、灰凸、深~中凹	摩擦、底面摩擦	ナゲ(ナゲ(摩擦))	ナゲ(ナゲ(摩擦))	ナゲ(ナゲ(摩擦))	K12E-3	V1E3-069	
312. 門-3 四辺	板	(6.2)	近1/4	褐色	石英、褐色、灰凸、深~中凹	摩擦、底面摩擦	ナゲ	WEE3-4	NEE3 030			
313. 門-3 四辺	板	(6.2)	近1/2	褐色~茶褐色	石英、褐色、灰凸、深~中凹	工具によるナゲ、底面ナゲ	T.工具によるナゲ	T.工具によるナゲ	T.工具によるナゲ	K12E-6	V1E3-071	
314. 門-3 四辺	板	(7.4)	近1/5	褐色~茶褐色	石英、褐色、灰凸、深~中凹	ナゲ、底面摩擦	ナゲ	WEE3-5	NEE3 051			
315. 門-3 四辺	板	(6.7)	近1/2倍	褐色~茶褐色	褐色、灰凸、深~中凹	摩擦、底面摩擦	ナゲ(ナゲ(摩擦))	ナゲ(ナゲ(摩擦))	ナゲ(ナゲ(摩擦))	K12E-3	V1E3-068	
316. 門-3 四辺	板 A	(5.6)	底1/4	褐色	石英鈍角~茶褐色	褐色、灰凸、深~中凹	摩擦、底面摩擦、底成前穴孔のちナ ゲ	ナゲ	K12E-3-5	V1E3-068		
317. 門-4 四辺	板 A	(10.0)	口1/6	褐色	石英、褐色、灰凸、深~中凹	ナゲヨコナラ、摩擦	ナゲ、底面摩擦、摩擦ヨコナラ	ナゲ	WEE3 11	NEE3-017		
318. 門-4 四辺	板	(8.8)	底1/2	玻璃面	石英	石英、褐色、灰凸	ナゲ	WEE3-8	NEE3-025			
319. 門-4 四辺	板		脚脚片	褐色	石英、褐色、灰凸、深~中凹	ナゲヨコナラ、ナゲ	ナゲヨコナラ、ナゲ	ナゲヨコナラ、ナゲ	WEE3-7	AEB3 020		

番 号	原形	形状	寸法	機器部	色調	脚上	紋様・圖案		内面	実測 No.	沖配	備考
							外由	内由				
320	高1-4 臺	箱形	體高 口径	底面	(9.9) 底2/3	褐色～暗褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	摩滅、底面ナグ	指ナブ、指添底紙	N1623-2	N1623-423	
321	梯 形切	II	(17.4)	1:1/12	褐色～暗褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	11種ヨコナブ、直状紋、底状紋	摩滅	N1620-2	N1620-002		
322	鏡 座杯?	-	-	脚部片	褐色	石英、褐色、灰色、黒～砂粒	摩滅	ミガキ(ミンガク)、磨耗、工具によるナブ	N1620-5	N1620-003		
323	高1 臺 邊	A	(9.4)	G1/3	褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	口唇ナグミ、口濃ヨコナブ、摩滅	摩滅	N1620-1	N1620-002		
324	高1-2 凸杯	-	-	B.6	底2/3	褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	止滑研削(剥離)、ミガキ(摩滅)	ミガキ?(摩滅)、摩滅	N1623-7	N1623-947	
325	F'9+1 先	-	(16.2)	G1/10	仙台	小黄、褐色、灰色、黒～砂粒	口縁ヨコナブ、摩滅、底状紋?	摩滅	N1620-5	N1620-007	新生初期	
326	F'9+1 先	-	(7.0)	底1/5	茶褐色	石英、褐色、灰色、黒～砂粒	工具によるナブ、直面ナブ	ナブ	N1620-2	N1620-007		
327	F'9+1 先	B1	(15.2)	1:1/10	褐色～暗茶褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	1.経ヨコナブ、摩滅、工具によるナブ(摩滅)	摩滅	N1620-4	N1620-007		
328	F'9+1 先	-	(8.2)	底1/4	茶褐色～灰褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	T工具によるナブ(摩滅)、底面ナグ(摩滅)	摩滅	N1620-1	N1620-007		
329	F'9+1 先	-	(5.6)	底2/5	褐色	石英、褐色、灰色、黒～砂粒	工具によるナブ(摩滅)、直面ナグ(摩滅)	ナブ(摩滅)	N1620-3	N1620-008		
330	F'9+1 先	-	(11.6)	底1-2	褐色	石英、褐色、灰色、黒～砂粒	摩滅、底面摩滅	ナブ	N1620-4	N1620-008		
331	F'9+1 先	K12	(7.0)	底1-2	褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	摩滅、底面摩滅	摩滅	N1620-2	N1620-016		
332	F'9+1 先	K12	(8.6)	底1/4	茶褐色～暗褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	摩滅、底面摩滅	摩滅	N1620-1	N1620-016		
333	F'9+1 先	K12	(6.6)	底1/4	茶褐色～暗褐色	石英、褐色、灰色、黒～砂粒	摩滅、底面摩滅	摩滅	N1620-1	N1620-016		
334	F'9+1 先	K12	(8.6)	底1/8	茶褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	摩滅、底面摩滅	摩滅	N1620-6	N1620-016		
335	F'9+1 先	K12	(11.0)	底1/5	灰色～暗褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	摩滅、底面摩滅	摩滅	N1620-2	N1620-016		
336	F'9+1 先	K12	(7.2)	底1/2	褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	摩滅、底面摩滅	摩滅	N1620-7	N1620-016		
337	F'9+1 先	K12	(7.4)	底1/2	褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	摩滅、底面摩滅	摩滅	N1620-3	N1620-016		
338	F'9+1 先	-	(4.6)	底1/3	褐色	石英、褐色、灰色、黒～砂粒	摩滅、底面摩滅	摩滅	N1620-6	N1620-016		
339	F'9+1 先	H12	(7.0)	底1-2	褐色	石英、褐色、灰色、黒～砂粒	摩滅、ヨコナブ	摩滅、工具によるナブ	N1620-3	N1620-016		
340	F'9+1 先	H12	(7.9)	底1-2	褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	摩滅、ヨコナブ	ナブ、摩滅	N1620-10	N1620-016		
341	F'9+1 合付	K12	(8.1)	底1-2	褐色～茶褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	摩滅、ヨコナブ	摩滅	N1620-9	N1620-016		
342	F'9+1 合付	H12	-	脚部片	褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	摩滅、工具によるナブ	摩滅、工具によるナブ	N1620-11	N1620-016		
343	F'9+1 先	K12	(4.6)	底1/3	褐色～暗褐色	石英、褐色、灰色、黒～砂粒	摩滅、底面摩滅	摩滅	N1620-6	N1620-016		
344	F'9+1 先	K12	-	脚部片	褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	摩滅	摩滅	N1620-12	N1620-016		
345	F'9+1 先	K12	-	脚部片	褐色～暗褐色	石英、褐色、灰色、黒～砂粒	摩滅、底面摩滅	摩滅	N1620-5	N1620-147		
346	F'9+1 先	K12	(13.8)	口1/16	茶褐色～褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	口縁ヨコナブ、摩滅	摩滅	N1620-15	N1620-159		
347	F'9+1 先	K12	-	脚部片	褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	摩滅、横面凹損	摩滅	N1620-17	N1620-159		
348	F'9+1 先	M12	(13.8)	底1/6	茶褐色～暗褐色	石英、褐色、灰色、白色、黒～砂粒	摩滅、底面摩滅	摩滅	N1620-10	N1620-157		
349	F'9+1 先	M12	(12.0)	底3/5	茶褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	摩滅、底面摩滅	摩滅	N1620-12	N1620-157		
350	F'9+1 先	M12	(7.8)	底1/4	褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	摩滅、底面摩滅	摩滅	N1620-11	N1620-157		
351	F'9+1 先	M12	(7.2)	底13/15	暗褐色～褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	摩滅、底面摩滅	摩滅	N1620-7	N1620-154		
352	F'9+1 先	M12	(6.8)	底1/5	褐色	石英、褐色、灰色、黒～砂粒	摩滅、底面摩滅	ナブ(摩滅)	N1620-8	N1620-157		
353	F'9+1 先	M12	(11.0)	底5/6	褐色～暗褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	摩滅、底面摩滅(明らかに左側あり)	摩滅	N1620-1	N1620-145		
354	F'9+1 先	A	(13.8)	口1/12	褐色～暗褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	ナブヨコナブ、摩滅	摩滅	N1620-14	N1620-157		
355	F'9+1 先	K15	(8.9)	底1/2	茶褐色～暗褐色	石英、褐色、灰色、白色、黒～砂粒	ミガキ(ダメ方向)、底面ナグ(摩滅)	摩滅	N1620-1	N1620-152		
356	F'9+1 先	K15	(9.8)	底1-2	褐色～暗褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	ハケツ、底面ナグ(摩滅)	摩滅	N1620-13	N1620-159		
357	F'9+1 先	K15	7.6	底3/4	褐色	褐色、灰色、白色、黒～砂粒	摩滅、底面摩滅、底面摩滅	摩滅	N1620-2	N1620-153-157		
358	F'9+1 先	K15	(9.2)	1:1/8	茶褐色	石英、褐色、灰色、白色、黒～砂粒	ナブヨコナブ、摩滅	摩滅	N1620-16	N1620-157		
359	F'9+1 先	K15	(9.0)	底1/5	褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	摩滅、底面摩滅	摩滅	N1620-4	N1620-158		
360	F'9+1 先	K15	(8.6)	底1/2	褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	摩滅、底面摩滅	摩滅	N1620-9	N1620-158		
361	F'9+1 先	K15	(7.6)	底1/2	茶褐色～茶褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	T工具によるナブ、底面摩滅	摩滅	N1620-2	N1620-148		
362	F'9+1 先	K15	(7.2)	底1/2	茶褐色～暗茶褐色	良石、褐色、灰色、黒～砂粒	T工具によるナブ、底面ナグ、モミ添板、工具による仕上げ	ナブ	N1620-3	N1620-158		
363	F'9+1 先	K15	(6.4)	底1/5	褐色	褐色、灰色、白色、黒～砂粒	摩滅、底面摩滅	摩滅	N1620-4	N1620-146		
364	F'9+1 先	K15	(6.2)	底1/4	褐色	褐色、灰色、白色、黒～砂粒	摩滅、底面摩滅	ナブ	N1620-5	N1620-157		
365	F'9+1 先	K15	(6.6)	底1/4	茶褐色	良石、褐色、灰色、白色、黒～砂粒	摩滅、底面摩滅	工具によるナブ	N1620-3	N1620-159		
366	F'9+1 先	K15	(5.2)	底1/4	暗茶褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	工具によるナブ、底面摩滅	摩滅	N1620-6	N1620-159		

件 名	原点	形式	寸法 基準	寸法 高さ 幅	寸法 底辺	種存復	色調	記述	紋様・調査		東周 No.	注記	参考
									外面	内面			
367 N18 の隕?				(14.2)	口1/6	底色	褐色～暗褐色	褐色、灰色、黑色、底～砂粒	摩滅、ヨコナゲ	草紙	31393-1	X1983-165	
368 N18 の隕?				(20.6)	口1/6	底色	高褐色～暗褐色	高褐色、褐色、灰色、白色、底～砂粒	口縁ヨコナゲ、口縁ヨコナゲ、摩滅	草紙	31390-1	X1980-162	
369 K18 の隕?		甕		(4.4)	底1/4	底色	褐色～暗褐色	褐色、灰色、底～砂粒	摩滅、底部摩滅	唇紙	31390-2	X1980-162	
370 K18 の隕?		甕		(5.8)	底1/4	底色	褐色～茶褐色	褐色、灰色、底～砂粒	摩滅、底部摩滅	ナゲ(摩滅)	31390-3	X1980-162	
371 K21 の隕?		甕	A	(12.6)	口1/8	底色	褐色	褐色、灰色、白色、底～砂粒	口縁ヨコナゲ、摩滅	草紙	31393-3	X1983-081	
372 K21 の隕?		甕			鋸葉片	底色	石灰、褐色、灰色、黑色、底～	ナゲ、多溝止め、縦状紋	摩滅	31390-4	X1980-081	押出形態	
373 K21 の隕?		甕	A	(13.6)	口1/10	底色	褐色	褐色、灰色、白色、底～砂粒	口縁ヨコナゲ、摩滅	山形沈継紋、横巻紋、唇紙	31390-5	X1980-077	
374 K21 の隕?		甕			(9.1)	底	褐色混	褐色、灰色、白色、底～砂粒	摩滅、底部摩滅	草紙	31390-6	X1980-077	
375 X21 の隕?		甕			(8.0)	底1/5	褐色	褐色、灰色、底～砂粒	摩滅、底部摩滅	摩滅	31390-5	X1980-077	
376 X21 の隕?		甕			(5.8)	底1/6	褐色	褐色、灰色、白色、底～砂粒	摩滅、底部摩滅	摩滅	31390-6	X1980-077	
377 X21 の隕?		甕			(5.0)	底1/4	褐色～茶褐色	石灰、褐色、灰色、白色、底～砂粒	摩滅、底部摩滅	摩滅	31390-5	X1980-077	
378 X21 の隕?		甕			(6.2)	底1/5	褐色～暗褐色	褐色、灰色、底～砂粒	摩滅、底部摩滅	ナゲ	31390-3	X1980-077	
379 X21 の隕?		甕			(8.7)	底1/5	褐色	褐色、灰色、白色、底～砂粒	摩滅、底部摩滅	摩滅	31393-1	X1983-082	
380 X21 の隕?		甕			(7.8)	底1/6	褐色～茶褐色	褐色、灰色、白色、底～砂粒	ナゲ、底部摩滅	摩滅	31393-2	X1983-082	
381 X24 の隕?		甕			(11.2)	底1/8	褐色～茶褐色	石灰、褐色、灰色、底～砂粒	1.口縁ヨコナゲ、摩滅	シガキ(摩滅)のち赤影	31406-6	X2406-119	内外赤彩(内部は削 除)
382 X24 の隕?		甕	A	(13.2)	口1/8	底色	褐色	褐色、灰色、底～砂粒	1.口縁ヨコナゲ、L.ヨコ方背継、摩滅	摩滅	32406-8	X2406-119	
383 X24 の隕?		甕	A	(11.2)	口1/6	底色	褐色	褐色、灰色、底～砂粒	口縁ヨコナゲ、側部彫刻状、摩滅	摩滅	32406-7	X2406-119-121-132	
384 X24 の隕?		甕	B2	(16.6)	口1/3	底色	褐色～茶褐色	失火、褐色、灰色、白色、底～砂粒	口縁ヨコナゲ、伏状紋、銀羽式条縞	摩滅	32406-9	X2406-121	
385 X24 の隕?		甕	B2	19.9 (19.2)	5.8	1/1.6	褐色～茶褐色	失火、褐色、灰色、白色、底～砂粒	1.口縁ヨコナゲ、伏状紋、ボタン状伏紋 ハケメ、工具によるナ ゲ、シカキ(カクアヒ)、底部ナゲ	摩滅	32406-12	X2406-121-122	
386 X24 の隕?		甕	A	(16.4)	口1/6	底色	褐色	褐色、灰色、白色、底～砂粒	口縁ヨコナゲ、伏状紋	摩滅	32406-10	X2406-120	
387 X24 の隕?		甕	A	16.9	口1/3	底色～茶褐色	褐色、灰色、白色、白色、底～砂粒	口縁ヨコナゲ、彫刻状、銀羽式条縞	T.具によるナゲ	摩滅	32406-11	X2406-121-122	
388 X24 の隕?		甕			6.8	底1/8	褐色	褐色、灰色、底～砂粒	摩滅、底部摩滅	摩滅	32406-11	X2406-122	
389 X24 の隕?		甕			(3.6)	底1/2	褐色～暗褐色	褐色、灰色、白色、底～砂粒	摩滅、底部摩滅	ナゲ	32406-2	X2406-120	
390 X24 の隕?		甕			(5.8)	底1/4	褐色	褐色、灰色、白色、底～砂粒	摩滅、底部摩滅	摩滅	32406-4	X2406-119	
391 X24 の隕?		甕			(8.2)	底1/5	褐色	褐色、失火、褐色、底～砂粒	摩滅、底部摩滅	摩滅	32406-3	X2406-119	
392 X24 の隕?		甕				鋸葉片	褐色	石灰、褐色、失火、底～砂粒	摩滅	摩滅、ナゲ	32406-5	X2406-120	
393 面	高井					鋸葉片	褐色～茶褐色	褐色、失火、失火、底～砂粒	{ シカキ(摩滅)のち赤影	ミガキ(摩滅)のち赤影 、工具によるナゲ	32406-6	X2406-120	外側、内部 赤彩
394 面	高井					鋸葉片	褐色～茶褐色	褐色、失火、失火、失火、底～砂粒	{ シカキ(タケ方向)のち赤影	ミガキ(摩滅)のち赤影 、ナゲ	32406-7	X2406-004	外側、内部 赤彩
395 面	高井					鋸葉片	褐色～茶褐色	失火、褐色、失火、失火、失火、底～砂粒	摩滅、工具によるナゲ	モクノ	32406-8	X2406-004	外側、内部 赤彩
396 面	高井					鋸葉片	褐色～茶褐色	失火、褐色、失火、失火、失火、底～砂粒	モクノによるナゲ、ナゲ 、ナゲ(摩滅)	モクノによるナゲ、ナ ゲ(摩滅)	32406-9	X2406-006	外側、内部 赤彩
397 面	高井					鋸葉片	褐色～茶褐色	失火、褐色、失火、失火、失火、底～砂粒	摩滅、失火(摩滅)	モクノ	32406-10	X2406-003	
398 面	高井					鋸葉片	褐色～茶褐色	失火、褐色、失火、失火、失火、失火、底～砂粒	ナゲ(摩滅)	ナゲ(摩滅)	32406-11	X2406-006	
399 面	高井					鋸葉片	褐色～茶褐色	失火、褐色、失火、失火、失火、失火、底～砂粒	モクノによるナゲ、ヨコナゲ	モクノによるナゲ、ナ ゲ(モクノ)	32406-12	X2406-004	
400 面	高井					鋸葉片	褐色～茶褐色	失火、褐色、失火、失火、失火、失火、底～砂粒	モクノによるナゲ、ヨコナゲ	モクノによるナゲ、ナ ゲ(モクノ)	32406-13	X2406-004	
401 面	高井					鋸葉片	褐色～茶褐色	失火、褐色、失火、失火、失火、失火、底～砂粒	モクノによるナゲ、ヨコナゲ	モクノによるナゲ、ナ ゲ(モクノ)	32406-14	X2406-004	摩滅
402 5往	甕	R2		(16.2)	口1/8	底色	褐色	褐色、失火、失火、失火、失火、失火、失火、底～砂粒	口縁ヨコナゲ、摩滅	摩滅	5往-22	5往-067	
403 5往	甕	R2			鋸葉片	底色	褐色	褐色、失火、失火、失火、失火、失火、失火、底～砂粒	摩滅、底部摩滅	摩滅	5往-24	5往-030	
404 5往	甕	A	R.2		口3/4	底色	褐色	褐色、失火、失火、失火、失火、失火、失火、底～砂粒	口縁ヨコナゲ、L.ヨコ方背継、横 縞、底部ナゲ、ナゲ(摩滅)	ナゲ(モクノ)、ナ ゲ(モクノ)、ナゲ(モクノ)	5往-29	b往-041	
405 5往	甕	R2		(10.4)	底1/5	底色	褐色	褐色、失火、失火、失火、失火、失火、失火、失火、底～砂粒	摩滅、底部摩滅	モクノによるナゲ、ナ ゲ(モクノ)	5往-3	5往-026	内縮化物 付着
406 5往	甕	R2			9.3	底色	褐色	褐色、失火、失火、失火、失火、失火、失火、失火、底～砂粒	摩滅、底部摩滅	モクノによるナゲ、ナ ゲ(モクノ)	5往-1	5往-033	
407 5往	甕	A		(8.0)	底1/4	底色	褐色～暗褐色	褐色、失火、失火、失火、失火、失火、失火、失火、失火、底～砂粒	ナゲ、ナゲ(モクノ)、ナ ゲ(モクノ)	ナゲ(モクノ)、ナ ゲ(モクノ)	5往-2	5往-049	
408 5往	甕	R2		(13.6)	口1/6	底色	褐色	褐色、失火、失火、失火、失火、失火、失火、失火、失火、底～砂粒	ナゲ(モクノ)、ナ ゲ(モクノ)	ナゲ(モクノ)	5往-28	5往-040	外側子付 脇
409 5往	甕	R2			3.6	底色	褐色	褐色、失火、失火、失火、失火、失火、失火、失火、失火、底～砂粒	ナゲ(モクノ)、ナ ゲ(モクノ)	ナゲ(モクノ)	5往-23	5往-008	
410 5往	甕				3.3	底色	褐色	褐色、失火、失火、失火、失火、失火、失火、失火、失火、底～砂粒	ナゲ(モクノ)、ナ ゲ(モクノ)	ナゲ(モクノ)	5往-16	5往-043	
411 5往	甕				3.3	底色	褐色	褐色、失火、失火、失火、失火、失火、失火、失火、失火、底～砂粒	摩滅、ナゲ(モクノ)	摩滅	5往-20	5往-049	
412 5往	甕	A		(16.4)	口1/8	底色	褐色～暗褐色	褐色、失火、失火、失火、失火、失火、失火、失火、失火、底～砂粒	口縁ヨコナゲ、4重巻起筋輪柱のち ナゲ、摩滅	タケ方向のナゲ(モ クノ)	5往-19	5往-012	

地名	形式	产地	色調	砂土	種類・調査		開削	社記	備考
					外観	内面			
413. 5位 奥 A	(18.6)	口1/12	褐色	石灰、褐色、灰色、白色、微～砂粒	口黒ヨコナダ、黒褐色偏青緑、褐鉄状水素	車軸、ミガキ(ヨコ方 向)	5位-30	5位-056	
414. 6位 奥 A	(18.2)	口1/12	褐色～暗褐色	石灰、褐色、灰色、微～砂粒	口黒ヨコナダ、深褐色偏青緑、褐鉄状水素	車軸	6位- 18	6位-002、 055	
415. 5位 奥 A	(18.6)	口1/8	褐色～深褐色	石灰、褐色、灰色、灰～砂粒	11.5位(車軸)、11.5位ヨコナダ、車 軸	車軸	5位-21	6位-049	
416. 5位 蓬 A	34.0	28.6	10.9	口1/2 底層	赤褐色～暗褐色	石灰、褐色、灰色、白色、微～砂粒 口黒ヨコナダ、灰褐色	口黒ヨコナダ、ミガキ(ヨコ 方向)、ミガキ(厚削)、ハケメ、工具によ るナダ	ハケメのミガキ(ヨコ 方向)、ハケメ、工具によ るナダ	5位-27 8位-031
417. 5位 奥 A	(19.4)	口1/3	褐色～暗褐色	石灰、褐色、灰色、灰～砂粒	11.5位(車軸)、11.5位ヨコナダ、車 軸	車軸	5位-17	6位-038-039-049	
418. 5位 奥		(9.0)	底1/3	褐色	石灰、褐色、灰色、白色、微～砂粒	底層、底層偏青緑	ミガキ(原城)	5位- 6	5位-014
419. 5位 奥		(5.2)	底1/2	褐色	小石、褐色、灰色、微～砂粒	底層、底層偏青緑	車軸	5位-16	5位-064
420. 5位 奥		4.9	底1/2	褐色～暗褐色	石灰、褐色、灰色、微～砂粒	底層、底層偏青緑	車軸	6位- 13	5位-061
421. 5位 奥		(4.6)	底1/4	褐色～暗褐色	石灰、褐色、灰色、白色、微～砂粒	底層、底層偏青緑	1具によるナダ	6位-14	5位-047
422. 5位 奥		(7.6)	底1/2	褐色	褐色、灰色、微～砂粒	底層	5位-10	5位-055	
423. 5位 奥		(6.2)	底1/2	褐色～暗褐色	石灰、褐色、灰色、微～砂粒	底層、底層偏青緑	ミガキ(原城)	5位-11	5位-055
424. 5位 奥		(6.5)	底1/2	褐色～暗褐色	石灰、褐色、灰色、微～砂粒	ミガキ(原城)、底層ナダ	ミガキによるナダ	5位-11	5位-056
425. 5位 奥		(5.8)	底1/2	褐色～暗褐色	石灰、褐色、灰色、白色、微～砂粒	底層、底層偏青緑	車軸	5位-12	5位-015
426. 5位 奥		7.5	底1/6	褐色	石灰、褐色、灰色、白色、微～砂粒	ミガキ(ヨコ方向)、底層剥離	工具によるナダ	5位- 4	5位-021-034
427. 5位 奥		(7.5)	底1/2	褐色～深褐色	小石、褐色、灰色、白色、微～砂粒	底層、底層偏青緑	車軸	5位- 7	5位-066
428. 5位 奥		(9.1)	底1/6	褐色～暗褐色	石灰、褐色、灰色、微～砂粒	底層、底層偏青緑	ミガキ(ヨコ方向)？	5位- 7	5位-062
429. 5位 奥		(6.6)	底1/2	褐色～深褐色	石灰、褐色、灰色、微～砂粒	底層、工具によるナダ、底層ナダ、質 わらのナダ	ハケメ	5位- 5	5位-023
430. 5位 小明			褐色～灰褐色	褐色、微～砂粒	底層	車軸	5位-26	5位-056	
431. 6位 奥		(8.2)	底1/2	褐色～灰褐色	石灰、褐色、灰色、白色、微～砂粒	ミガキ(ヨコ方向)、2具ナダ	ミガキ(ヨコ方向)	6位- 1	6位-002
432. 土坑 6 音		(8.4)	底1/2	褐色～帶茶褐色	石灰、褐色、灰色、白色、微～砂粒	底層、底層偏青緑	車軸	土-6-1	+6-004
433. 上位 6 奥		(6.8)	底1/3	褐色～茶褐色	石灰、褐色、灰色、白色、微～砂粒	ミガキ(原城)、車軸	車軸	+6-2	上-006
434. 土坑 6 奥			灰褐色	褐色、灰色、微～砂粒	底層剥離状、ハケメのもの底層状	ハケメ、工具によるナダ	+6-3	土-6-004	
435. 土坑 15 井		(6.6)	底1/2	外深褐色～褐色	小石、褐色、灰色、黑色、微～砂粒	底層(淤泥)、底層厚層	ミガキ(原城)のち淤泥	上15-1	穴15-001 (外側のもの)
436. 南壁 壁		(5.8)	底1/2	褐色	褐色、微～砂粒	底層、底層偏青緑	ナダ	南壁- 1	+0-001
437. 深 3 壁		(7.2)	底1/2	褐色	石灰、褐色、灰色、白色、微～砂粒	底層、底層偏青緑	剥離	深3-1	深3-000、5壁-008
438. 深 3 壁		(6.1)	底1/3	褐色～暗褐色	石灰、褐色、灰色、黑色、微～砂粒	底層、底層厚層	底層	深3-2	3壁-006
439. 深 T 井		(13.0)	口1/10	外深褐色～褐色	石灰、褐色、白色、微～砂粒	口ヨリナダ、ミガキのち淤泥(原城)	ミガキ(ヨコ方向)のち淤泥	東T-1	東T-004 (内外剥離)
440. 深 T 井		(7.8)	底 9	褐色～深褐色	石灰、褐色、灰色、微～砂粒	ミガキ(タテ方向)のち原泥(淤泥)、原泥(原城)	原泥	東T-2	東T-001 (外側剥離)
441. P12 盆		9.4	底2/3	褐色～深茶褐色	褐色、灰色、白色、黑色、微～砂粒	ミガキ(タテ方向)肉、ミガキ(ヨコ方 向)、淤泥厚層	原泥	P12-1	P12-011
442. 織上 壁		(7.6)	底1/6	褐色	褐色、灰色、微～砂粒	底層、淤泥厚層	車軸	織上-1	織上-003
443. 台古 壁		(9.8)	底1/4	灰褐色～褐色	褐色、灰色、微～砂粒	底層、淤泥厚層	车成	台古-2	AEK-005
444. 台古 大室 壁?		6.6	底1/2	褐色～暗褐色	石灰、褐色、灰色、白色、微～砂粒	底層、淤泥厚層	上具によるナダ(摩 擦)	台古-3	AEK-010
445. 台古 壁		(6.2)	底2/3	褐色～暗褐色	石灰、褐色、灰色、白色、微～砂粒	底層、淤泥厚層	沿ナダ	台古-4	AEK-005
446. ST1 井		7.5	底壳	褐色、灰色、微～砂粒	ミガキのち赤泥(原城)、底層厚層	ミガキ(原城)のち赤泥	ST-1	ST-004 (内外剥離)	
447. 掘出 面		(17.4)	111/2	外深褐色～褐色	石灰、褐色、微～砂粒	11.5位ヨコナダのち西端剥離(4壁 位)、ミガキのち赤泥(原城)？	ミガキのち赤泥(原城)？	接-8	A壁-008 (外側剥離) (原城)
448. 掘出 面			剥離層～褐色	石灰、褐色、灰色、白色、微～砂粒	ミガキ(原城)？	ナダ(原城)	接-11	025、接 11.5位 1.3 (原城)	
449. 掘出 面			剥離層～褐色	石灰、褐色、灰色、白色、微～砂粒	ミガキ(原城)？	ナダ(原城)	接-9	025、接 11.5位 1.3 (原城) (原城)	
450. 掘出 面		(5.6)	底 9	褐色～暗褐色	石灰、褐色、灰色、白色、微～砂粒	T.具によるナダ(原城)、底層厚層	ミガキ(タテ方向)ナ ダ	接-3	A壁 013
451. 掘出 面		(7.2)	底1/3	褐色～暗褐色	石灰、褐色、灰色、白色、微～砂粒	ナダ(原城)	ミガキ(タテ方向)ナ ダ	接-6	A壁-008
452. 掘出 面		(7.4)	底1/4	褐色	石灰、褐色、灰色、白色、微～砂粒	底層、底層厚層	車軸	接-1	A壁-013
453. 掘出 台付 壁		(4.6)	底1/3	褐色	石灰、褐色、灰色、微～砂粒	二具によるナダのち孰土附着、ヨコナダ	ナダ	接-6	A壁-008
454. 掘出 台付 壁		(8.4)	底1/3	褐色～暗褐色	石灰、褐色、灰色、白色、微～砂粒	ミガキ(タテ方向)厚層、ヨコナダ	ナダ(原城)	接-7	A壁-002
455. 掘出 井		8.8	底壳	褐色～暗褐色	石灰、褐色、灰色、白色、微～砂粒	底層、底層厚層	ナダ(原城)	接-2	A壁-003
456. 掘出 井		6.4	底壳	剥離～褐色	石灰、褐色、灰色、白色、微～砂粒	底層、底層厚層	ナダ(原城)	接 1	A壁-003
457. 掘出 井		3.9	底壳	泥状褐色	泥状、灰色、白色、微～砂粒	底層、底層中央部に何らかの調節	ナダ(原城)	接-10	025、接 NIE. 9E1.3 是干涸
458. 掘出 井		12.4	底壳	褐色～暗褐色	石灰、褐色、灰色、白色、微～砂粒	ミガキ(タテ方向)厚層、底層ナダ	ナダ	試T-1	試T-002-003

## 2 石器 (第11~13表・第25~34図)

第1・2次調査で回収した石器は総数773点(1次611点・2次162点)である。その内、自然石と判断したもの等(1次67点・2次4点)を除く702点(1次544点・2次158点)を報告対象とした。共伴する土器型式から弥生時代に帰属するものが主体を占めると推測される。定形的な石器を中心に99点を図示(第25~34図)し、剥片・碎片・礫片を除く石器の観察表(第11表)、全石器を対象に石材単位の器種組成(第12表)、出土地点単位の器種組成(第13表)を示した。各石器の調査次数・出土地点等は石器観察表を参照されたい。以下、図示したものを中心に概要を述べる。なお、実測図中における研磨・磨耗面については線条痕が観察できたものについては可能なかぎり図示したが、白抜き表現のものもある。また、小範囲で表現に限界があると判断したものについては、スクリーンショットと断面図に矢印を付し表現した。

### (1) 打製石鎌 (第25図1~16)

合計16点出土した。基部形状で分類すると有茎11点(1~3・5~7・10~12・14~16)、半基1点(4)、円基1点(13)、凹基2点(8・9)、不明1点(15)で、木製品の可能性が高いものも含まれるが、有茎鎌が主体を占める。石材は黒曜石が主体を占め、下呂石・珪質泥岩がそれぞれ1点ある。

### (2) 磨製石鎌 (第25図17~23)

合計7点出土した。折損品が多く、全体形状をとどめるものは少ないが、凹基無茎が3点(17・22・23)、凸基1点(21)、不明3点(18~20)である。21は未製品の可能性もあるが、基部周縁の研磨状況から凸基とした。両面穿孔の孔が確認できるものは5点(17~19・22・23)である。

### (3) 磨製石鎌木製品 (第25・26図24~31)

合計8点出土した。折損品が多い。鎌の形態(研磨により作出された先端部・基部・側縁部または穿孔痕)が整っていないもので、磨製石鎌以外の磨製石器の折損品・木製品の可能性もあるが本報告では一括した。平面・側面に明確な研磨痕が確認できるもの4点(24~27)、磨製石鎌の製品と同様の石材で明確な研磨痕は確認できないが素材の周囲に剥離加工を施した剥離調整段階と推測できるもの4点(28~31)がある。

### (4) 石錐 (第26図32~36)

合計5点出土した。32は礫、33・36は剥片の一端に錐部と推測される先端部が作り出されている。34・35は全体的に加工が施されているもので、34は側縁中央付近に側縁に平行する線条痕を伴う磨耗面が、35は表裏面中央から下端寄りで反軸に対してやや斜行する線条痕が観察される。

### (5) 打製石斧 (第27図37~43)

合計8点出土し、7点を図示した。全体形状が確認できるものは撥形を呈する39のみでそれ以外は全て折損品である。折損品の中には、二次加工ある剥片・石核との区別が困難なものも含まれる。

### (6) 磨製石斧 (第27・28図44~53)

合計10点出土した。片刃石斧2点(44・45)、大型蛤刃石斧5点(49~53)、不明3点(46~48)である。44・45は小形の片刃(ノミ状)石斧、46~48は破損品のため刃部形状は不明であるが46・47は断面形状から扁平片刃石斧の可能性が高い。47は素材の剥離面は残るが研磨面が観察され、下端一部に刃部と推測される面が残る。上端・左側縁に研磨面を切る小剥離面があり扁平片刃石斧の木製品または再加工中に折損したものと推測される。48は基部と推測されるが、形状が撥形に開くことと出土層位から縄文時代の定角式石斧の可能性が高い。49~53は大型蛤刃石斧の折損または破損品である。49~51は刃部が残る破片で49の折面一端には敲打痕が観察される。敲石として転用されたものか。52・53は基部または基部寄りの破片であるが折面一部に弱い研磨・磨耗面が観察される。50・52の器面の小凹部に部分的ではあるが赤色顔料が付着している。

### (7) 環状石斧 (第29図54)

1点出土した。平面形は円形、両刃の刃部を有し、中央に直径2.2cmの両面穿孔による孔をもつ。片面の孔周

辺に幅約1cmの隆帯がめぐっている。半損したのち2点に分離している。器面には被熱破碎面が観察される。

(8) 磨製石包丁 (第29図55)

1点出土した。ほぼ全面に研磨痕が観察され、背部とにぶい刃部が形成されているが孔はない。器面に被熱破碎面が観察される。

(9) 二次加工ある剥片 (第29図56~61)

剥片を素材として二次加工痕が観察でき、他の器種に分類できなかつたものを一括した。スクレイパーまたは刃器と称されるもの等が含まれている。合計37点、6点を図示した。20点が折損品であるが、黒曜石・チャート・珪質泥岩等の緻密な石材を素材とする比較的小形のものと、硬砂岩・泥質頁岩・安山岩等のやや石質が粗いものを素材とする大形なものがある。小形なものは、岡尔できなかつたが、石鎚・石錐の木製品が多く含まれると推測される。大形なものは10cm弱の剥片に比較的弱い二次加工を施し、直線状の側縁を形成するもの(57~61)と、比較的強い加工を両面から施し、小形の打製石斧または石核の折損品とも推測できるもの(木圓化5点)がある。56は剥片の片側縁に研磨で刃部と推測される縁辺が形成されているもので、60は板状縁を素材とするものである。60は二次加工ある剥片の定義から外れるものではあるが本報告ではここに含めた。

(10) 四・敲・磨石 (第30・31図62~79)

主に自然礫を素材とし、四部(四)・敲打痕(敲)・研磨・磨耗痕(磨)が観察されるものを本報告では一括して扱った。合計25点出土し、18点を図示した。四部は、敲打痕の集合により形成されたものが多いと推測され、直徑約6cmから2cm程度の円形を呈する。直徑2cm以下の四部については敲石等に観察される敲打に伴う剥落痕(敲打痕)との識別が困難であるが、器面における四部の位置・深さ等を考慮して、本報告では便宜的に直徑2cm以上の平面形がほぼ円形を呈する敲打痕が集合する四部を大四、直徑1cm以上2cm未満のものを小四、1cm未満のものを敲打痕として扱った。石材毎の風化の程度にもよるが四部の内部には敲打痕以外の痕跡は肉眼では観察されない。小四の中には硬質かつ鋭利な対象物で凹んだと推測されるものもあり、砥石の底面上にも同様の四部が観察される。四・敲・磨痕跡の複合状況は、大四のみ2点(62・63)、大四・小四(64)、大四・敲(65~69)、小四・磨(70・71)、小四・敲(72)、敲のみ12点(73~77他7点)、敲・磨1点(78)、磨のみ1点(79)である。素材となる礫の形状、四・敲・磨痕跡の位置・複合状況をまとめると、扁平円礫の中央付近に大四を1箇所もち、その裏面中央付近に小四・敲打痕跡をもつもの(62~69)、扁平円礫の表裏に小四を2箇所もち磨面をもつもの(70)、角礫または板状礫に小四をもつもの(71・72)の以上の三者は凹石と称してよいものと考えられる。扁平円礫の平面中央付近に敲打痕のみをもつもの(73他3点)は台石または敲石と称し、扁平棒状礫の端部または側面部に敲打痕のみをもつもの(74他2点)、扁平・円礫の端部に敲打痕のみをもつもの(75~77他2点)は敲石と称し、礫の一端に磨面のみをもつもの(79)は磨石と称してよいものと考えられる。凹石には端部に敲打痕をもつもの(67~69)があり、敲石と同様の機能を合わせもっていたものもあると推測される。70の磨面は断面形状が凸形を呈し、71の磨面は凹形を呈する。71は磨面の状況・欠損状況・石材等を考慮すると砥石に小凹が形成されたものの可能性が高い。78は端部に敲打に伴う割れ面と表裏片側面一部に線条痕を伴う磨面が観察される。79は磨面周辺に赤色顔料が付着する。

(11) 砥石 (第32~34図80~98)

合計41点出土し、19点を図示した。接合資料が3例ある。板状砂岩を素材とするものが多い。側面に折面をもつものが多く、砥面と折面の切り合ひ関係が判然としないものもあるが、折損品が多い。折損後に使用した痕跡が残るもの(86・97・98)もある。砥面は板状礫の1面に確認できるものが多いが、表裏面または側面1面を加え3面確認できるものもある。粗い砂岩をもちいるものが多く線条痕等が観察できるものは少ないが、砥面に溝が観察されるものが2点(88・95)ある。また、砥面に小凹・敲打痕が観察されるものがあり、砥面と小凹・敲打痕の切り合ひ関係が判然としないものもあるが、砥石として使用した後に台石として使用されたと推測できるも

の(80・87・88・91・94・96 他 2 点)がある。97・98 は同一側面であった可能性が高く、砥石を分割したち分割面(折面)を含む 2 側面に断面形が凸形を呈する研磨面があり、磨凸状に使用したと推測される痕跡が残る。

(12) 有孔石製品（第 34 図 99）

安山岩円錐に穿孔した 1 点がある。孔周辺に敲打痕が観察され、やや平坦な面を形成する。それ以外に人為的加工痕跡は観察されない。

(13) 微細剥離ある剥片（第 11 表）

剥片の鋭利な線刃を刃部として使用したものと推測されるもので、剥片の線刃部に微細な剥離痕が観察されるもの。擦痕・磨耗痕が観察されるものも含め肉眼観察により認定した。擦痕・磨耗痕が単独で確認される剥片はなかった。微細剥離痕の中には剥片剥離時に偶発的に生じたものや廃棄後に生じたものも含まれると推測される。合計 100 点確認した。黒曜石が主体(68%)を占め、チャート(10%)、泥質頁岩(9%)、珪質泥岩(8%)等が続く。泥質頁岩素材のものは他の石材のものよりやや大形品が多い。

(14) 石核（第 11 表）

合計 96 点確認でき、通常の剥離によるものが 51 点、両極剥離によると推測されるものが 45 点ある。黒曜石が主体(85%)を占め、チャート(9%)等が続く。黒曜石の石核は、剥離の進行が進んだものが多く、石鏃・石錐の素材剥片よりも小形の剥片を剥離した痕跡を残すものもある。特異な石材としては鉄石英が 1 点確認できた。

(15) 剥片・碎片

剥片 234 点・碎片 54 点が確認できた。いずれも黒曜石が主体を占めている。石器の接合作業が十分にできなかつたため、剥片剥離技術等の詳細は不明であるが、石核のあり方を考慮すると本遺跡では、主に黒曜石の原石または石核から剥片を剥離して石器製作が行われていたと推測される。

(16) 碓片

折面または被削による剥落痕のみが確認できるもので 57 点確認できた。調査時に、出土した礫片の全てを回収してはいないので詳細は不明であるが、砂岩・チャートが主体を占める。大形のチャート礫片の一部は、原石として遺跡内に持ち込まれた可能性がある。

(17) 原石（第 11 表）

剥離痕が観察されないもので黒曜石の角礫(14.1g)が 1 点出土している。報告対象から除外した自然石にはチャート・砂岩礫が含まれているが、チャート礫に関しては、剥片・石核等とやや異なる石質のものが多く、大きさが 2cm 以下の小礫が多い。また、本遺跡の土層の堆積状況や立地を考慮すると、人為以外にも本遺跡で出土する可能性が考えられるため、本報告では除外した。

第11表 石器觀察表

打蟹石集

廢棄石礦

磨製石微米膠晶

石集

地名(郵便番号)	面積(ha)	平均標高(m)	総面積(ha)	耕種面積	耕作
佐久市八日町	15.75	1,190	15.75	15.75	水稲栽培、畠地に少しあり。
佐久市上山田	2.41	1,190	0.95	0.95	水稲栽培、畠地に少しあり。
佐久市山田	4.98	1,190	4.98	4.98	水稲栽培(畠地)、下平らす(開拓地)あり。
佐久市中山田	4.98	1,190	4.98	4.98	水稲栽培(畠地)、下平らす(開拓地)あり。
佐久市西山田	2.53	1,230	0.87	0.87	水稲栽培(畠地)、下平らす(開拓地)あり。
佐久市中郷	6.29	7,420	76.5	76.5	水稲栽培(畠地)、下平らす(開拓地)あり。
佐久市上郷	12.15	1,230	13.55	1.0	未耕種地

打賞有禮

廢鐵石斧

原产地別	品種名	出荷地名	生産者名	生産量	積出し量	(%)	平均(%)	積出量	積出率
別原産地	22%	NH27	西田	7,241	7,241	100.0	100.0	223.6	100.0
11州	27%	西田	16,000	16,000	100.0	100.0	45.8	100.0	
10州	15%	西田	10,625	10,625	100.0	100.0	34.8	100.0	
4州	15%	西田	7,400	7,400	100.0	100.0	9.9	100.0	
その他	15%	西田	3,441	3,441	100.0	100.0	44.0	100.0	
その他	15%	西田	4,741	4,741	100.0	100.0	67.1	100.0	
その他	15%	西田	4,859	4,859	100.0	100.0	70.0	100.0	
その他	15%	西田	4,954	4,954	100.0	100.0	71.7	100.0	
その他	15%	西田	5,744	5,744	100.0	100.0	85.7	100.0	
その他	15%	西田	6,052	6,052	100.0	100.0	92.5	100.0	
その他	15%	西田	6,452	6,452	100.0	100.0	94.3	100.0	
その他	15%	西田	6,752	6,752	100.0	100.0	96.0	100.0	
その他	15%	西田	7,052	7,052	100.0	100.0	97.7	100.0	
その他	15%	西田	7,352	7,352	100.0	100.0	99.4	100.0	
その他	15%	西田	7,652	7,652	100.0	100.0	101.1	100.0	
その他	15%	西田	7,952	7,952	100.0	100.0	102.8	100.0	
その他	15%	西田	8,252	8,252	100.0	100.0	104.5	100.0	
その他	15%	西田	8,552	8,552	100.0	100.0	106.2	100.0	
その他	15%	西田	8,852	8,852	100.0	100.0	107.9	100.0	
その他	15%	西田	9,152	9,152	100.0	100.0	109.6	100.0	
その他	15%	西田	9,452	9,452	100.0	100.0	111.3	100.0	
その他	15%	西田	9,752	9,752	100.0	100.0	113.0	100.0	
その他	15%	西田	10,052	10,052	100.0	100.0	114.7	100.0	
その他	15%	西田	10,352	10,352	100.0	100.0	116.4	100.0	
その他	15%	西田	10,652	10,652	100.0	100.0	118.1	100.0	
その他	15%	西田	11,052	11,052	100.0	100.0	120.8	100.0	
その他	15%	西田	11,352	11,352	100.0	100.0	122.5	100.0	
その他	15%	西田	11,652	11,652	100.0	100.0	124.2	100.0	
その他	15%	西田	12,052	12,052	100.0	100.0	125.9	100.0	
その他	15%	西田	12,352	12,352	100.0	100.0	127.6	100.0	
その他	15%	西田	12,652	12,652	100.0	100.0	129.3	100.0	
その他	15%	西田	13,052	13,052	100.0	100.0	131.0	100.0	
その他	15%	西田	13,352	13,352	100.0	100.0	132.7	100.0	
その他	15%	西田	13,652	13,652	100.0	100.0	134.4	100.0	
その他	15%	西田	14,052	14,052	100.0	100.0	136.1	100.0	
その他	15%	西田	14,352	14,352	100.0	100.0	137.8	100.0	
その他	15%	西田	14,652	14,652	100.0	100.0	139.5	100.0	
その他	15%	西田	15,052	15,052	100.0	100.0	141.2	100.0	
その他	15%	西田	15,352	15,352	100.0	100.0	142.9	100.0	
その他	15%	西田	15,652	15,652	100.0	100.0	144.6	100.0	
その他	15%	西田	16,052	16,052	100.0	100.0	146.3	100.0	
その他	15%	西田	16,352	16,352	100.0	100.0	148.0	100.0	
その他	15%	西田	16,652	16,652	100.0	100.0	149.7	100.0	
その他	15%	西田	17,052	17,052	100.0	100.0	151.4	100.0	
その他	15%	西田	17,352	17,352	100.0	100.0	153.1	100.0	
その他	15%	西田	17,652	17,652	100.0	100.0	154.8	100.0	
その他	15%	西田	18,052	18,052	100.0	100.0	156.5	100.0	
その他	15%	西田	18,352	18,352	100.0	100.0	158.2	100.0	
その他	15%	西田	18,652	18,652	100.0	100.0	159.9	100.0	
その他	15%	西田	19,052	19,052	100.0	100.0	161.6	100.0	
その他	15%	西田	19,352	19,352	100.0	100.0	163.3	100.0	
その他	15%	西田	19,652	19,652	100.0	100.0	165.0	100.0	
その他	15%	西田	20,052	20,052	100.0	100.0	166.7	100.0	
その他	15%	西田	20,352	20,352	100.0	100.0	168.4	100.0	
その他	15%	西田	20,652	20,652	100.0	100.0	170.1	100.0	
その他	15%	西田	21,052	21,052	100.0	100.0	171.8	100.0	
その他	15%	西田	21,352	21,352	100.0	100.0	173.5	100.0	
その他	15%	西田	21,652	21,652	100.0	100.0	175.2	100.0	
その他	15%	西田	22,052	22,052	100.0	100.0	176.9	100.0	
その他	15%	西田	22,352	22,352	100.0	100.0	178.6	100.0	
その他	15%	西田	22,652	22,652	100.0	100.0	180.3	100.0	
その他	15%	西田	23,052	23,052	100.0	100.0	182.0	100.0	
その他	15%	西田	23,352	23,352	100.0	100.0	183.7	100.0	
その他	15%	西田	23,652	23,652	100.0	100.0	185.4	100.0	
その他	15%	西田	24,052	24,052	100.0	100.0	187.1	100.0	
その他	15%	西田	24,352	24,352	100.0	100.0	188.8	100.0	
その他	15%	西田	24,652	24,652	100.0	100.0	190.5	100.0	
その他	15%	西田	25,052	25,052	100.0	100.0	192.2	100.0	
その他	15%	西田	25,352	25,352	100.0	100.0	193.9	100.0	
その他	15%	西田	25,652	25,652	100.0	100.0	195.6	100.0	
その他	15%	西田	26,052	26,052	100.0	100.0	197.3	100.0	
その他	15%	西田	26,352	26,352	100.0	100.0	199.0	100.0	
その他	15%	西田	26,652	26,652	100.0	100.0	200.7	100.0	
その他	15%	西田	27,052	27,052	100.0	100.0	202.4	100.0	
その他	15%	西田	27,352	27,352	100.0	100.0	204.1	100.0	
その他	15%	西田	27,652	27,652	100.0	100.0	205.8	100.0	
その他	15%	西田	28,052	28,052	100.0	100.0	207.5	100.0	
その他	15%	西田	28,352	28,352	100.0	100.0	209.2	100.0	
その他	15%	西田	28,652	28,652	100.0	100.0	210.9	100.0	
その他	15%	西田	29,052	29,052	100.0	100.0	212.6	100.0	
その他	15%	西田	29,352	29,352	100.0	100.0	214.3	100.0	
その他	15%	西田	29,652	29,652	100.0	100.0	216.0	100.0	
その他	15%	西田	30,052	30,052	100.0	100.0	217.7	100.0	
その他	15%	西田	30,352	30,352	100.0	100.0	219.4	100.0	
その他	15%	西田	30,652	30,652	100.0	100.0	221.1	100.0	
その他	15%	西田	31,052	31,052	100.0	100.0	222.8	100.0	
その他	15%	西田	31,352	31,352	100.0	100.0	224.5	100.0	
その他	15%	西田	31,652	31,652	100.0	100.0	226.2	100.0	
その他	15%	西田	32,052	32,052	100.0	100.0	227.9	100.0	
その他	15%	西田	32,352	32,352	100.0	100.0	229.6	100.0	
その他	15%	西田	32,652	32,652	100.0	100.0	231.3	100.0	
その他	15%	西田	33,052	33,052	100.0	100.0	233.0	100.0	
その他	15%	西田	33,352	33,352	100.0	100.0	234.7	100.0	
その他	15%	西田	33,652	33,652	100.0	100.0	236.4	100.0	
その他	15%	西田	34,052	34,052	100.0	100.0	238.1	100.0	
その他	15%	西田	34,352	34,352	100.0	100.0	239.8	100.0	
その他	15%	西田	34,652	34,652	100.0	100.0	241.5	100.0	
その他	15%	西田	35,052	35,052	100.0	100.0	243.2	100.0	
その他	15%	西田	35,352	35,352	100.0	100.0	244.9	100.0	
その他	15%	西田	35,652	35,652	100.0	100.0	246.6	100.0	
その他	15%	西田	36,052	36,052	100.0	100.0	248.3	100.0	
その他	15%	西田	36,352	36,352	100.0	100.0	249.9	100.0	
その他	15%	西田	36,652	36,652	100.0	100.0	251.6	100.0	
その他	15%	西田	37,052	37,052	100.0	100.0	253.3	100.0	
その他	15%	西田	37,352	37,352	100.0	100.0	255.0	100.0	
その他	15%	西田	37,652	37,652	100.0	100.0	256.7	100.0	
その他	15%	西田	38,052	38,052	100.0	100.0	258.4	100.0	
その他	15%	西田	38,352	38,352	100.0	100.0	260.1	100.0	
その他	15%	西田	38,652	38,652	100.0	100.0	261.8	100.0	
その他	15%	西田	39,052	39,052	100.0	100.0	263.5	100.0	
その他	15%	西田	39,352	39,352	100.0	100.0	265.2	100.0	
その他	15%	西田	39,652	39,652	100.0	100.0	266.9	100.0	
その他	15%	西田	40,052	40,052	100.0	100.0	268.6	100.0	
その他	15%	西田	40,352	40,352	100.0	100.0	270.3	100.0	
その他	15%	西田	40,652	40,652	100.0	100.0	272.0	100.0	
その他	15%	西田	41,052	41,052	100.0	100.0	273.7	100.0	
その他	15%	西田	41,352	41,352	100.0	100.0	275.4	100.0	
その他	15%	西田	41,652	41,652	100.0	100.0	277.1	100.0	
その他	15%	西田	42,052	42,052	100.0	100.0	278.8	100.0	
その他	15%	西田	42,352	42,352	100.0	100.0	280.5	100.0	
その他	15%	西田	42,652	42,652	100.0	100.0	282.2	100.0	
その他	15%	西田	43,052	43,052	100.0	100.0	283.9	100.0	
その他	15%	西田	43,352	43,352	100.0	100.0	285.6	100.0	
その他	15%	西田	43,652	43,652	100.0	100.0	287.3	100.0	
その他	15%	西田	44,052	44,052	100.0	100.0	289.0	100.0	
その他	15%	西田	44,352	44,352	100.0	100.0	290.7	100.0	
その他	15%	西田	44,652	44,652	100.0	100.0	292.4	100.0	
その他	15%	西田	45,052	45,052	100.0	100.0	294.1	100.0	
その他	15%	西田	45,352	45,352	100.0	100.0	295.8	100.0	
その他	15%	西田	45,652	45,652	100.0	100.0	297.5	100.0	
その他	15%	西田	46,052	46,052	100.0	100.0	299.2	100.0	
その他	15%	西田	46,352	46,352	100.0	100.0	300.9	100.0	
その他	15%	西田	46,652	46,652	100.0	100.0	302.6	100.0	
その他	15%	西田	47,052	47,052	100.0	100.0	304.3	100.0	
その他	15%	西田	47,352	47,352	100.0	100.0	306.0	100.0	
その他	15%	西田	47,652	47,652	100.0	100.0	307.7	100.0	
その他	15%	西田	48,052	48,052	100.0	100.0	309.4	100.0	
その他	15%	西田	48,352	48,352	100.0	100.0	311.1	100.0	
その他	15%	西田	48,652	48,652	100.0	100.0	312.8	100.0	
その他	15%	西田	49,052	49,052	100.0	100.0	314		

### 斑状石青

固氮菌株代号	接种量(%)	接种点数	生根数	平均根长(cm)	总根长(cm)	根重(g)	根数/根系	备注
541(次)	2%	No.1	25	12.22	(9.21) 1.97	181.4	7.24	541生根，断根。

磨製石包丁

出十九世纪  
出十七世纪  
注起 古董  
长(厘米) 宽(厘米) 厚(厘米)  
高(厘米) 宽(厘米) 厚(厘米)  
备注

二次加工熱る割片

四·歲·歌

四

五

有孔石墨晶

疾患名	部位	性別	年齢(歳)	既往歴	現病歴	主訴	現状
99-浅表性扁桃炎	口上部左側	男	33歳	既往歴なし	3月前より発熱、咽頭痛、喉頭痛	喉頭痛	乳頭3mm、乳頭周辺に散在性紅斑あり。

### 数据割離ある割片

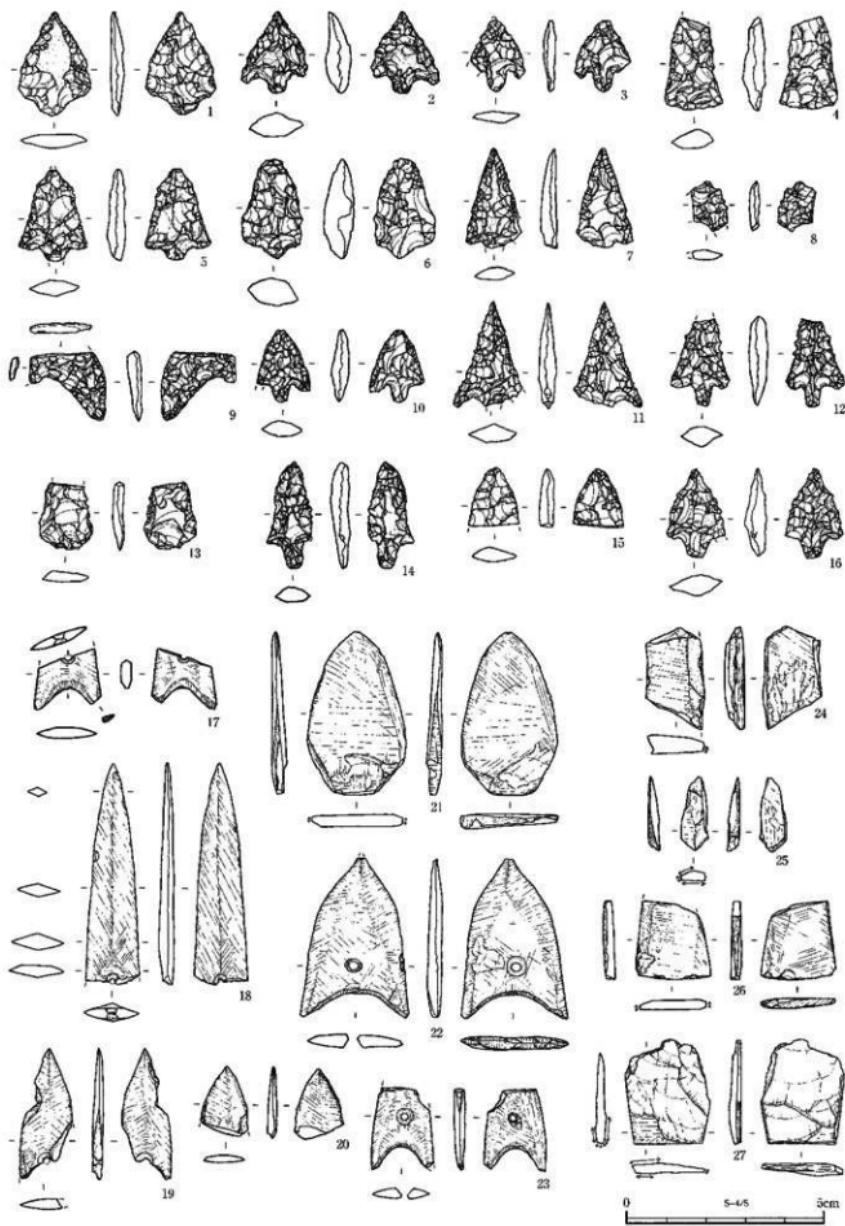
原石

第12表 石材單位器種組成

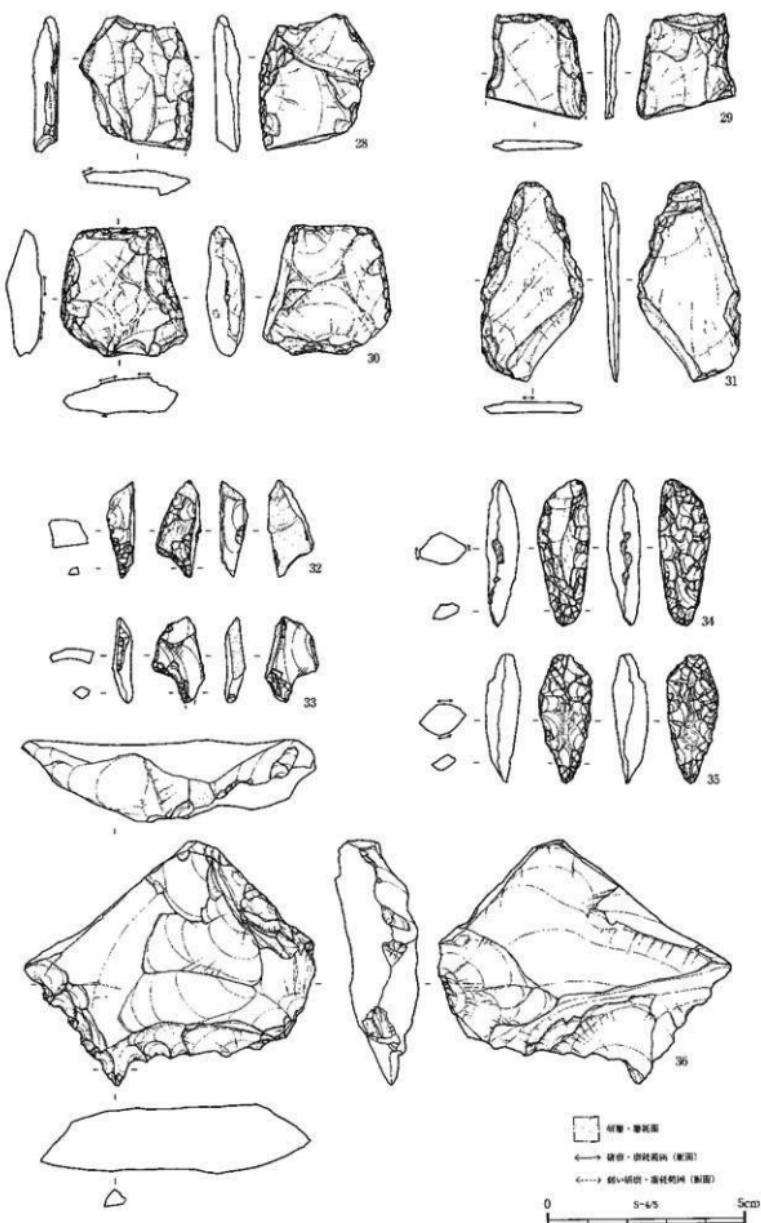
石材	打裂 石鐵 石臘	崩裂 石鐵 石臘	磨製 石鐵 未製品	石錠	打裂 石膏	崩裂 石膏	理状 石膏	磨製 石膏	一次瓦 二瓦 瓦	凹・ 凸 瓦	砾石	有孔 砾石	石製 品	磨細瓦 解ある 片	石核	剥片	砂片	礫片	原石	計
1次 黒雲石	9	-	2	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	52	61	93	25	1	249
砂岩	-	-	-	-	-	-	-	-	2	11	28	-	-	-	-	3	-	14	-	58
チャート	-	-	1	-	-	-	-	-	5	1	-	-	-	-	9	6	16	7	11	56
泥質頁岩	1	-	3	1	-	-	-	-	3	1	-	-	-	-	71	1	17	8	1	43
砂岩	-	-	3	-	-	-	-	-	2	2	3	-	-	-	2	2	1	7	21	21
溶質凝灰岩	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	1	5	2	8	18	18
珪質泥岩	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	5	1	7	1	17	17
粘晶片岩	4	5	-	-	-	-	-	-	21	-	-	-	-	-	-	2	2	2	-	15
砂灰岩	-	-	1	1	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	3	3	1	1	12	12
安山岩	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	1	1	-	-	-	2	2	2	-	11
閃綠岩	-	-	5	1	-	-	-	-	5	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	11
花崗岩	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	1	-	5
石英	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	1	-	5
鐵石英	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	1	-	4
頁岩	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	2	-	-	-	4
石英閃綠岩	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	3
綠色綠灰岩	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	3
輝綠岩	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
下緑石	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
粘板岩	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
ホルンフェルス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
矽化	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
合計	10	6	5	4	8	9	1	1	29	26	36	1	79	71	169	48	50	1	544	
2次 黒雲石	5	-	1	-	-	-	-	-	5	-	-	-	16	21	65	4	-	-	-	117
チャート	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	2	-	1	-	-	9
泥質頁岩	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	31	-	-	-	-	5
珪質泥岩	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	5
砂灰岩	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	1	-	-	-	-	4
矽岩	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	3
粘晶片岩	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
透紋岩	1	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
石英	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	2
花崗岩	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
粘板岩	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
溶質凝灰岩	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
綠色綠灰岩	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
珪化木	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
頁岩	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
輝綠岩	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
合計	6	1	3	1	0	1	0	0	9	0	3	0	0	21	25	75	61	7	0	158
1次 合計	16	7	8	6	8	10	11	11	37	25	41	1	100	96	231	54	57	1	702	

第13表 遺構単位器種組成

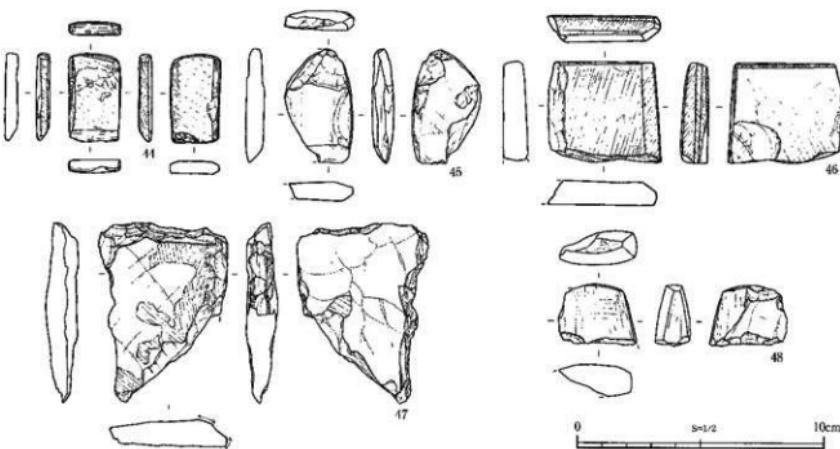
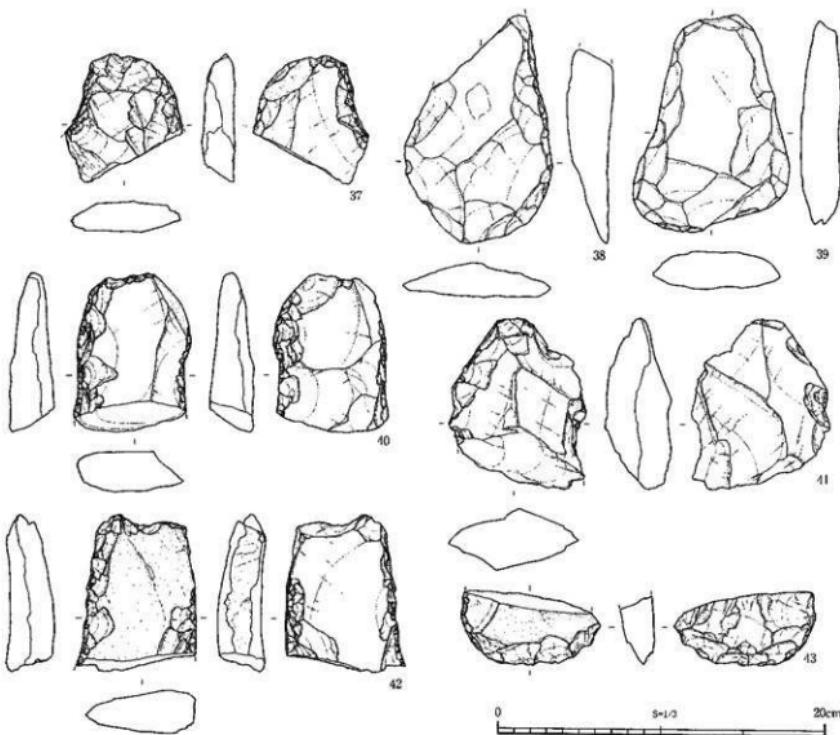
出土遺構	打製石器	磨製石器 未製品	石器	打製 石器	磨製 石器 石斧	磨製 石器 石斧	二次加 工ある 剝片	間 隔・磨 石	砾 石	有孔 石器品	微細 剝片 離る る剝片	石核	剝片	跡片	原石	計			
1次 1往	1	1	1				3	1	2		6	7	3		3	28			
2往	5	2	2	1	2	1		9	2	7		16	24	41	6	120			
2往P6						1								2		3			
2往周廣			1													1			
3往					1						5	2	3			11			
3往P1											1					1			
3往P6											1					1			
土1								1	2		1			1		3			
土2								1					1			2			
土6												1	3			4			
1-12													1			1			
P3											1					1			
P8						1										1			
P13								1								2			
墓1		1	1	2			1	4	3	3	1	14	6	11		47			
墓2									3			12	11	3		29			
墓3							1	2	4	3	2	7	5	6		30			
墓4	2		1				1	1	2	6	1	25	11	6		66			
N3 W3								1								1			
N3 EWO						1				1	1	5		1		9			
N3 E3(墓4?)												1				1			
N6 EWO(1往?)										1	1	4	1	5	1	13			
N6 E3										2	1	3	4	2		13			
N9 W3											1	1	1	1		3			
N9 EWO(1往?)						1		1	2	1				3		9			
N9 E3(墓1?)	2	1				1		2	3	3	1	6		3		24			
N9 E6(墓2?)					1		3	1		2		1	1	4		13			
N12 W3											1	2	1	1		5			
N12 EWO									1		3	2	3		2	11			
N12 E3								2		3	1		2			8			
N12 E6(墓3?)											1					1			
N15 W3											3	3	1			8			
K15 EWO(上6?)					1		1	1	1	1	1					5			
N15 E3													3			3			
N18 W3(上5?)										1	2					3			
N18 EWO					1		1			1	2	2				7			
N21 EWO										1		1		1		3			
N24 W3					1						1	1	1			4			
N24 EWO(遂1?)			1				1	1	2	1	4	4	2	1		17			
N24 E3(墓1?)	1							1	1	3	4	3	2			15			
N24 E6									1				2			3			
N27 W3(土1?)									1			1	3			1			
N27 EWO											1		3			5			
検出面他	1	1					11	1	2	4	4	2				16			
合計	10	6	5	4	8	9	1	1	28	25	38	1	79	71	159	48	50	1	544
2次 5往	6	1	2					5	1		13	11	49	5	6		99		
5往P6													1			1			
6往											1	1	1	1		4			
7往P1											1	1	1			3			
土14													3			3			
土15		1										1				2			
P1													1			1			
P2													2			2			
P7		1														1			
P16													2			2			
P44							1		2							3			
清2												1				1			
清3													1			1			
検出面他					1			2			5	11	13		11	33			
合計	6	1	3	1	0	1	0	0	9	0	3	0	21	26	75	6	7	0	156
1次2次合計	16	7	8	5	8	10	1	1	37	25	41	1	100	96	234	54	57	1	702



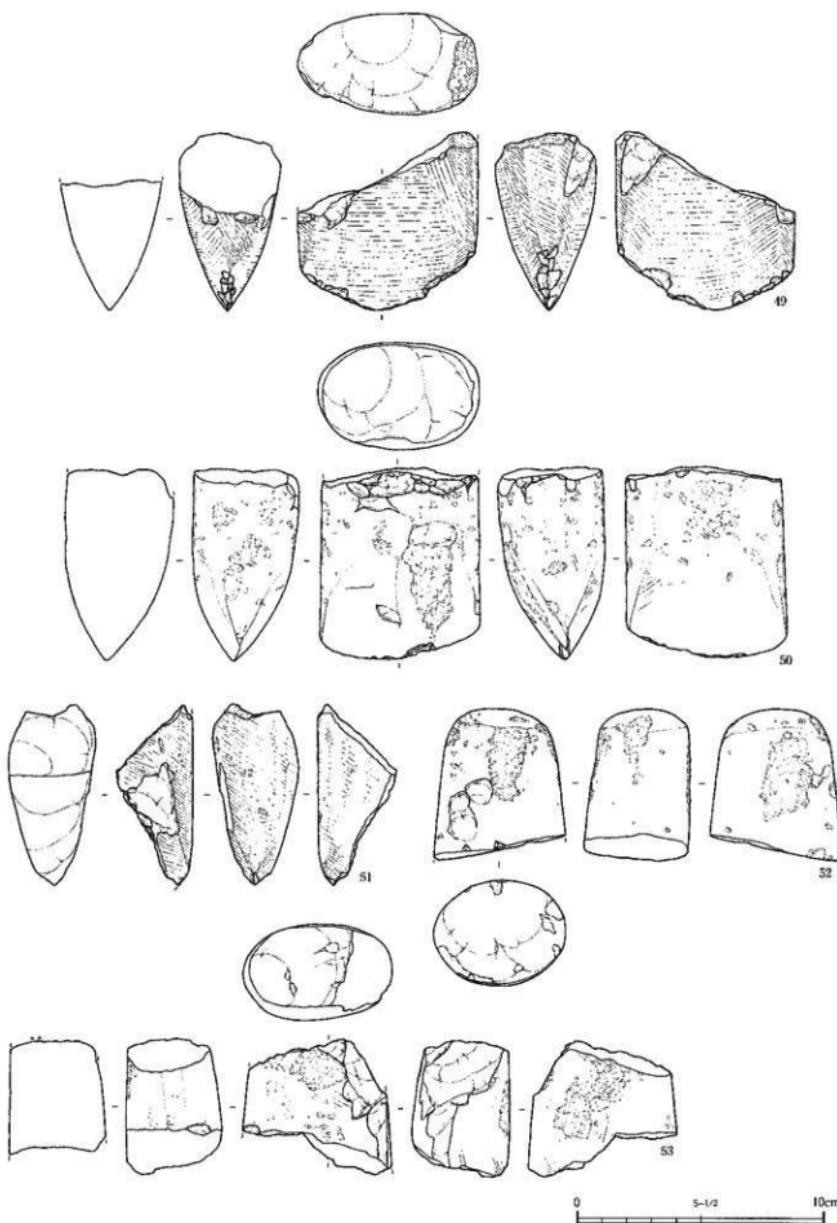
第25図 石器(1)



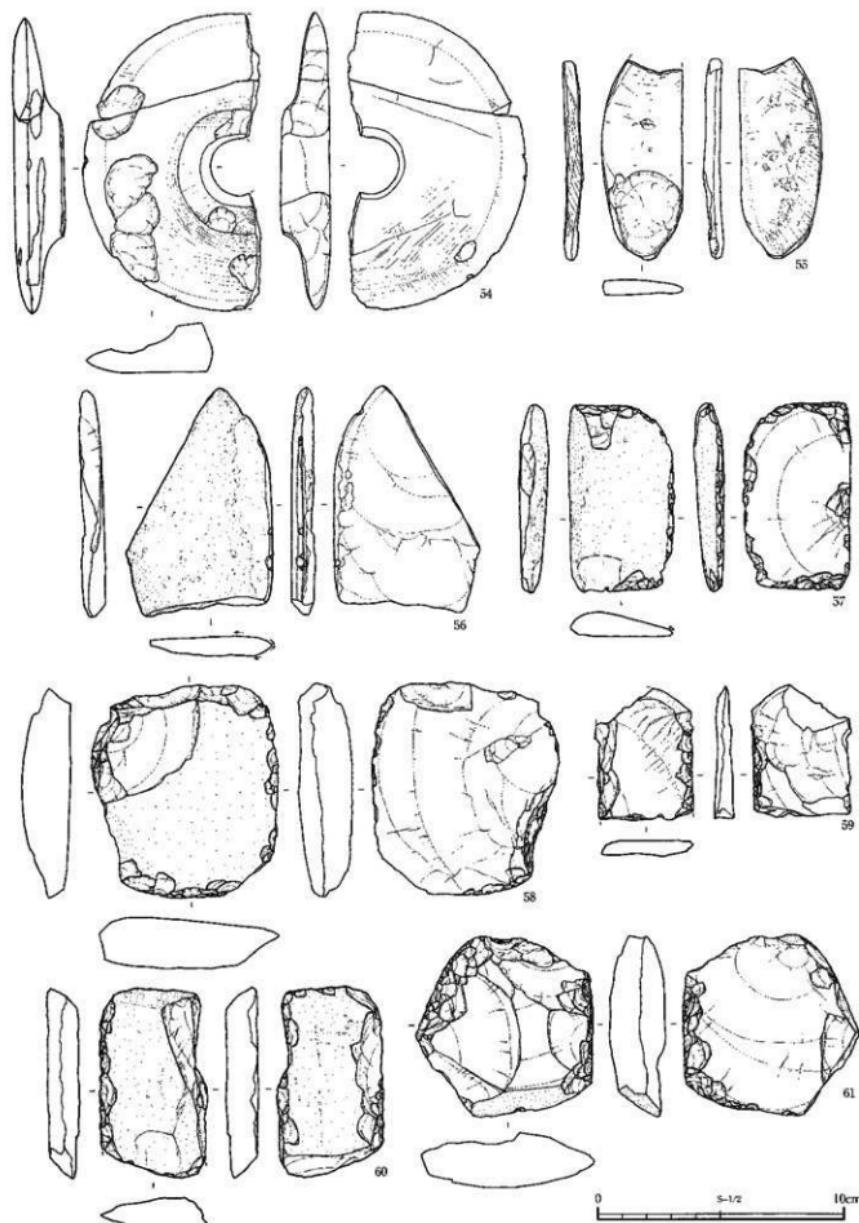
第26図 石器(2)



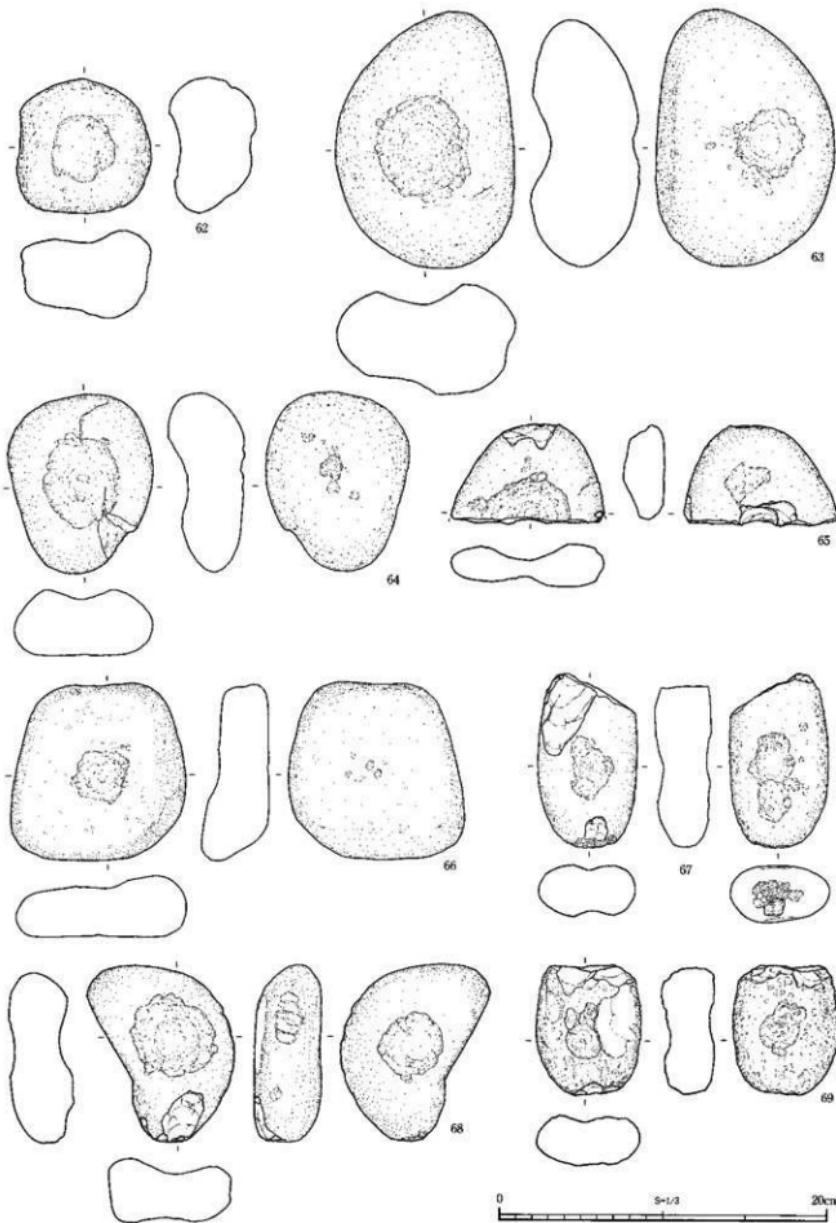
第27図 石器 (3)



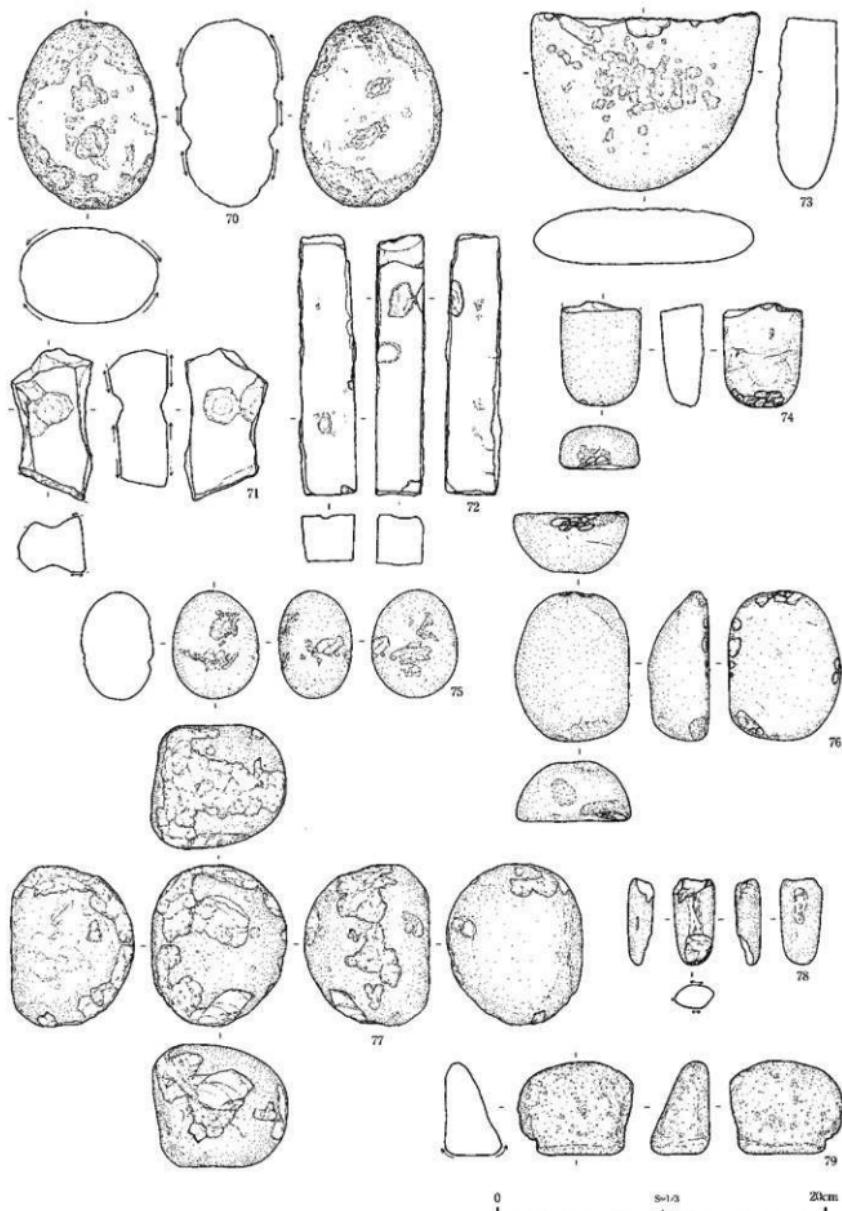
第28図 石器(4)



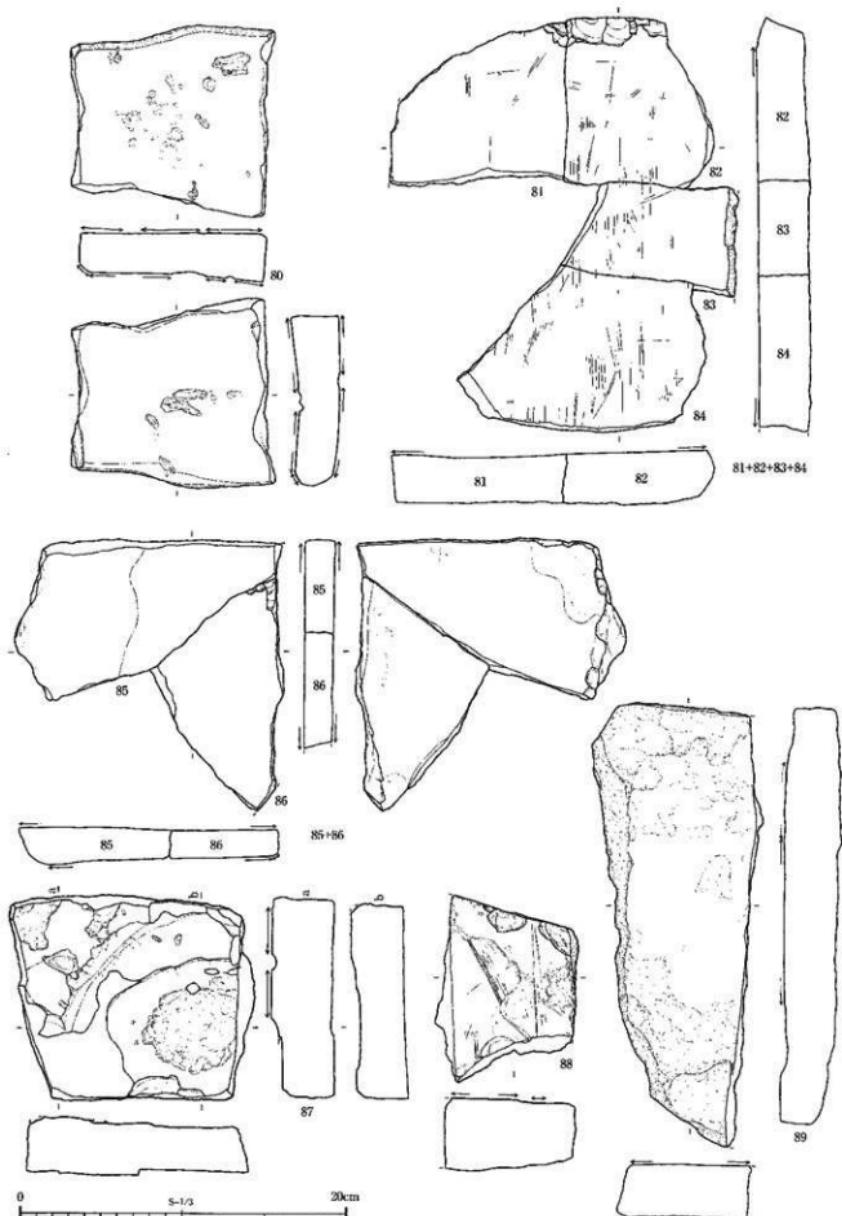
第29図 石器(5)



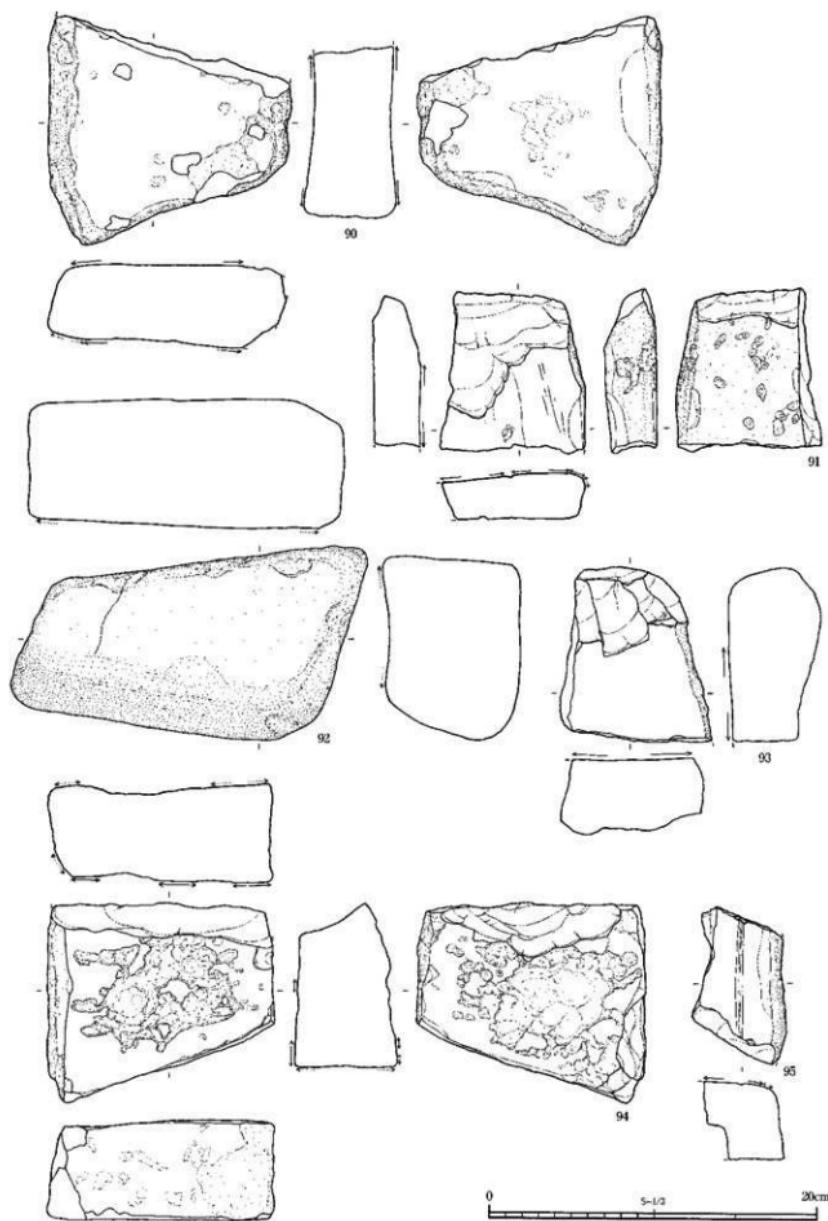
第30図 石器 (6)



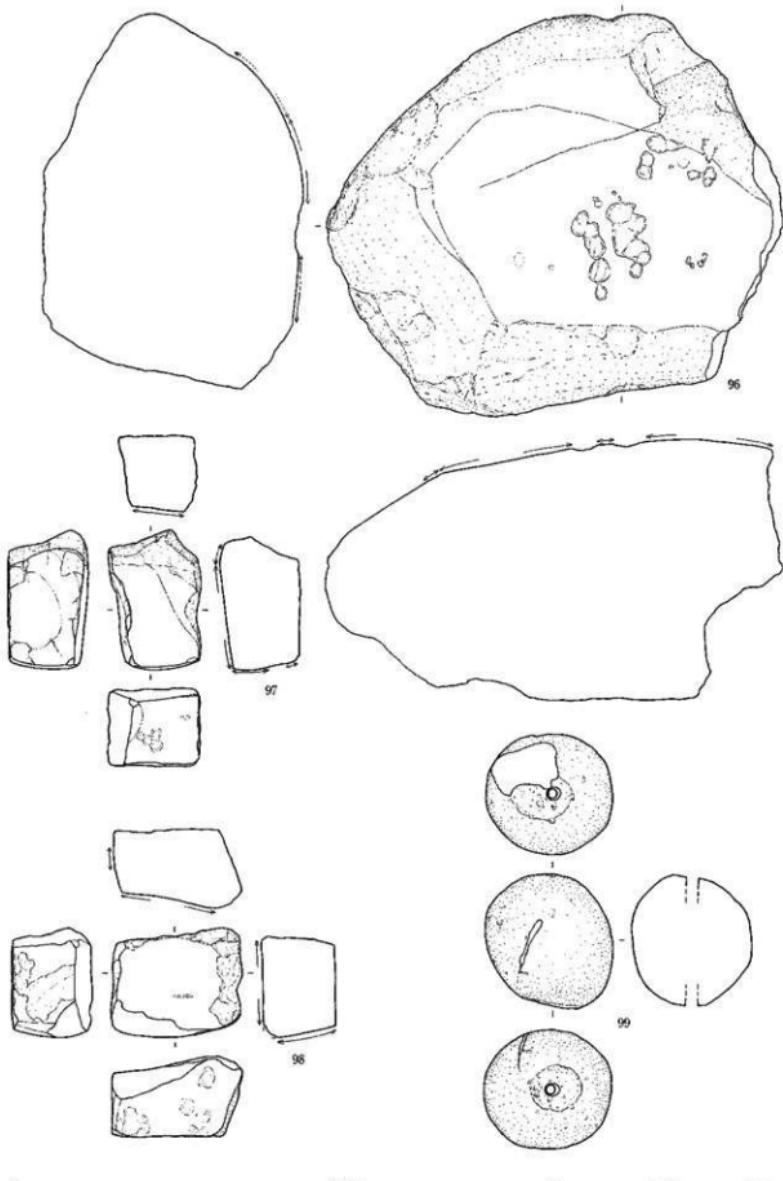
第31図 石器 (7)



第32図 石器(8)



第33図 石器(9)



第34図 石器(10)

### 3 人骨

本稿では墓域を構成する弥生時代中期後半～末と考えられる砾床木棺塚から出土した人骨とみられる骨片の種類や部位の同定、および炭素・窒素安定同位体比分析による食性の検討を行った。

#### (I) 骨同定

##### ア 試料

試料は、墓4から出土した人骨とみられる骨片である。墓4は、長軸を東西とする最大長2.8m、最大幅2.1mを測る砾床木棺塚であり、共伴する土器群から弥生時代中期後半～末の遺構と推定されている。

分析に供された試料は、木構造を北東(NE)、北西(NW)、南東(SE)、南西(SW)、中央、東小口、西小口の7箇所に大きく分けて土壇ごと一括に採取された後、5mm、2.5mm、1mmの籠分けによって選別された人骨片である。さらに、これら回収された骨片は、16袋に分けて整理され、一括袋番号(001～016)が付されている。

##### イ 分析方法

試料を肉眼およびルーペで観察し、その形態的特徴から、種と部位の同定を行う。なお、骨格各部の名称は、図1に示す。

##### ウ 結果

結果を表1に示す。出土した人骨は、いずれも白色を呈し、表面に細かなひび割れが生じるなど、焼骨の特徴を示す。以下、試料ごとに結果を記す。

###### (ア) 001：墓4 NE

前頭骨、頸頭骨、左右側頸骨、脛頭蓋骨、歯牙、頸蓋骨、頸椎?、椎骨?、肋骨、橈骨/尺骨、四肢骨、基節骨/中節骨などが確認される。このうち、前頭骨は、左焼骨突起が2点みられる。

###### (イ) 002：墓4 NE

四肢骨片である。

###### (ウ) 003：墓4 NW

部位不明破片である。

###### (エ) 004：墓4 SE

前頭骨、頭頂骨、左側頸骨、脛頭蓋骨、上頸骨/下頸骨、歯牙、橈骨/尺骨、四肢骨などが確認される。

###### (オ) 005：墓4 SW

前頭骨、頭頂骨、右側頸骨、脛頭蓋骨、歯牙、頭蓋骨、肋骨、橈骨、四肢骨、指趾骨?などが確認される。頭蓋骨にみられる縫合は、内側・外側とも閉じてない状態が確認される。

###### (カ) 006：墓4 中央部分

脣頭蓋骨、上頸骨/下頸骨、大臼歯、歯牙、頭蓋骨、肋骨、上腕骨、橈骨、脛骨?、四肢骨などが確認される。

###### (キ) 007：墓4 中央

頭頂骨、脣頭蓋骨、左上頸第2大臼歯、左下頸切歯、歯牙、頭蓋骨、肋骨、右肩甲骨、大臍骨、脛骨、四肢骨、中手骨/中足骨?などが確認される。なお、左上頸第2大臼歯は歯根が未形成で、左下頸切歯は未咬耗であることから萌出直後か未出歯牙とみられる。

###### (ク) 008：墓4 中央

脣頭蓋骨、四肢骨などが確認される。

###### (ケ) 009：墓4 西小口

頸頂骨などが確認される。なお、頭頂骨では、矢状縫合がみられ、内側が閉じており、外側が開いている状態が確認される。

###### (コ) 010：墓4 東小口

脣頭蓋骨、四肢骨などが確認される。

###### (サ) 011：墓4 東

脣頭蓋骨、頸骨?、頭蓋骨、四肢骨などが確認される。

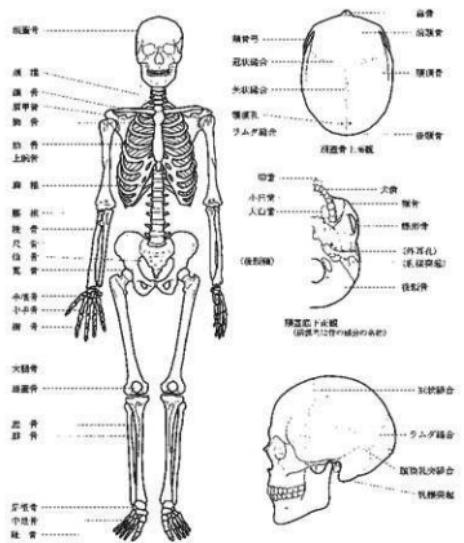


図1 人体骨格各部の名前

表1 骨固定結果(1)

No.	位置	頭部										四肢										腰帶部															
		頭骨					顎骨					胸骨					右					左					右					左					
		前	後	左	右	中	前	後	左	右	中	前	後	左	右	中	前	後	左	右	中	前	後	左	右	中	前	後	左	右	中	前	後	左	右		
001	甲	2	7.4	-	-	-	-	12	17.6	-	-	1	3.9	2	3.8	-	-	153	109.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
002	乙	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
003	丙	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
004	丁	-	-	-	-	1	1.1	2	2.3	-	-	1	1.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
005	戊	-	-	2	2.1	-	-	2	3.9	-	-	1	2.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
006	子又等分	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
007	半甲	-	-	-	-	-	-	1	1.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
008	半甲	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
009	西小口	-	-	-	-	-	-	-	1	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
010	東小口	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
011	東	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1.0	-	
012	青1(0.9)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
013	青2(0.9)	-	-	-	-	-	-	1	0.9	29	31.0	1	2.2	1	3.2	-	-	-	-	1	0.4	174	100.2	1	2.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
014	青4(0.75)	-	-	-	-	-	-	-	2	6.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
015	青5(0.8)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
016	西の骨	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

\*お筋肉の位置、右側が裏面を示す。

No.	位置	頭部										四肢										腰帶部																	
		頭骨					顎骨					胸骨					右					左					右					左							
		前	後	左	右	中	前	後	左	右	中	前	後	左	右	中	前	後	左	右	中	前	後	左	右	中	前	後	左	右	中	前	後	左	右				
001	甲	2	4.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	0.1	11	1.1	-	-	3	4.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
002	乙	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
003	丙	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
004	丁	-	-	-	-	1	0.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
005	戊	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
006	子又等分	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.1	1	0.0	9	0.9	-	-	2	4.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
007	半甲	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
008	半甲	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
009	西小口	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
010	東小口	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
011	東	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
012	青1(0.9)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
013	青2(0.9)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
014	青3(0.8)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
015	青4(0.75)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
016	西の骨	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

\*お筋肉の位置、右側が裏面を示す。

(シ) 012 : 墓 4 骨 I NE

頭頸蓋骨、上腕骨?、四肢骨などが確認される。

(ス) 013 : 墓 4 骨 3 NW

前頭骨、頸項骨、左側頭骨、側頭骨?、右耳小骨(キヌタ骨)、後頭骨?、顎頭蓋骨、右頬骨、下頬骨、上顎骨/下顎骨、歯牙、頭蓋骨、第1頸椎、肋骨、脛骨?、四肢骨などが確認される。

(セ) 014 : 墓 4 骨 4 NW/SW

頸項骨、頭蓋骨、四肢骨などが確認される。頸項骨では、矢状縫合がみられ、内側が閉じており、外側が開いている状態が確認される。

(ソ) 015 : 墓 4 骨 5 NE

頭蓋骨、四肢骨などが確認される。

(タ) 016 : 墓 4 西

歯牙、頭蓋骨などが確認される。

表1. 骨同定結果(2)

骨種	体幹						上肢						
	骨片			断片			二枚骨			脚底			
	頭骨	腰椎?	地骨?	肋骨	跖骨?	脚骨?	肩甲骨	上腕骨?	下腕骨?	腕骨	脚骨?	尺骨?	
第1四肢	腰片	腰片	腰片	断片	断片	断片	肩甲骨	腰片	腰片	腕骨	脚片	尺骨?	
1. 頭骨	I	6.4	I	5.6	S	4.9	I	1.0	-	-	I	2.9	
001 NE	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
002 NE	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
003 NW	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
004 SW	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	5.1	
005 SW	-	-	-	-	I	6.6	-	-	-	I	0.6	-	
006 中央部分	-	-	-	-	I	5.5	-	-	I	1.4	-	I	1.6
007 中央	-	-	-	-	8	9.4	-	I	3.2	-	-	-	
008 中央	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
009 小口	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
010 小口11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
011 血 骨	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
012 骨1(OA)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	I	6.4	-	
013 骨3(NW)	I	6.3	-	-	2	1.7	-	-	-	-	-	-	
014 骨4(NW/SE)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
015 骨5(NW)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
016 骨6(NW)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

\*骨頭が複数、合併が確認された。

骨種	下肢						四肢骨						不規	
	腰骨			脚骨?			膝骨/膑骨			中足骨/中足骨?			跖骨?	
	大連骨	腰骨	脚骨?	腰片	腰方	腰片	跖骨	跖骨?	中足骨	中足骨?	跖骨?	跖骨?	Lax (g)	質量 (g)
皮膚	筋膜	筋膜	筋膜	筋膜	筋膜	筋膜	筋膜	筋膜	筋膜	筋膜	筋膜	筋膜	mm	kg
001 NE	-	-	-	-	59	65.1	70	28.9	-	I	0.6	-	233.8	161.1
002 NE	-	-	-	-	1	8.8	-	-	-	-	-	-	-	6.8
003 NW	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	32.9	37.1
004 SW	-	-	-	-	34	40.8	17	8.3	-	-	-	-	31.7	64.2
005 SW	-	-	-	-	61	65.3	21	22.1	I	0.5	-	I	191.4	168.7
006 中央部分	-	-	-	2	3.6	79	101.1	64	18.	-	-	-	159.0	27.0
007 中央	I	5.4	I	12.4	-	-	91	161.1	20	22.7	I	0.6	54.0	56.1
008 中央	-	-	-	-	39	27.1	16	6.5	-	-	-	-	10.9	-
009 小口	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.1	3.0
010 小口	-	-	-	-	3	1.2	5	2.3	-	-	-	-	2.8	14.7
011 血 骨	-	-	-	-	9	8.4	20	8.9	-	-	-	-	11.5	40.7
012 骨1(OA)	-	-	-	-	6	6.3	-	-	-	-	-	-	0.2	-
013 骨2(NW)	-	-	-	2	3.5	86	119.1	100	43.2	-	-	-	159.1	265.7
014 骨3(NW/SE)	-	-	-	-	3	3.5	7	3.5	-	-	-	-	2.2	26.8
015 骨4(NW)	-	-	-	-	2	2.2	-	-	-	-	-	-	0.8	-
016 白の骨	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.9	8.0

\*足部が複数、合併が確認された。

## エ 考察

墓4から出土した人骨は白色～灰色を呈した破片で、表面に微細なひび割れが生じるなど、焼骨の特徴を示す。馬場ほか(1986)を参考にすると、人骨を焼いた際、600°C以下ではほとんど変化がなく、800°C付近では灰白色になり、収縮・硬化が見られ、歯のエナメル質が崩壊し歯冠が失われるなど、最も激しく変化するとされている。これより、本人骨は、800°C以上の高温で火葬された人骨であるとみられる。また、梅崎(2007)によると、通常の遺体をそのまま火葬した場合、横に曲がった亀裂や縦に不規則な亀裂が生じ、歪みや捻れが生じるが、白骨化させた骨を火葬すると歪みや捻れがないと述べている。本人骨は、細片化した骨が多いため断定は難しいが、横に曲がった亀裂や縦に不規則な亀裂が少ないとと思われ、白骨化させた骨を焼いている可能性がある。

地点別の出土骨の傾向についてみると、中央部や北側に集中し、西小口や東小口で少ないという特徴が窺える。ただし、本試料については、地点別に一括で採取されているため、詳細な分布および遺体の埋葬方法など詳細な検討は困難である。

また、埋葬人骨に関しては、左側頸骨錐体部が3点検出されたことから、少なくとも3体が含まれていたと判断される。さらに、頭蓋の縫合状態をみると内側・外側とも閉じてない頭蓋骨(墓4 SW:005)が認められたほか、矢状縫合において内側が閉じ、外側が開いている状態(墓4 西小口:009、墓4 骨4 NW/SW:014)も確認された。これより、壮年(20～39歳程度)よりも若い個体と熟年(40～59歳程度)の個体が含まれていると判断される。このうち、壮年(20～39歳程度)よりも若い個体については、歯根が未形成な左上顎第2大臼歯や未咬耗の左下顎切歯が墓4 中央(007)より検出された。したがって、小児前半(6～10歳前後)程度の個体が含まれていると推定される。

なお、性別に関しては、性判定を行うのに有用な部位(例えば、寛骨大坐骨切痕の形状、頭蓋の乳様突起、前頭骨隆起、眉上隆起、外後頭骨隆起など)が確認できなかったことや、細片となり大きさによる判定が難しいなどの理由から、判断には至らなかった。

## (2) 炭素・窒素安定同位体分析

### ア 試料

試料は、墓4から出土した骨片のうち、1.においてヒトの四肢骨および頭蓋骨に同定された破片である。分析には、墓4 NE(001)の四肢骨片3点(①～③)と墓4 中央(006)の頭蓋骨片2点(①, ②)を候補として抽出(図版2)し、四肢骨片1点(①)を分析対象とした。なお、分析に供した四肢骨片(①)は、後述するように、窒素同位体の値が検出限界以下となつたため、上記した5試料より頭蓋骨片1点(頭蓋骨①)についても分析を行っている。

### イ 分析方法

コラーゲン抽出、抽出したコラーゲンの炭素・窒素安定同位体比( $\delta^{13}\text{C}$ ,  $\delta^{15}\text{N}$ )の測定およびSI サイエンス株式会社の協力を得た。以下に、炭素・窒素安定同位体測定などに用いた機器を示す。

ガス化前処理装置 : Flash EA1112 (Thermo Fisher Scientific 社製)

安定同位体比質量分析計 : DELTA V Advantage (Thermo Fisher Scientific 社製)

### ウ 結果

結果を表2に示す。炭素と窒素の安定同位体比( $\delta^{13}\text{C}$ ,  $\delta^{15}\text{N}$ )は、標準試料からの偏差として示され、単位は千分率(‰)である。墓4から出土した人骨の $\delta^{13}\text{C}$ は、四肢骨①が-26.0‰、頭蓋骨①が-26.7‰、 $\delta^{15}\text{N}$ は2試料とも検出限界以下である。

### オ 考察

炭素・窒素同位体比による食性の検討は、日本各地の遺跡で出土した人骨や土器に付着した炭化物などを対象に実施され、資料が蓄積されつつある。本遺跡周辺では、安曇野市(山形町)内の犀川右岸の北村面と称される段丘面上に位置する北村遺跡の出土人骨を対象とした事例がある。小沢ほか(1993)の報告によれば、縄文時代中期～後期とされる出土人骨20個体より炭素同位体比の測定値が得られ、このうちの5個体からは窒素同位体比とともに信頼度の高い測定値が得られたとされている。さらに、この測定値と既知の食糧資源の同位体環境(図2)との対照から、C3植物の分布域に接し、重なることから、食糧資源の大部分をC3植物から摂取していたことが示唆されている。

表2. 炭素・窒素安定同位体分析結果

No.	遺構	地点	種類	部位	状態	番号*	コラーゲン		$\delta^{13}\text{C}_{\text{VPDB}}$ (‰)	$\delta^{15}\text{N}_{\text{Air}}$ (‰)	T-C (‰)	T-K (‰)
							抽出に用いた 試料重量 (g)	コラーゲン 量 (ng)				
001	墓4	NE	ヒト	四肢骨	破片	①	1.491	0.036	-26.0	ND	19.8	ND
006	墓4	中央	ヒト	頭蓋骨	破片	①	1.501	0.137	-26.7	ND	12.5	ND
							平均		-26.35	-	16.16	-

ND: 検出限界以下

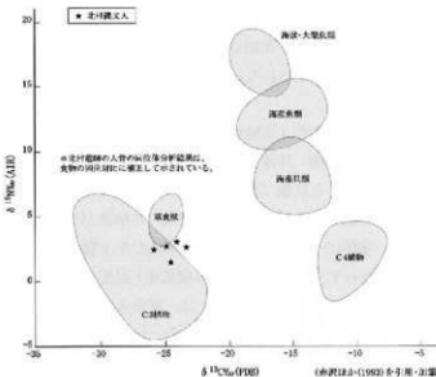


図2. 食糧資源の炭素・窒素安定同位体環境

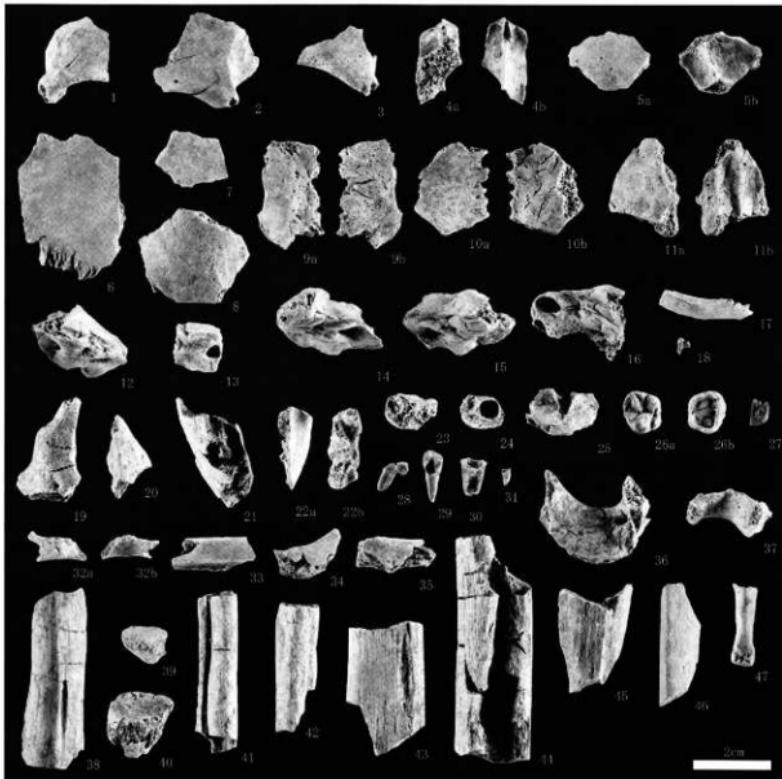
横田古墳群遺跡の櫛床木棺（墓4）から出土した人骨については、炭素同位体比（ $\delta^{13}\text{C}$ ）が-26.35‰（平均）、窒素同位体比（ $\delta^{15}\text{N}$ ）は四肢骨、頭蓋骨とともに検出限界以下であった。また、抽出されたコラーゲンの品質を確認する方法としてC/N比（炭素量、窒素量の量比）が指標とされるが、墓4の2試料は窒素量がいずれも検出限界以下であったため、その評価には至らなかった。この結果および出土骨の同定時の所見などから、墓4の人骨におけるコラーゲンは、熱変成や土壌中の埋積過程における経年劣化などの影響を受けていると推定され、得られた測定値の信頼度についても課題が残る。

なお、今回の得られた炭素安定同位体比の測定値について、仮に北村遺跡の結果（図2）と比較する場合、人骨コラーゲンと利用食物との間での同位体分別を考慮する必要がある。米田ほか（Yoneda *et al.*, 2002）に示された値では $\delta^{13}\text{C}$ が4.5‰、 $\delta^{15}\text{N}$ が3.5‰、人骨コラーゲンが利用食物と比べ高い値を示すとされる。これを参考すると、今回の結果はおおよそC3植物の範囲内にあるが、前述したようにコラーゲンの品質に課題が残るため、再検証を含めた資料の蓄積による評価が必要と考える。

## 引用・参考文献

- 赤印 威・米田 審・吉田邦夫. 1993. 北村遺跡人骨の同位体分析. 中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書11 一明町内一 北村遺跡 本文編. 財团法人長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 14 日本道路公園名古屋建設局・長野県教育委員会・財团法人長野県埋蔵文化財センター. 445-468.
- 馬場 悠介・茂原 信生・阿部 修二・江藤 盛治. 1986. 横古墳遺跡出土の人骨・動物骨. 雪山根古墳遺跡の研究 一福島県雪山町根古塚における古葬遺跡群一. 福島県雪山町教育委員会. 93-113.
- 橋崎修一郎. 2007. 火葬人骨と考古学. 独川真一編著「墓と葬送の中世」. 高志書院. 107-126.
- Yoneda, M., M. Hirota, M. Uchida, A. Tanaka, Y. Shibusawa, M. Morita, and T. Akazawa. 2002. Radiocarbon and stable isotope analyses on the earliest Jomon skeletons from the Tochibura rockshelter, Nagano, Japan. Radiocarbon 44(2). 549-557.
- 米田義典. 2004. 炭素・窒素同位体による古食性復元. 環境考古学ハンドブック. 朝倉書店. 411-418.
- 吉田邦夫・宮崎ゆみ子. 2007. 煙灰として出来た換化物の同位体分析による土器付着換化物の由来についての研究. 日本における稻作以前の主食植物の研究. 平成16-18年度科学研究費補助金 基盤研究B (課題番号 16300290) 研究成果報告書 研究代表者 西田泰氏. 85-96.

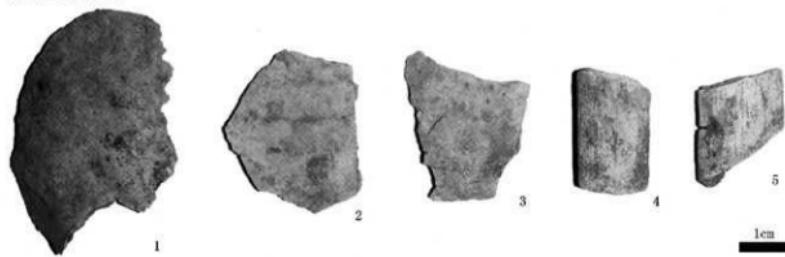
図版I 出土骨



1. ヒト前頭骨右頸骨突起(005; 露4 SW)
2. ヒト前頭骨左頸骨突起(001; 露4 NE)
5. ヒト前頭骨(013; 露3 NW)
7. ヒト頭頂骨(004; 露4 SE)
9. ヒト頭頂骨(009; 露4 西小口)
11. ヒト後頭骨?(013; 露4 NW)
13. ヒト左側頭骨椎体部(004; 露4 SE)
15. ヒト右側頭骨椎体部(001; 露4 NE)
17. ヒト側頭骨?頸骨?(013; 露4 骨3 NW)
19. ヒト右頸骨(013; 露4 骨3 NW)
21. ヒト左上頸骨(001; 露4 NE)
23. ヒト上頸骨/下頸骨(004; 露4 SE)
25. ヒト上頸骨/下頸骨(013; 露4 骨3 NW)
27. ヒト左下頸骨前面(007; 露4 中央)
29. ヒト歯牙根(露4; 露4 NE)
31. ヒト歯牙根(007; 露4 中央)
33. ヒト歯牙(001; 露4 NE)
35. ヒト歯牙(006; 露4 中央部分)
37. ヒト上顎骨後端(006; 露4 中央部分)
39. ヒト蝶骨頸(005; 露4 SW)
41. ヒト蝶骨/尺骨(001; 露4 NE)
43. ヒト人柱骨(007; 露4 中央)
45. ヒト鎖骨?(006; 露4 中央部分)
47. ヒト基節骨/中節骨(001; 露4 NE)

2. ヒト前頭骨左頸骨突起(001; 露4 NE)
4. ヒト前頭骨(004; 露4 SE)
6. ヒト頭頂骨(001; 露4 NE)
8. ヒト頸項骨(005; 露4 SW)
10. ヒト頸項骨(014; 露4 骨4 NW/SE)
12. ヒト左側頭骨椎体部(001; 露4 NE)
14. ヒト左側頭骨椎体部(013; 露4 骨3 NW)
16. ヒト右側頭骨椎体部(005; 露4 SW)
18. ヒト右上頸骨(013; 露4 骨3 NW)
20. ヒト頸骨?(011; 露4 東骨)
22. ヒト下頸骨(013; 露4 骨3 NW)
24. ヒト上顎骨/下顎骨(006; 露4 中央部分)
26. ヒト左上顎第2大臼齒齒冠(007; 露4 中央)
28. ヒト大臼齒齒根(006; 露4 中央部分)
30. ヒト側臼齒根(006; 露4 中央部分)
32. ヒト第1頸椎前結節(013; 露4 骨3 NW)
34. ヒト肋骨(001; 露4 NE)
36. ヒト右肩甲骨(007; 露4 中央)
38. ヒト上腕骨?(012; 露4 骨1 NE)
40. ヒト橈骨首頭(006; 露4 中央部分)
42. ヒト橈骨/尺骨(004; 露4 SE)
44. ヒト肩骨(007; 露4 中央)
46. ヒト脛骨?(013; 露4 骨3 NW)

図版2 分析試料



1. 頭蓋骨 破片(頭蓋骨①;墓4 NE)
2. 頭蓋骨 破片(頭蓋骨②;墓4 NE)
3. 頭蓋骨 破片(頭蓋骨③;墓4 NE)
4. 四肢骨 破片(四肢骨①;墓4 中央部分)
5. 四肢骨 破片(四肢骨②;墓4 中央部分)

## 第IV章 総括

横田古墳遺跡を2度にわたり調査を行った。本報告分では遺跡の一部を調査したにすぎないが、弥生時代中期後半から後期にかけて営まれていた集落の一部と墓地が確認された。発見された礫床木棺墓のうち1基は県下で大型に分類される規模をもつものである。本章では、礫床木棺墓の構築過程・出土人骨、弥生時代中期を中心とした集落立地を概観し、居住域と墓域との認識について触れ、1・2次にわたる調査成果を概説的にまとめて総括とする。

### 第1節 磯床木棺墓

今回の調査で検出された礫床木棺墓の構築過程を以下の9つに分けて工程毎の考察を行った。

- (1)木棺規模に合わせた埋葬施設の設計をする⇒(2)木棺埋設土坑を掘削⇒(3)小口穴の掘削⇒(4)礫床を設ける⇒(5)木棺安置⇒(6)木棺の小口板を固定するため裏込め石及び土砂を詰める⇒(7)土坑内の木棺周間に礫を込める⇒(8)土坑周間に帯状に礫を配置する⇒(9)埋葬部全体を覆うように土塼で盛土を施す

(1)：墓1～3の小口穴は土坑の短軸とほぼ同幅を測り、長軸の端部に位置することから、木棺規模に拠る設計がなされているとみて良いだろう。対する墓4は礫集積の状況から他墓と同規模の木棺が想定されるが、土坑設計が木棺規模に拠らない。また、礫集積や骨片の出土状況から、墓4のみ長大な木棺が安置されていた可能性は低いと考えられる。

(2)：墓1・3は土坑自体が掘り込みをほとんど持たない。墓2は30cm、墓4は45cmほどの深さを持つ土坑を掘削している。前述したように、上部が削平された可能性が高い以上墓2・4の方が手間をかけていることになる。

(3)：深さは10cm未満の穴がほとんどで、4基にはそれほど大きな違いがみられない。礫床敷設や礫集積、盛土を施すことで固定を図っていたのだろう。墓3は比較的幅広な小口穴が検出されている。

(4)：墓4の礫床は30cm以上の厚みを持ち、他墓よりも厚く構築されている。木棺の上部に配置されていた礫が落ち込んだと仮定することもできるが、推定木棺位置の周囲も同様の厚みを持つことから、中央部分のみ陥没した礫が堆積した状況とはい難い。従って、初期構築時に厚みのある礫床を設けたと推測される。

(5)：いずれの墓も側面・小口面の木材を最低2つずつ以上に、蓋板を構築した礫床組合式木棺を想定している。

(6)：裏込め石の存在は確かではない。各墓から小口穴内に落ち込む礫が確認されてはいるが、木棺が朽ちた後の流れ込みの可能性が十分に考えられるためである。そこまでの追求は本調査では成し得なかった。

(7)：墓1は掘り込みを持たない代わりに、木棺周囲に礫集積を行って固定したと考えられる。墓2は隙間を埋める様な感覚で木棺周囲に礫を充填させていた。墓3は木棺周囲に礫集積が認められず、墓1と同様に掘り込みを持たないため、組合式木棺のような構築方法で長軸の板を固定したか、側部は固定に礫を用いて構築したと推測される。墓3は小口穴の形態を踏まえると、土坑内にゆとりを持たせることなく、木棺が構築されたと考えるべきであろうか。その点、墓4は推定木棺位置から土坑掘方まで十分なゆとりを持って構築されている。

(8)：礫配置の形態は大きく2つに分類することができる。遺体安置場とした棺床面に礫集積をもつことは共通するが、墓1・2・4は土坑の長軸両端に礫集積を配するとともに、側部にも礫集積をもつ形態をとる。墓3は土坑を抉むように長軸両端にのみ礫集積をもつ形態をとり、比較的簡素な仕上がりに造られ、木棺に礫を積載させていたことも考えられる。前者においては、墓4の土坑周間及び棺床面の礫集積の密度等が墓1・2を凌駕している。墓1～3に比べ、墓4は特に礫の粒径も考慮して丁寧に構築されたことが窺われる。土坑周囲から検出された礫集積の存在から、後世に遺構上部が削平された状態で検出されたとは考え難い。

(9)：埋葬部の最終的な形態は上まんじゅうのような塚状を呈していたと推測される。遺跡周囲には礫も豊富に在ることから土礫混合で盛り上げたと考えられ、墓4のみは墓標と推定される巨礫が遺存していた点が挙げられる。

この巨礫は棺床面に接するように出土しており、これは木棺に蓋板が設けられ、中に空間が存在することを示唆するものではないか。ひいては墓標の原位置は厚く堆積した盛土上ではなく、木棺直上に立てられていたと推測される。周囲の礫集積は、墓域であることを明確にするために盛土の縁に配置したものと考えることもできる。

以上、9つの工程の内(1)(2)(4)(7)(8)(9)には差異が認められる。構築方法の観点に捉ると、墓4は集団墓の中で一線を画している墓として位置付けることが妥当であり、墓1~3はその形態造から墓4に対する陪冢の可能性を考慮せねばならない。

集団墓内において「埋葬時の手間=被葬者の階級」とは必ずしも成立するとは限らないが、厚葬の度合いが被葬者の何らかの差異を表現するものである場合、『墓4>墓2>墓1>墓3』という図式が成り立つと考えられる。なお、出土遺物の面では盜掘の可能性も考慮せねばならないが種類・量とともに墓4が突出しているわけではない。

今後、礫床木棺墓を調査する際の追求の方向性は以下のとおりであろう。

#### (ア) 磚床木棺墓の構築～埋葬過程の復元

⇒1次調査は諸般の制約があったため、記録に時間をかけることができなかつた（墓内出土骨片の詳細な位置や、構成する礫の石材検討等は一切行えなかつた）。そのため、今回の考察には不確かな部分が多い。今後、市内で発見される礫床木棺墓の調査に期待したい。

#### (イ) 墓制の差異と規格の差異

→墓制の形態・規格による差異を出土人骨・出土遺物等を踏まえた上で解説・検討を行っていく。

→集団墓内で墓制の差異が認められた場合、形態・規格による優劣を普遍的に捉えても問題がないのか。

→礫床木棺墓という特異な埋葬形態の位置付け。

#### (ウ) 磚床木棺墓に葬られた小児骨の評価

⇒5歳以上で既に成人と同様、つまり礫床木棺墓を埋葬形態にとる事例が既に報告されている<sup>10)</sup>。

本遺跡の第4号礫床木棺墓出土の人骨は科学分析の結果から最小個体数で3個体が数えられた。埋葬方法や埋葬頭位、性別に關しては判別が困難であったものの、分析結果から3個体は小児前半(6~10歳)・壯年(20~39歳)・熟年(40~59歳)の3世代にわたる年齢差があることが判明した。木遺跡の礫床木棺墓の構築復元の考察からは、追葬ではなく、同時埋葬が行われたものと推測されるのだが、試料を一括で回収しているが故に埋葬状態の復元にまでは至れなかった。

同時に埋葬を前提とした場合、年齢差を踏まえると、何らかの事情によってほぼ同時期に亡くなった血縁関係を有する同族ともみることができる。なお、追葬を前提とした場合、盛土は比較的簡易的なものであったと考えざるを得ないが、埋葬状況・出土地点等の情報が不足しているためこれ以上の憶測は差し控えることとする。

#### (エ) 安定同位体比からみる食性分析

炭素・窒素安定同位体比分析とは骨からコラーゲンを抽出して、そのコラーゲン中の炭素・窒素の同位体比を測定、食性復元を試みる科学分析である。食性はC3植物・C4植物・草食獣・海獣・大型魚類・海産魚類・貝類の6つのグループに大きく識別される。

C3植物とは一般的な光合成をおこなう植物で、イネ、ムギ等の穀物やクリ、クルミ等の木本、ソバなど、植物のほとんどがC3植物に含まれる。C4植物にはアワ、ヒエ、キビ等の雑穀、トウモロコシ、サトウキビ等が含まれる。両者は炭素安定同位体比で容易に識別できることが知られている。

今回の科学分析の結果、残念ながら窒素安定同位体比において信頼できる値を測定することが叶わなかった。炭素安定同位体比の数値を見る限りは、C3植物を主たるエネルギー源としていたことが窺え、陸上の動植物資源の摂取が高かったと推定される。しかし、既述している通り、窒素も含めた測定値の指標が試料の評価とされており、得られた炭素同位体比測定値の信頼度についても課題が残る結果となってしまった。今後、本人骨の再検証を含めて松本盆地内の試料の蓄積を期待したい。

## 第2節 集落と墓

### 1 松本市内の縄文中期から古墳中期までの集落変遷（第7図）「遺跡名」はゴシック体で「遺跡」は省略している。

松本市内は旧石器時代に比定される遺物が各地で採集されているものの、今のところよくわかつておらず、縄文時代に入つても住居址が散見する程度の希薄な分布状況しか把握できていない。

縄文中期になると爆発的人口が増え、後続する後晩期までは集落址の調査事例数が増加する。拠点集落は北から大村～堀の内～坪ノ内～小池・一ツ家・エリ穴～川西開田と標高650mに沿つて展開する。

晩期末～弥生前期は人口減少傾向にあって小規模な集団が移住を繰り返していたからか、それまでみられていたような拠点的な集落は未だ発見されていない。

過渡期に一度微減した集落が各地で繁榮するのは水稻農耕が普及する弥生時代中期に入ってからである。市内ではこの頃から弥生式土器が主体的に使われるようになり、これが松本での弥生時代の幕開けである。

水稻農耕開始期は低湿地を利用して営んでいたムラが各地に点在していて、集落密度や人口密度は希薄だったと想像される。その分布は城山から標高600mの等高線に沿う様に宮測本村～沢村～岡の宮～横田古屋敷～県町～出川南と円を描くように中山丘陵の突端部に至るまで点在する。この集落分布から水稻農耕開始期から弥生時代中期後半までは標高600m以下に存在する低湿地を主に利用していたと考えられる。

その後、安定した食料供給に伴つて人口が爆発的に増加する。それまでの水田域では『需要>供給』となってしまうため、土木技術向上と農地拡大を模索し、弥生後期から古墳時代にかけての集落は縄文時代以来、數百年の空白期間を置いて標高650m付近に形成し直すように、各地に展開されていくことになる。

次に、縄文中期から時代を追つて本遺跡を含む女鳥羽川・薄川流域内の遺跡をみていきたい。

縄文中期は堀の内、大村塙田、柳田などが拠点集落として挙げられる。しかし、続く後晩期に比定される遺跡の発見がぐっと少なくなる。

縄文晚期の十器は女鳥羽川流域では岡田町、柳田、女鳥羽川等から、薄川流域では南方、神田、鎌田等から発見されているが、いずれの遺跡からも該期の集落址は発見されていない。両流域内では縄文後期を含めたとしても、薄川左岸山裾の緩斜面に立地する林山腰から後期の柄鏡式敷石住居址が発見されているばかりである。

縄文晩期末から弥生時代前期にかけて営まれていたと考えられる集落（弥生前期に比定される十器が上体的に用いられている集落は小規模なものが点在していたからか、未だ発見はされていない）は女鳥羽川・薄川の氾濫を受け、定期的な移住を余儀なくされていたと推測され、弥生中期後半に至るまで、つまり水稻農耕が本格化されるまでは拠点的な集落は成し得なかった。

弥生中期後半になると両河川の氾濫が落ち着き、肥沃になった土地利用するために横田古屋敷・岡の宮・県町・宮測本村・沢村に集落を構え、安定した食料供給によって人口増加傾向になる。古墳時代には土木技術の上達もありまつて、それまで耕作することが困難であったであろう大村～堀の内の背後に存在する山裾低地帯周縁へと生産力不足を補うために農地拡大を図つて集結し、大規模集落を形成する。そのほか、千鹿頭北も拠点集落の一つとして選ばれ、宮測本村・県町では規模がいくらか縮小するが古墳時代に入っても集落が継続する。標高650m付近が専ら集落立地の中心になることは桜ヶ丘古墳・妙義山古墳・針塚古墳などの古墳時代中期の円墳群の存在が物語っている。

### 2 弥生時代の墓制

松本市内の縄文末から弥生終末までの代表的な墓址は時期を追つてみて行くと以下の遺跡が挙げられる。

縄文晩～弥生初：高畠（上器棺墓が2つ検出されるが、住居址は無い。土坑は発見された）

エリ穴（上器棺墓）後晩期に帰属する墓址

弥生前：針塚（再葬祭）5基の上器棺墓が発見され16個体の壺蓋が出た。住居址は無い。

中期中頃：境窪（礫床木棺墓、十器棺墓、上坑墓）住居址群の東縁に礫床木棺墓等の墓域が検出された。

比較的位置関係は近く、礫床墓と直近の住居址との距離は5m余りを割る。

中期後半：横田古屋敷（礫床木棺墓）

後期：宮測本村（礫床木棺墓、十器棺墓）中期末の住居址を破壊して構築される。5c末に直近に円墳が築かれる。

平畠（方形周溝墓）4基発見されている。場所は弘法山古墳に非常に近く、北西の側に位置する。

白神場（方形周溝墓）は出土遺物からは判断しかねるため、類例・形態から後期に位置付けられている。

弥生中前の土坑は発見されたが、住居址は無い。）

弥生末～古墳初：弘法山古墳（前方後方墳、本古墳築造時から松本市は古墳時代となる）

前項で述べたような集落変遷の中、大型礫床木棺墓を構築した集団はこの地にこだわり続けることをしなかつた。本遺跡中に墓域が構築されたことの意義をどこに求めるべきか。礫床木棺墓群は絶対的な数でこそ少ない発見ではあったが、墓4の規模は異様である。存在自体が別格と言える方形周溝墓とはまた違って、一集団墓内において明瞭な差が誰の目にみても明らかな非常に分かりやすい例であると言えよう。

### 3 墓域と居住域

今回の調査では居住域と墓域が近接して検出されていることが特徴の一つとして挙げられ、1住と5件の中間に礫床木棺墓群が位置するように造営されていた。既述したように、これは少なくとも2つ以上の住居址群の存在を示唆するものである。出土遺物から勘案すると礫床木棺墓は2住～7住、建物址と同時期に構築されたものと推測される。住居址群とは25～30m程距離をとっており、集落縁辺の住居址とそれに附隨する墓域と捉えて問題はないだろう。

しかし、礫床木棺墓に非常に近い位置に1住が検出されており、礫床木棺墓は盛上工法で構築されていたと推測されるため、重複して築かれていたことになってしまふが、地床炉を有することから生活空間であったと考えられる。住居址内出土遺物は中期後半に帰属するものが多いが後期に比定される上器が出土していることや、遺構形態も後期に多くみられる形状であること等から弥生時代後期に埋没したと考えたい。

住居址を構築する際、既に墓としての認識がなかったのであれば、とるにたらない問題とも言えるべきことだが礫床木棺墓に埋葬が行われたと想定される弥生時代中期後半から1住埋没時期までの時間幅では墓域としての認識がまだあったと考えられる。今回の調査結果からはこれ以上の追究は難しいため、今後類似するケースが発見されることを期待したい。

## 第3節まとめ

今回の横田古屋敷遺跡の調査において次の成果を得ることができた。

1 穴式住居址、掘立柱建物址、平地式建物址が発見され、弥生式上器・石器の良好な遺物を得ることができた。出土遺物から弥生時代中期後半を上とする集落（一部後期初頭の上器が混じる遺構が存在する）、墓制などを明らかにすることができた。

2 集落に付隨すると考えられる4基の礫床木棺墓が発見された。内1基は2.8×2.1mを測る大型墓址である。比較的小規模な他3基の礫床木棺墓は匂の字状に配置されており、構築場所・主軸方位にも何らかの意図があるのだろう。これらの礫床木棺墓群は墓4の存在から集団墓の中に形態の差異が明らかに認められる段階にあたり、弥生時代墓制の変遷上で第2段階に相当するものと考えられる。

3 成人・未成人を問わずに礫床木棺墓に埋葬されているという、前例に合致するように本人骨中にも小児骨が含まれていた。

4 対象地北西部に設定したトレンチ内は奈良・平安時代の遺物包含層が発見されたに止まり、弥生時代包含層及び遺構は古代以降の洪水によって破壊されている状況が検出されたため、岡の宮遺跡・女鳥羽川遺跡までの

弥生集落の連続性を追うことはできなかった。しかし、直線距離約200mで遺構検出面の比高が1~2m、出土遺物が同時期であることなどから勘案すると互いの集落の関連性を推測するには十分な資料が得られた。

5 次調査地においては、古墳時代前~中期に帰属すると推測される土器集中や、平安時代に埋没した井戸址などが発見された。標高値が比較的近似する、南方の岡町遺跡、西方の沢村遺跡との関連性も窺いながら、弥生時代以降の横田古屋敷遺跡像について追究していく必要があるだろう。

以上、今回の調査では西に位置する女鳥羽川遺跡、岡の宮遺跡と連続性を持つ大規模集落であるという結論を導きだすには資料が乏しい結果となってしまったが、古代以降の洪水性堆積物が遺跡間に確認されたことから、旧女鳥羽川の流路の1つが岡の宮遺跡との間に流れていたことが判明した。そうした中で1基の礎床木棺墓が発見され、集落内に存在する墓域の一端を垣間見ることができたのは大きな成果である。礎床木棺墓の1基は2.8×2.1mを測る県下最大級の墓址であることにも注目したい。

なお、本書作成中に出川南遺跡第17次発掘調査で礎床木棺墓が発見された。墓内からの遺物の出土は希薄ではあるが、同検出面の遺構分布の状況から弥生時代中期後半~後期に帰属するものと考えられている。出川南遺跡の墓域は構成する要素が木造跡とは違い、円形周溝墓、土器棺墓、木棺墓、土坑墓等が密集する墓址集中地帯から1基の礎床木棺墓が発見されており、若干離れた位置からは方形周溝墓も発見されている。今後の整理・検討によって、本報告とは違った礎床木棺墓像が明らかになっていくだろう。

#### 【注】

- (1)『推定信濃国府』の分布調査で下水道工事の跡より多量の赤土器が採取されている。土器の含まれていた黒色土層は底盤部に認められ、女鳥羽川河川内の女鳥羽川遺跡(縄文後期)でも検出されている。
- (2)『推定信濃国府』や『松本市史研究 第2号』等で「元田駿遺跡」として本遺跡が記載されている。
- (3)『松本市史 第4章 弥生時代の生活と文化』を参考に記述した。
- (4)『竪溝遺跡』で長方形のピットで構成された平地式遺跡が確認されており、2本理の柱穴を組み合わせて一つの柱穴に立てた柱果としている。
- (5)『竹原遺跡II』で掘溝のみが検出され、報告書内「第1章 法とめ」に現状の状況についての考察がなされているので参照されたい。
- (6)軽末墓は長野県と群馬県にみられる特異な埋葬形態であり、群馬県有馬遺跡では4歳以下の乳児は土器棺墓に、5歳以上は木棺と成人を問わず墓床裏に埋葬されているという結果がでている。

#### 【参考文献】

- 長野県 1983 「長野県史」考古資料編 全1巻(三) 主要遺跡(中古)  
松本市教育委員会 1983 「推定信濃国府」  
(財)長野県埋蔵文化財センター 2000 「『信越自動車道堀尾IC文化財発掘調査報告書6 - 長野市内 その3 松原遺跡』」  
立井雅尚 1992 「松本市域における弥生時代以降の開発と遺跡立地」『松本古史研究』第2号  
松本市教育委員会 1996 「竹原遺跡II」  
松本市 1996 「松本市史」歴史I 原始・古代・中世  
松本市教育委員会 1998 「焼却遺跡 川西開田遺跡I・II」  
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2004 「群馬の遺跡」3 弥生時代  
久田正弘 2007 「弥生住居の想定復元」『石川県埋蔵文化財情報』第18号



1次A区 全景（南から）

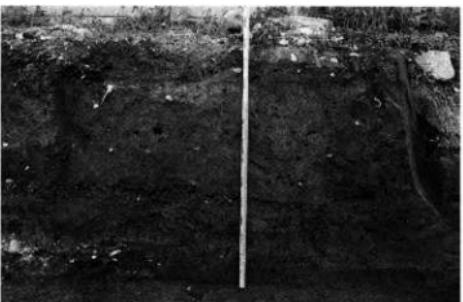


写真図版 1

2次A区 全景（南から）



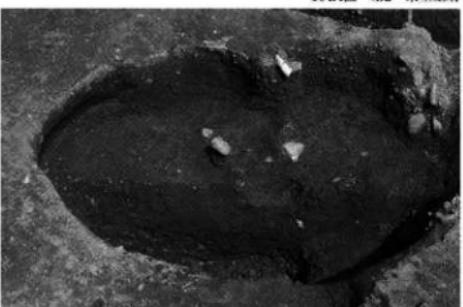
1次A区 建1 北壁土層



1次A区 建2 東壁土層



2次B区 東壁土層断面



2次B区 土16土層断面



大規模試掘調査T1東壁土層断面



大規模試掘調査T1南壁土層断面



2住 出土品状況 (南から)



2~4住 完掘状況 (南から)



墓1 置出土状況（南から）



墓1 置出土状況（西から）



墓1 置出土状況（北から）



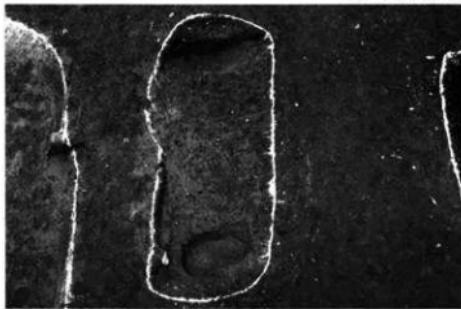
墓1 半截



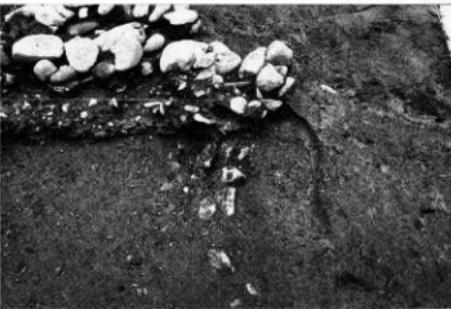
墓1 半截（南から）



墓1 半截 南小口



墓1 完掘状況



墓1 半截 北小口



墓2 種検出状況（東から）



墓2 種検出状況（南から）



墓3 種検出状況（北から）



墓4 種検出状況（北から）



墓3 東部種検出状況



墓4 覆土除去後（北から）



墓3 西部種検出状況



墓4 覆土除去後（北から）



墓4 磨検出状況（西から）



墓4 巨礫検出状況



墓4 費土除去後（西から）



墓4 完掘状況（西から）



平成元年 航空写真



同左地図（●が調査地）

長野県松本市 横田古屋敷遺跡第1・2次発掘調査 報告書抄録

---

松本市文化財調査報告 No.209  
長野県松本市  
**横田古屋敷 第1・2次**  
-発掘調査報告書-  
発行日 平成24年3月30日  
発行者 松本市教育委員会  
〒390-8620  
長野県松本市丸の内3番7号  
印刷 株式会社 二光印刷

---

